

**第24回**  
**幸田町住民意識調査**  
**報告書（案）**

**令和7年2月**

**幸田町**



# 目次

第1章 調査の概要.....	1
1 調査の目的 .....	2
2 調査方法 .....	2
3 報告書の見方 .....	3
第2章 回答者の属性.....	5
1 性別（問1） .....	6
2 年齢（問2） .....	7
3 職業（問3） .....	8
4 家族構成（問4） .....	9
5 同居する家族（問5）.....	10
6 小学校区（問6） .....	11
7 居住年数（問7） .....	12
第3章 継続調査結果 .....	13
1 町政への関心（問8） .....	14
2 関心がある理由（問8-1） .....	17
3 関心がない理由（問8-2） .....	20
4 町政の情報源（問9） .....	23
5 総合計画各施策の満足度・重要度（問10） .....	26
6 総合計画各施策の優先度（問11） .....	36
7 幸田町に住み続けたいか（問12） .....	39
8 幸田町のよいところは（問13） .....	42
9 幸田町の悪いところは（問14） .....	45
第4章 日常生活における行動・意識調査結果 .....	48
1 日常生活における行動・意識（問15） .....	49
2 この1年間の学習の形式（問16） .....	53
3 この1年間のスポーツ実施状況（問17） .....	55
第5章 ICT（情報通信技術）の活用についての調査結果 .....	56
1 インターネットを利用する際の端末（問18） .....	57
2 ICTを使った行政サービスのうち充実していくべきこと（問19） .....	58
第6章 感染症等の影響についての調査結果.....	59
1 新たな感染症対策として重点的に実施してほしい施策（問20） .....	60

第7章 公共交通に関する調査結果 .....	62
1 公共交通の利用のしやすさ（問 21） .....	63
2 新しい移動手段の認知度（問 22-1） .....	70
3 新しい移動手段の利用意向（問 22-2） .....	74
第8章 人口減少対策についての調査結果 .....	81
1 町が取り組むべき人口減少対策について（問 23） .....	82
2 人口減少や少子高齢化の影響について（問 24） .....	85
3 人口減少対策としてどのような施策が有効か（問 25） .....	87
第9章 自由意見 .....	88
資料 調査票 .....	89

# 第 1 章 調査の概要

## 1 調査の目的

町政に対する町民の意識と評価を把握し、町政運営の基礎資料とするものです。

## 2 調査方法

### (1) 調査対象

18 歳以上の町民 2,000 人

(令和 6 年 9 月 1 日時点での総人口 42,103 人 うち 18 歳以上 90 歳未満人口 33,577 人)

### (2) 抽出方法

無作為抽出

### (3) 調査方法

郵送による調査票の配布

回収は、紙（郵送）による回答と Web ページからの回答のいずれかを選択

### (4) 調査期間

令和 6 年 10 月 8 日（火）～令和 6 年 11 月 7 日（木）

### (5) 回収状況

		紙（郵送）による回収	Web による回収
回収結果	抽出数	2,000	
	回収数	920	361
	有効回答数（率）	920（46.0%）	355（17.8%）

### (6) 調査項目

- ・ 回答者の属性について（7 問）
- ・ 町政への関心について（2 問）
- ・ 町政の情報源について（1 問）
- ・ 総合計画の各施策の満足度と重要度、優先度について（2 問：42 施策分）
- ・ 幸田町での定住意向、よいところ・悪いところについて（3 問）
- ・ 日常生活における行動・意識について（3 問）
- ・ ICT（情報通信技術）の活用について（2 問）
- ・ 感染症等の影響について（1 問）
- ・ 公共交通に対する評価と新たな移動手段の検討・導入について（2 問）
- ・ 人口減少対策について（3 問）

### 3 報告書の見方

- ・ 結果は百分率で表示してあります。小数第2位を四捨五入したため、比率の合計が100%にならない場合があります。
- ・ 複数回答の合計は100%を超えます。
- ・ 二重回答は無効回答としました。



## 第2章 回答者の属性

(問1～問7)

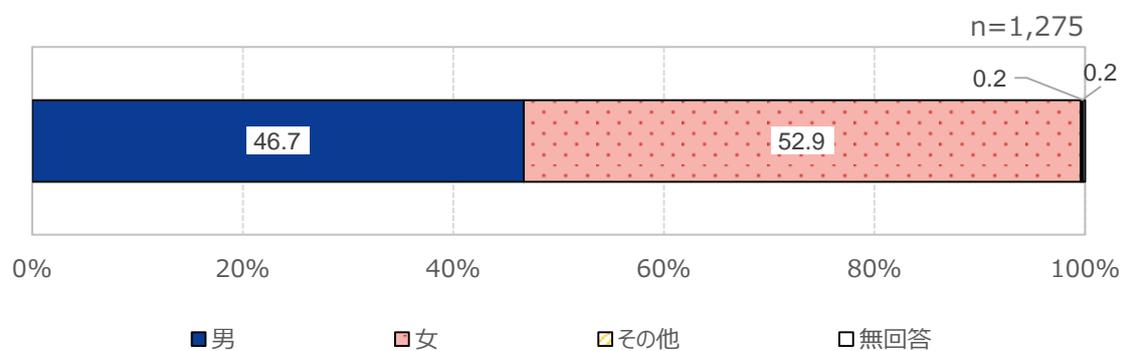
## 1 性別 (問 1)

回答者の性別の割合は、「男」が 46.7%、「女」が 52.9%となっています。

表 1 回答者の性別

	件数	%
男	595	46.7%
女	675	52.9%
その他	2	0.2%
無回答	3	0.2%
合計	1,275	100.0%

図 1 回答者の性別



## 2 年齢（問2）

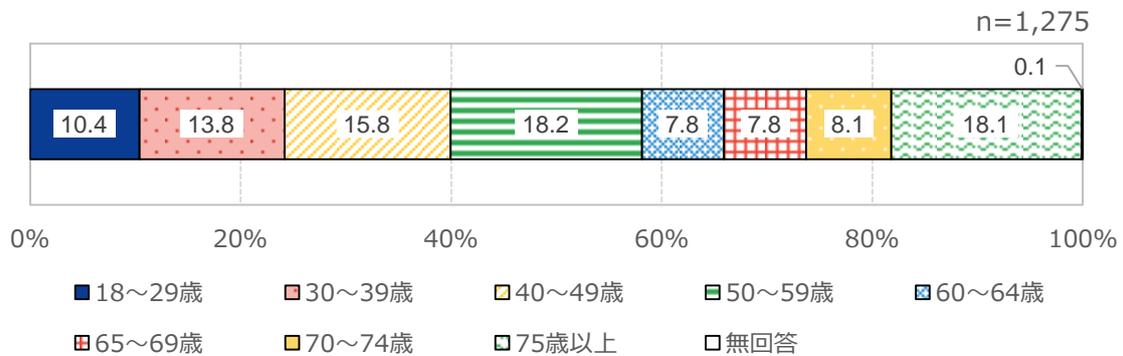
回答者の年齢別の割合は、「50～59歳」が18.2%と最も高く、次いで、「75歳以上」が18.1%、「40～49歳」が15.8%と続きます。

また、「65歳以上（65歳～69歳、70～74歳、75歳以上の合計）」が34.0%となっており、高齢者層が3割を超えています。

表 2 回答者の年齢

	件数	%
18～29歳	132	10.4%
30～39歳	176	13.8%
40～49歳	202	15.8%
50～59歳	232	18.2%
60～64歳	99	7.8%
65～69歳	99	7.8%
70～74歳	103	8.1%
75歳以上	231	18.1%
無回答	1	0.1%
合計	1,275	100.0%

図 2 回答者の年齢



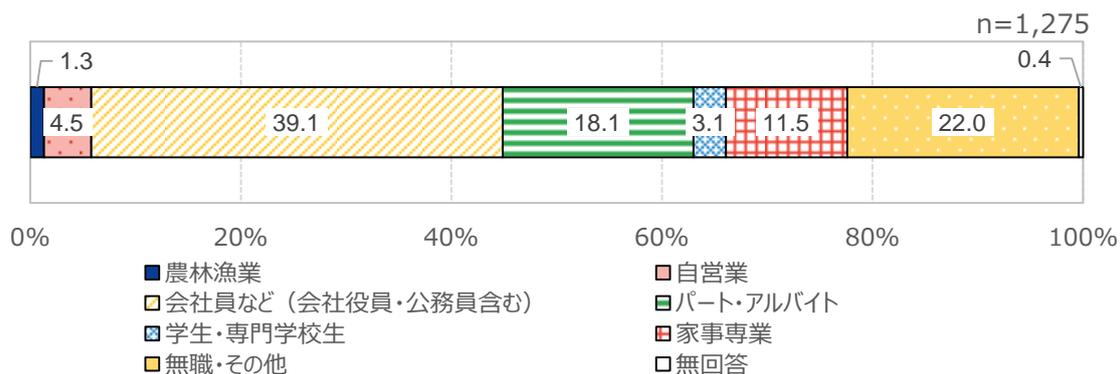
### 3 職業（問3）

回答者の職業別の割合は、「会社員など（会社役員・公務員含む）」が39.1%と最も高く、次いで「無職・その他」が22.0%、「パート・アルバイト」が18.1%、「家事専業」が11.5%と続いています。

図 3 回答者の職業

	件数	%
農林漁業	17	1.3%
自営業	58	4.5%
会社員など（会社役員・公務員含む）	498	39.1%
パート・アルバイト	231	18.1%
学生・専門学校生	39	3.1%
家事専業	146	11.5%
無職・その他	281	22.0%
無回答	5	0.4%
合計	1,275	100.0%

表 3 回答者の職業



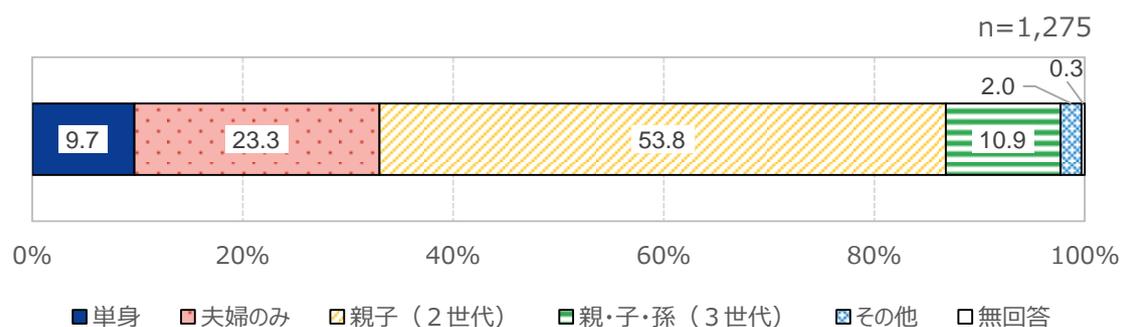
#### 4 家族構成（問4）

回答者の家族構成は、「親子（2世代）」の割合が53.8%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が23.3%、「親・子・孫（3世代）」が10.9%となっています。一方、「単身」は9.7%となっています。

表 4 回答者の家族構成

	件数	%
単身	124	9.7%
夫婦のみ	297	23.3%
親子（2世代）	686	53.8%
親・子・孫（3世代）	139	10.9%
その他	25	2.0%
無回答	4	0.3%
合計	1,275	100.0%

図 4 回答者の家族構成



## 5 同居する家族（問5）

同居する家族は、「65歳以上の方」とした人の割合が、34.7%と最も高くなっています。

次いで「小学生・中学生」と同居する人は19.8%、「小学校入学前の子」と同居する人は10.6%、「中学校卒業以上18歳未満の子」と同居する人は8.8%となっています。

また、「障害者手帳を所持されている方」と同居する人が10.7%、「介護を要する方」と同居する人は6.0%となっています。

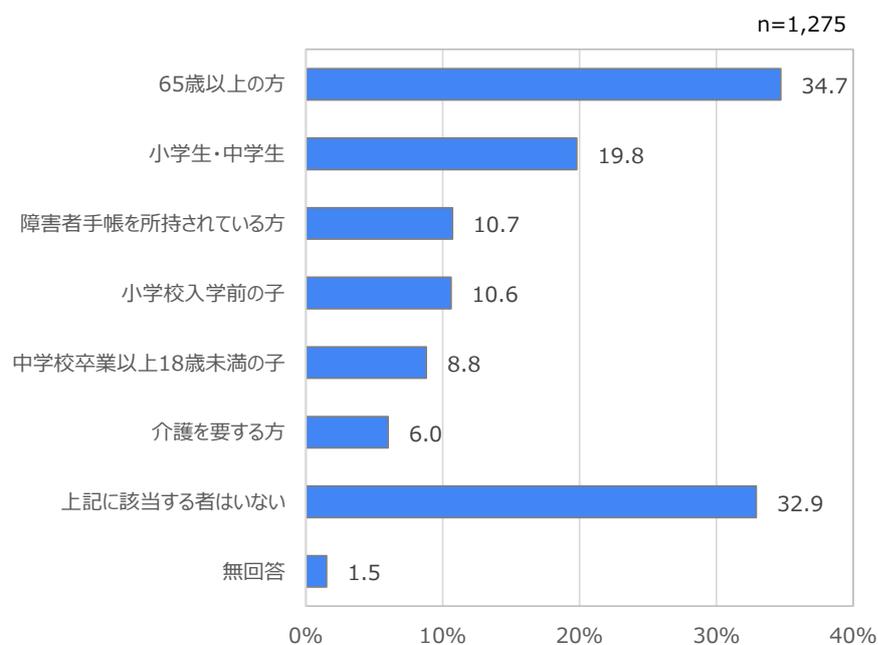
なお、「上記に該当する者はいない」は32.9%です。

表 5 同居する家族（本人を含む）（複数回答）

回答者数：1,275人

	件数	%
65歳以上の方	442	34.7%
小学生・中学生	252	19.8%
障害者手帳を所持されている方	136	10.7%
小学校入学前の子	135	10.6%
中学校卒業以上18歳未満の子	112	8.8%
介護を要する方	77	6.0%
上記に該当する者はいない	419	32.9%
無回答	19	1.5%
合計	1,592	

図 5 同居する家族（本人を含む）（複数回答）



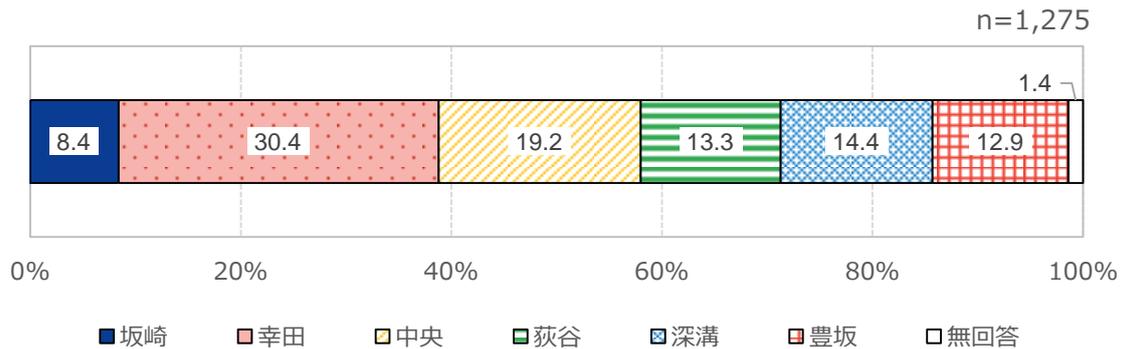
## 6 小学校区（問6）

回答者の小学校区では、「幸田」とした人の割合が30.4%と最も高く、次いで「中央」が19.2%、「深溝」が14.4%、「荻谷」が13.3%、「豊坂」が12.9%、「坂崎」が8.4%となっています。

表 6 回答者の小学校区

	件数	%	【参考】人口割合
坂崎	107	8.4%	8.5%
幸田	388	30.4%	28.5%
中央	245	19.2%	20.7%
荻谷	169	13.3%	13.9%
深溝	184	14.4%	14.9%
豊坂	164	12.9%	13.4%
無回答	18	1.4%	—
合計	1,275	100.0%	

図 6 回答者の小学校区



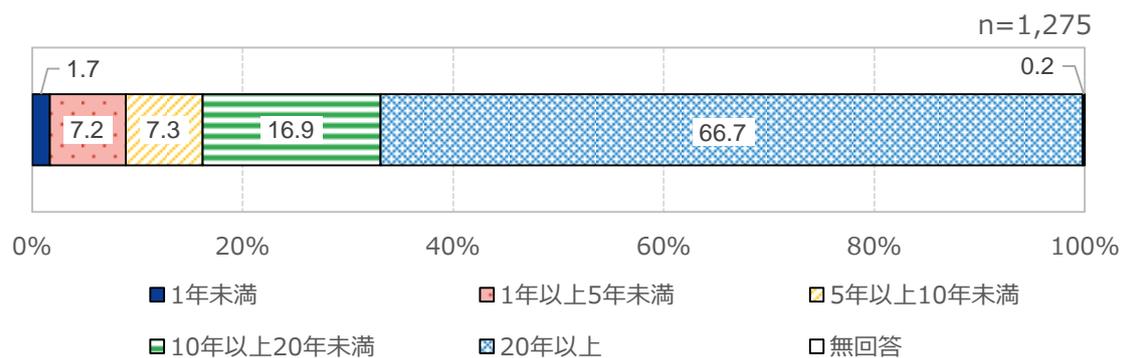
## 7 居住年数（問7）

回答者の居住年数では、「20年以上」とした人の割合が66.7%で最も高く、次いで「10年以上20年未満」が16.9%、「5年以上10年未満」が7.3%、「1年以上5年未満」が7.2%、「1年未満」が1.7%となっています。

表 7 回答者の居住年数

	件数	%
1年未満	22	1.7%
1年以上5年未満	92	7.2%
5年以上10年未満	93	7.3%
10年以上20年未満	216	16.9%
20年以上	850	66.7%
無回答	2	0.2%
合計	1,275	100.0%

図 7 回答者の居住年数



## 第3章 継続調査結果

(問8～問14)

## 1 町政への関心（問8）

町政への関心については、「多少関心がある」が51.5%と最も高く、次いで「あまり関心がない」が28.1%となっています。

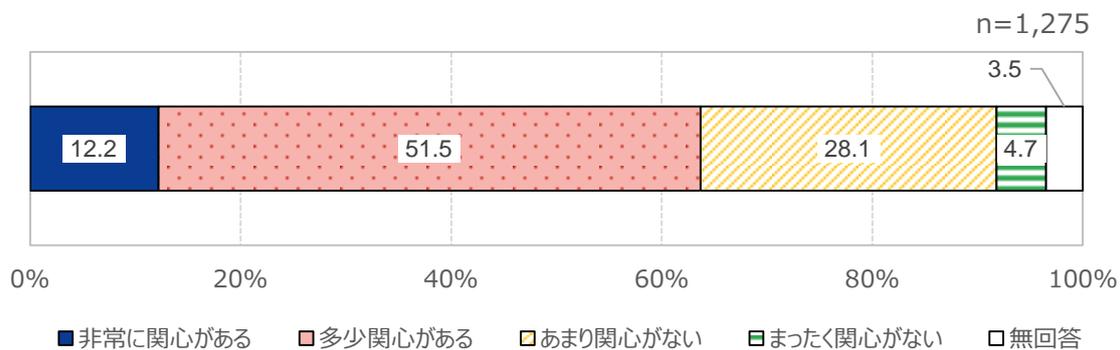
「非常に関心がある」（12.2%）と「多少関心がある」（51.5%）を合わせた“関心がある”とした人の割合は、63.7%となっています。

一方、「あまり関心がない」（28.1%）と「まったく関心がない」（4.7%）を合わせた“関心がない”とした人の割合は32.8%となっています。

表 8 町政への関心

	件数	%
非常に関心がある	156	12.2%
多少関心がある	656	51.5%
あまり関心がない	358	28.1%
まったく関心がない	60	4.7%
無回答	45	3.5%
合計	1,275	100.0%

図 8 町政への関心

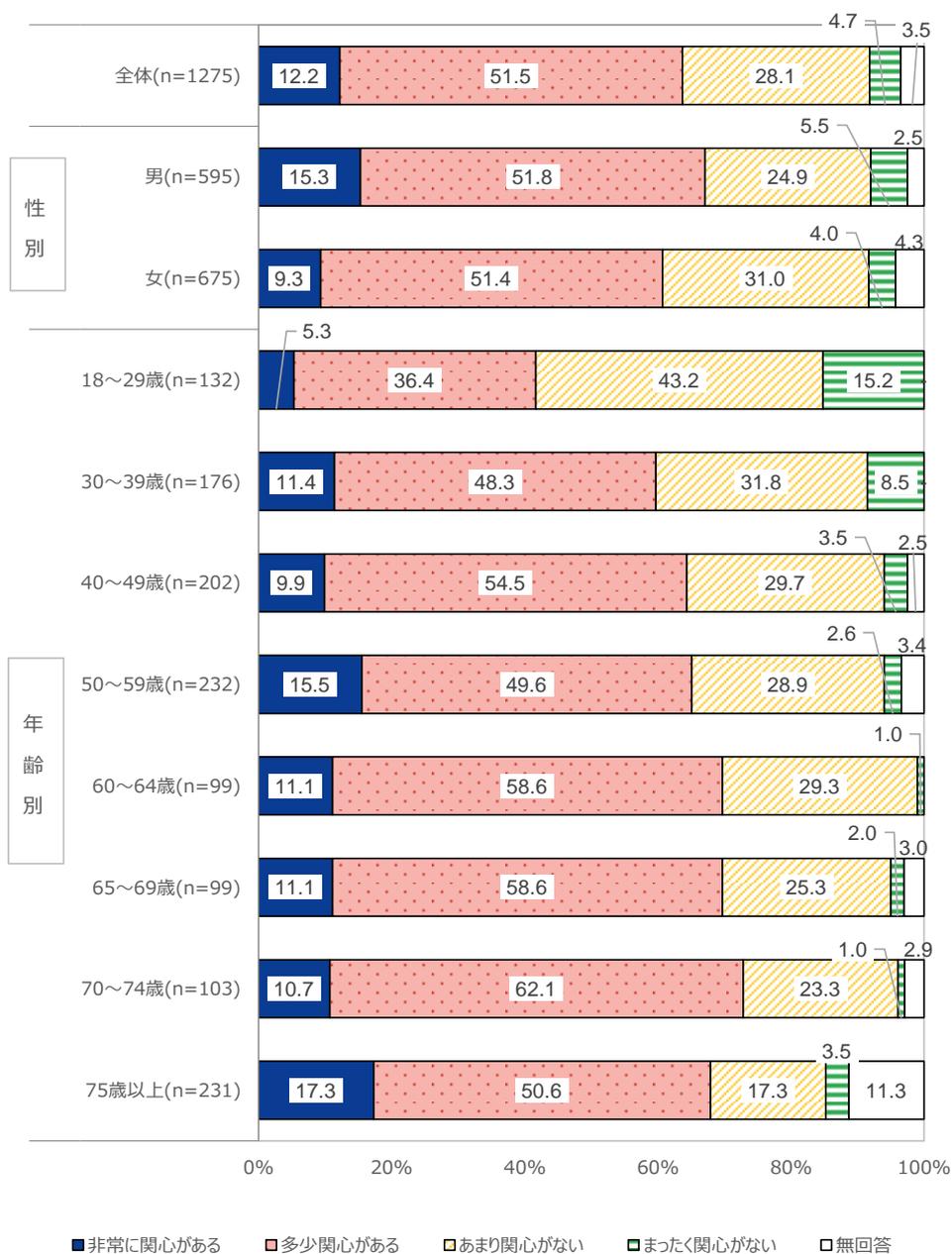


性別で比較すると、「非常に興味がある」は男性が 15.3%であるのに対して、女性は 9.3%で 6 ポイントの差がみられます。「多少興味がある」までを含めても、その差は 6.4 ポイントとなり、男女で差がみられます。

年齢別で比較すると、「非常に興味がある」と「多少興味がある」を合わせた“興味がある”とした人の割合は、70～74 歳が 72.8%と、最も高くなっています。40～49 歳以上では、いずれの年代も 60%以上となっており、年齢が高い人ほど関心が高い傾向にあります。なお、18～29 歳は 41.7%で、他の年代と比べると低くなっています。

また、「非常に興味がある」とした人の割合は、75 歳以上が 17.3%と最も高く、次いで 50～59 歳が 15.5%となっています。

図 9 町政への関心（性・年齢別）



過去の調査と比較すると、「非常に興味がある」と「多少興味がある」を合わせた“興味がある”は、今回調査（R6）が63.7%、前回調査（R4）が64.4%となっており、今回調査（R6）では、▲0.7ポイントとなりましたが、著しい変化はみられません。H28年度調査の同割合をみると68.1%で、▲4.4ポイントとなり、“興味がある”とする割合は、わずかですが、低下傾向にあります。

図 10 町政への関心（経年比較）



## 2 関心がある理由（問8-1）

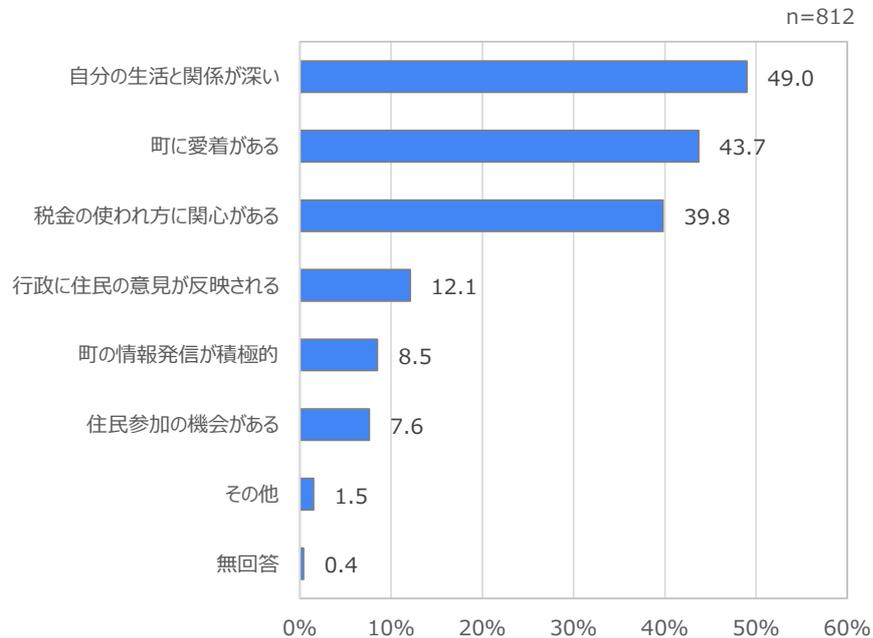
町政への関心について、「非常に関心がある」または「多少関心がある」と回答した812人に対して、関心がある理由を尋ねたところ、「自分の生活と関係が深い」が49.0%と最も高く、次いで、「町に愛着がある」が43.7%となっています。

表 9 関心がある理由（複数回答）

回答者数：812人

	件数	%
自分の生活と関係が深い	398	49.0%
町に愛着がある	355	43.7%
税金の使われ方に関心がある	323	39.8%
行政に住民の意見が反映される	98	12.1%
町の情報発信が積極的	69	8.5%
住民参加の機会がある	62	7.6%
その他	12	1.5%
無回答	3	0.4%
合計	1,320	

図 11 関心がある理由（複数回答）



性別で比較したとき、男女ともに上位3項目は、「自分との生活と関係が深い」「町に愛着がある」「税金の使われ方に関心がある」となっており、男女の違いによる大きな差はみられませんが、「自分の生活と関係が深い」では、男性（45.9%）よりも女性（52.0%）の方が6.1ポイント高くなっています。

年齢別で比較したとき、入れ替わりはあるものの、上位3項目は「自分との生活と関係が深い」「町に愛着がある」「税金の使われ方に関心がある」となっています。

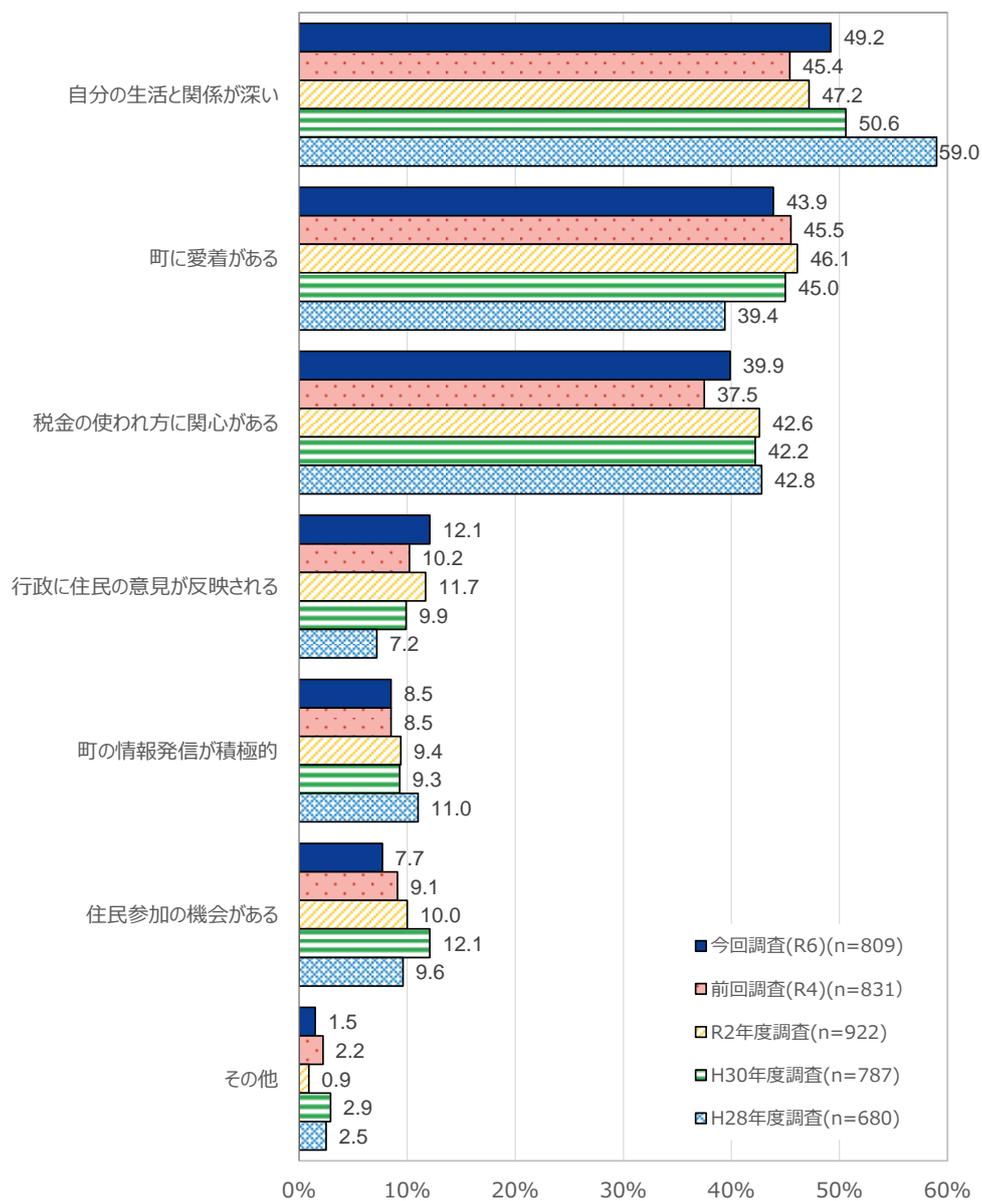
表 10 関心がある理由（性・年齢別）（複数回答）

区分		n	自分の生活と関係が深い	町に愛着がある	税金の使われ方に関心がある	行政に住民の意見が反映される	町の情報発信が積極的	住民参加の機会がある	その他	無回答
全体		812	49.0	43.7	39.8	12.1	8.5	7.6	1.5	0.4
性別	男	399	45.9	43.6	41.9	15.3	9.5	7.5	1.8	0.3
	女	410	52.0	43.9	37.8	8.8	7.6	7.8	1.2	0.5
年齢別	18～29歳	55	43.6	54.5	36.4	1.8	9.1	1.8	1.8	0.0
	30～39歳	105	49.5	33.3	44.8	14.3	7.6	1.9	0.0	1.9
	40～49歳	130	55.4	31.5	49.2	12.3	4.6	3.1	2.3	0.0
	50～59歳	151	51.7	40.4	43.0	11.3	5.3	6.0	0.7	0.0
	60～64歳	69	56.5	43.5	42.0	15.9	13.0	5.8	1.4	0.0
	65～69歳	69	49.3	43.5	40.6	13.0	7.2	11.6	1.4	1.4
	70～74歳	75	46.7	48.0	29.3	18.7	10.7	12.0	2.7	0.0
75歳以上	157	40.1	58.0	30.6	9.6	12.7	15.9	1.9	0.0	

過去の調査と比較すると、入れ替わりや割合の違いはあるものの、上位3項目は「自分との生活と関係が深い」「町に愛着がある」「税金の使われ方に関心がある」となり、平成28年調査から変わっていません。

「自分の生活と関係が深い」については、平成28年度調査（59.0%）から低下傾向にあり、令和4年度調査（45.4%）では▲13.6ポイントとなっていました。今回調査では上昇し、49.2%（▲9.8ポイント）となりました。

図 12 関心がある理由（経年比較）（複数回答、無回答を除く）



### 3 関心がない理由（問8-2）

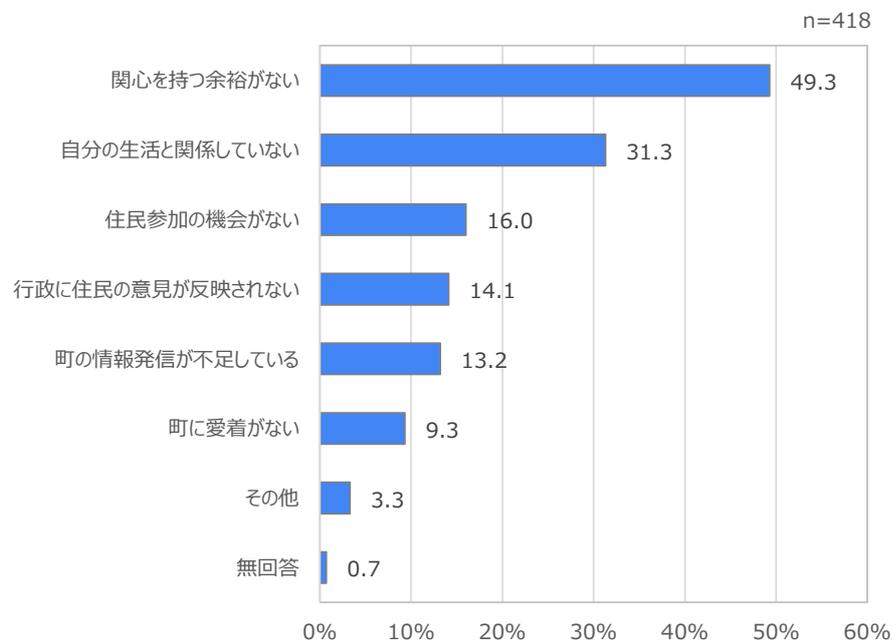
町政への関心について、「あまり関心がない」または「まったく関心がない」と回答した418人に対して、関心がない理由を尋ねたところ、「関心を持つ余裕がない」が49.3%と最も高く、次いで、「自分の生活と関係していない」が31.3%となっています。また、「住民参加の機会がない」（16.0%）や「行政に住民の意見が反映されない」（14.1%）、「町の情報発信が不足している」（13.2%）といった意見も一定程度みられました。

表 11 関心がない理由（複数回答）

回答者数：418人

	件数	%
関心を持つ余裕がない	206	49.3%
自分の生活と関係していない	131	31.3%
住民参加の機会がない	67	16.0%
行政に住民の意見が反映されない	59	14.1%
町の情報発信が不足している	55	13.2%
町に愛着がない	39	9.3%
その他	14	3.3%
無回答	3	0.7%
合計	574	

図 13 関心がない理由（複数回答）



性別で比較すると、男女ともに「関心を持つ余裕がない」「自分の生活と関係していない」が上位2項目ですが、次いで、男性は「行政に住民の意見が反映されない」、女性は「住民参加の機会がない」となっています。また、男女ともに最も高い割合の「関心を持つ余裕がない」では、男性（42.0%）よりも女性（54.7%）の方が12.7ポイント高くなっています。

年齢別で比較すると、18～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～64歳、75歳以上では、「関心を持つ余裕がない」が最も高く、65～69歳、70～74歳では、「自分の生活と関係していない」が最も高くなっています。

また、18～29歳、30～39歳、65～69歳、70～74歳、75歳以上では、上位3項目は「関心を持つ余裕がない」「自分の生活と関係していない」「住民参加の機会がない」となっていますが、40～49歳、50～59歳、60～64歳では「関心を持つ余裕がない」「自分の生活と関係していない」「行政に住民の意見が反映されない」もしくは、「町に愛着がない」が上位3項目となっています。

表 12 関心がない理由（性・年齢別）（複数回答）

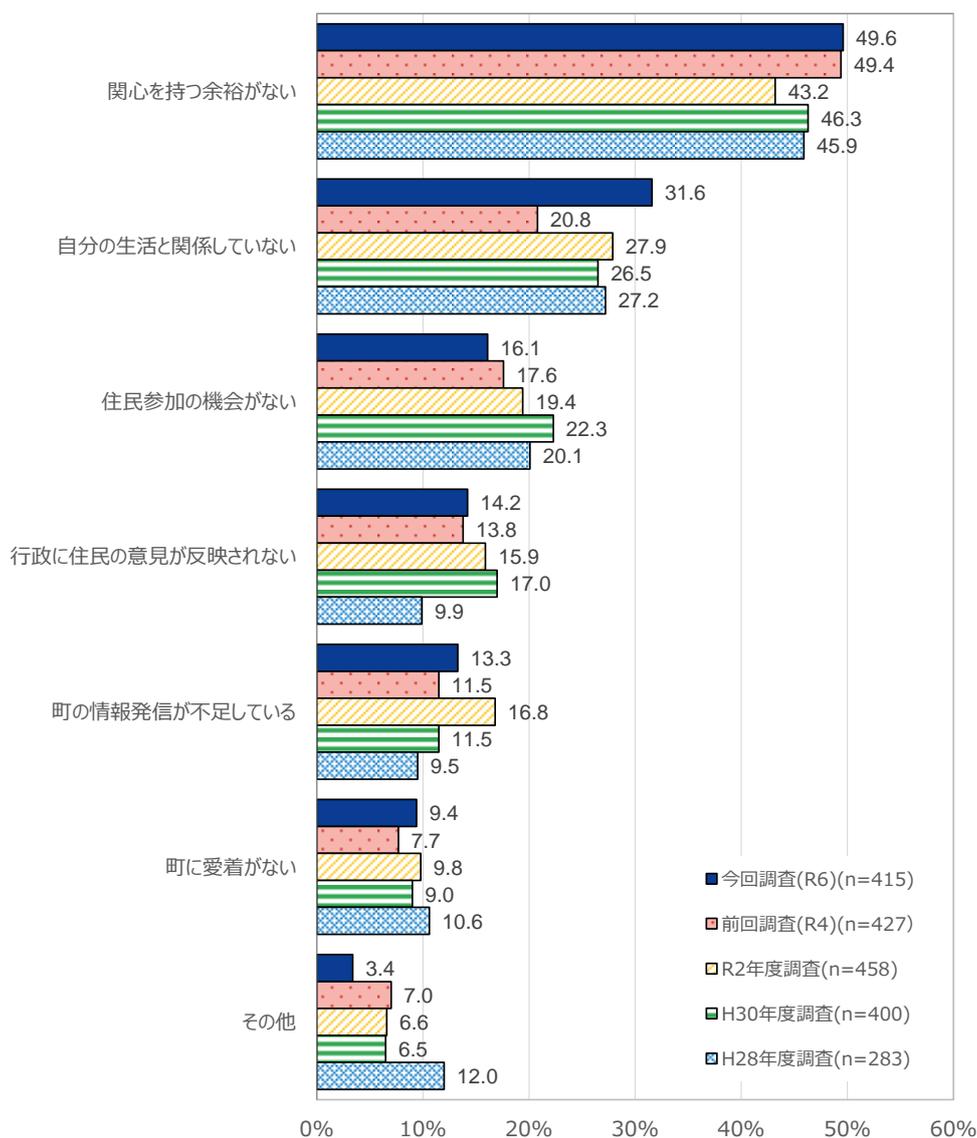
区分		n	関心を持つ余裕がない	自分の生活と関係していない	住民参加の機会がない	行政に住民の意見が反映されない	町の情報発信が不足している	町に愛着がない	その他	無回答
全体		418	49.3	31.3	16.0	14.1	13.2	9.3	3.3	0.7
性別	男	181	42.0	36.5	13.3	14.4	13.8	13.3	5.5	0.0
	女	236	54.7	27.5	18.2	14.0	12.7	6.4	1.7	1.3
年齢別	18～29歳	77	49.4	35.1	14.3	6.5	13.0	10.4	3.9	0.0
	30～39歳	71	54.9	28.2	16.9	8.5	15.5	5.6	1.4	0.0
	40～49歳	67	58.2	29.9	11.9	13.4	6.0	13.4	6.0	1.5
	50～59歳	73	47.9	26.0	12.3	23.3	16.4	9.6	2.7	0.0
	60～64歳	30	53.3	26.7	6.7	33.3	23.3	10.0	0.0	0.0
	65～69歳	27	40.7	48.1	18.5	14.8	7.4	11.1	0.0	0.0
	70～74歳	25	28.0	32.0	28.0	16.0	16.0	8.0	8.0	4.0
	75歳以上	48	43.8	33.3	27.1	8.3	10.4	6.3	4.2	2.1

過去の調査と比較すると、いずれの年も、「関心を持つ余裕がない」、「自分の生活と関係していない」、「住民参加の機会がない」が上位3項目となっています。

ただし、今回調査（R6）では、「関心を持つ余裕がない」が49.6%で、過去の調査の中で最も高い割合となり、「関心を持つ余裕がない」は、平成28年度調査から増加傾向にあります。

また、「自分の生活と関係していない」は、前回調査（R4）の20.8%から31.6%と10.8ポイント増加し、平成28年度調査以降、最も高くなっています。

図 14 関心がない理由（経年比較）（複数回答、無回答を除く）



#### 4 町政の情報源（問9）

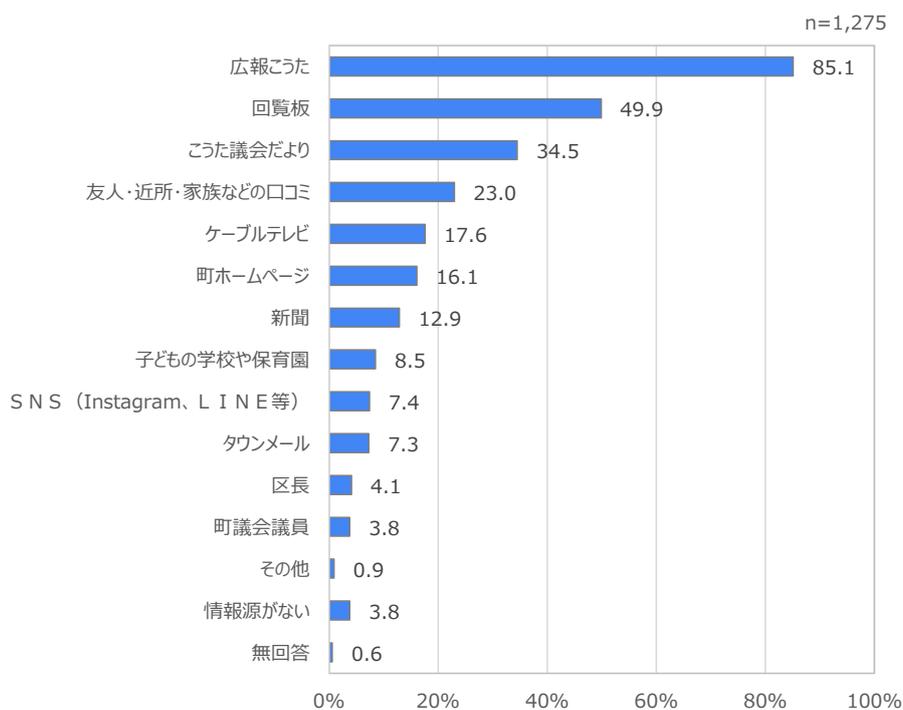
町政の情報源は、「広報こうた」が85.1%で最も多く、次いで「回覧板」が49.9%、「こうた議会だより」が34.5%、「友人・近所・家族などの口コミ」が23.0%となっています。

表 13 町政の情報源（複数回答）

回答者数：1,275人

	件数	%
広報こうた	1,085	85.1%
回覧板	636	49.9%
こうた議会だより	440	34.5%
友人・近所・家族などの口コミ	293	23.0%
ケーブルテレビ	225	17.6%
町ホームページ	205	16.1%
新聞	164	12.9%
子どもの学校や保育園	109	8.5%
S N S（Instagram、L I N E等）	94	7.4%
タウンメール	93	7.3%
区長	52	4.1%
町議会議員	48	3.8%
その他	11	0.9%
情報源がない	48	3.8%
無回答	8	0.6%
合計	3,511	

図 15 町政の情報源（複数回答）



性別で比較すると、「広報こうた」（男性：81.8%、女性88.1%）、「友人・近所・家族などの口コミ」（男性：17.6%、女性：27.7%）では、女性の方が6ポイント以上高くなっています。

年齢別で比較すると、「広報こうた」、「回覧板」、「こうた議会だより」、「ケーブルテレビ」、「新聞」「区長」「町議会議員」は、概して年齢が高くなるほど、回答割合も高くなる傾向にあります。

また、30～39歳、40～49歳では、「子どもの学校や保育園」がそれぞれ21.6%、23.8%となり、他の年代や全体（8.5%）と比べて高くなっています。

75歳以上では、「区長」（9.1%）、「町議会議員」（7.4%）が全体（それぞれ4.1%、3.8%）と比べてやや高くなっています。

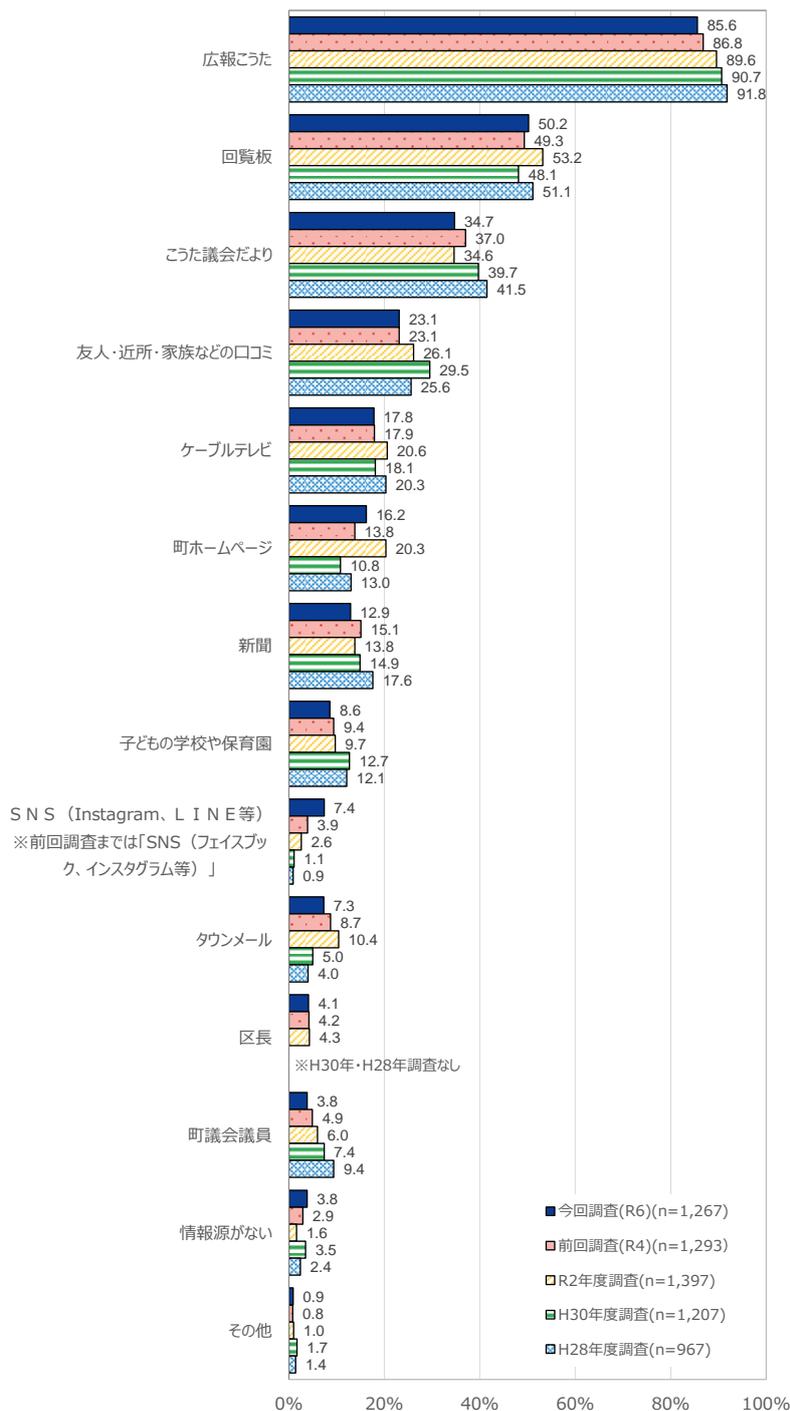
表 14 町政の情報源（性・年齢別）（複数回答）

区分	n	広報こうた	回覧板	こうた議会だより	友人・近所・家族などの口コミ	ケーブルテレビ	町ホームページ	新聞	子どもの学校や保育園	SNS (Instagram、LINE等)	区長	町議会議員	タウンメール	その他	情報源がない	無回答	
全体	1,275	85.1	49.9	34.5	23.0	17.6	16.1	12.9	8.5	7.4	4.1	3.8	7.3	0.9	3.8	0.6	
性別	男性	595	81.8	49.6	35.5	17.6	16.8	17.3	13.1	6.4	6.2	6.1	5.0	4.9	1.0	4.9	0.3
	女性	675	88.1	50.4	33.5	27.7	18.2	14.8	12.3	10.2	8.4	2.4	2.7	9.3	0.7	2.7	0.9
年齢別	18～29歳	132	68.9	23.5	16.7	29.5	6.8	7.6	6.8	3.0	9.8	0.0	0.0	2.3	0.8	12.9	0.0
	30～39歳	176	78.4	30.1	22.7	23.9	7.4	15.3	1.1	21.6	10.2	0.6	0.6	8.0	0.6	6.3	0.6
	40～49歳	202	84.7	42.6	30.7	24.3	14.4	16.3	4.5	23.8	11.9	3.0	2.0	11.9	1.0	4.5	0.5
	50～59歳	232	88.4	49.6	34.5	16.8	19.0	22.0	8.6	3.4	8.2	2.6	4.7	9.1	0.4	2.2	0.9
	60～64歳	99	88.9	54.5	41.4	22.2	16.2	19.2	10.1	1.0	5.1	3.0	5.1	8.1	1.0	3.0	0.0
	65～69歳	99	92.9	62.6	41.4	18.2	23.2	19.2	18.2	3.0	6.1	8.1	4.0	7.1	0.0	0.0	0.0
	70～74歳	103	97.1	70.9	43.7	23.3	23.3	14.6	21.4	3.9	3.9	6.8	5.8	6.8	0.0	0.0	1.0
	75歳以上	231	86.1	69.7	47.2	25.5	29.0	13.4	32.0	1.3	2.2	9.1	7.4	3.9	2.2	1.3	1.3

過去の調査をみると、上位3項目は、平成28年度調査から一貫して、「広報こうた」、「回覧板」、「こうた議会だより」となっています。このうち、最も高い割合の「広報こうた」については、平成28年度調査では91.8%、前回調査では、86.8%、今回調査では85.6%となり、平成28年度調査からは▲6.2ポイントと、減少傾向です。

一方で、選択肢の記載方法が変わったため一概には比較できませんが、「SNS（Instagram、LINE等）」については、平成28年度調査の0.9%から、今回調査では7.4%と6.5ポイント上昇しており、増加傾向にあります。

図16 町政の情報源（経年比較）（複数回答・無回答を除く）



## 5 総合計画各施策の満足度・重要度（問 10）

幸田町の総合計画の施策である 42 項目の取組について、それぞれ「現状の満足度」と「今後の重要度」を 5 段階でたずね、施策項目ごとに評価得点をつけて評価を行いました。評価得点は、それぞれの選択肢に対して次に示す点数をつけて算出しました。また、算出に当たっては、以下の式を使用しています。

【満足度の各選択肢に対する得点】

選択肢番号	満足度	得点
5	満足している	2
4	やや満足している	1
3	どちらともいえない	0
2	やや不満である	-1
1	不満である	-2

【重要度の各選択肢に対する得点】

選択肢番号	満足度	得点
5	重要である	2
4	やや重要である	1
3	どちらともいえない	0
2	あまり重要でない	-1
1	重要でない	-2

【評価得点の算出式】

$$\text{満足度} = \frac{(\text{「満足」} \times 2 \text{点}) + (\text{「やや満足」} \times 1 \text{点}) + (\text{「どちらともいえない」} \times 0 \text{点}) + (\text{「やや不満」} \times -1 \text{点}) + (\text{「不満」} \times -2 \text{点})}{\text{回答者数（「無回答」を除く）}}$$

$$\text{重要度} = \frac{(\text{「重要」} \times 2 \text{点}) + (\text{「やや重要」} \times 1 \text{点}) + (\text{「どちらともいえない」} \times 0 \text{点}) + (\text{「あまり重要でない」} \times -1 \text{点}) + (\text{「重要でない」} \times -2 \text{点})}{\text{回答者数（「無回答」を除く）}}$$

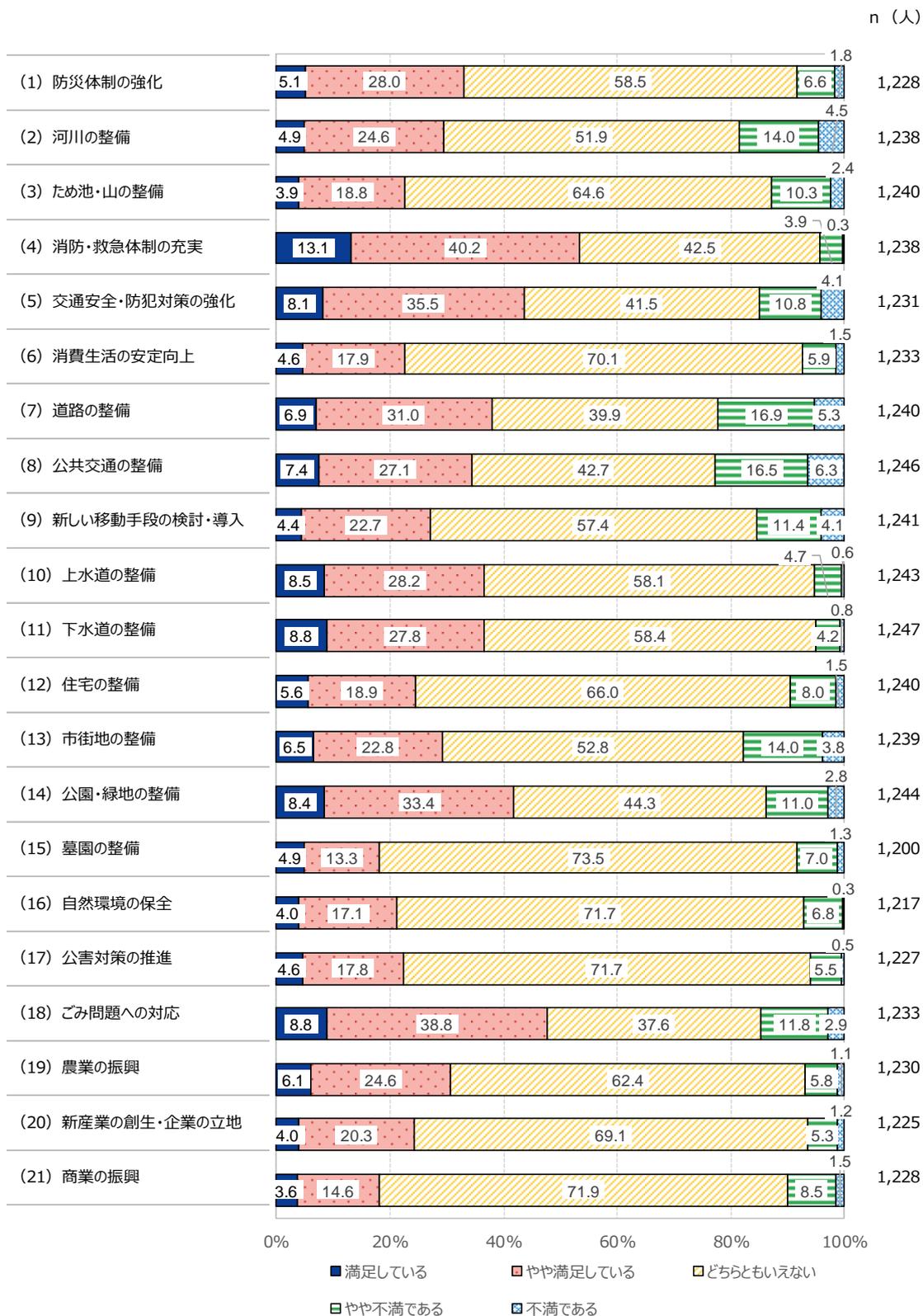
各施策における満足度、重要度、ギャップ値（「重要度」－「満足度」）について、評点および順位を一覧にしました。各々の上位5項目を太字（網掛け）で、下位5項目を白太字（背景黒）で表示しています。

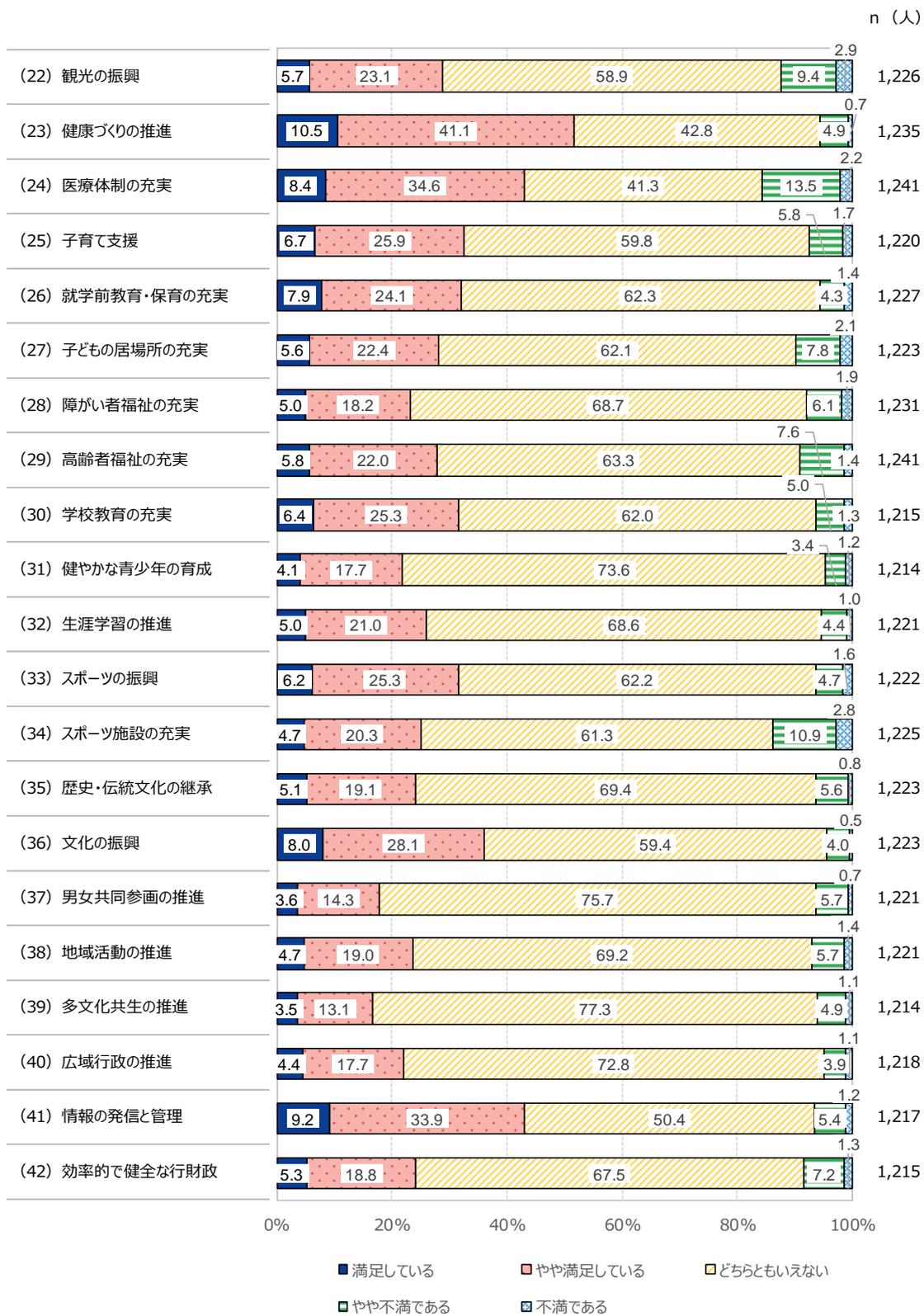
表 15 総合計画各施策の満足度・重要度・ギャップ値

施策	満足度		重要度		ギャップ値		
	ポイント	順位	ポイント	順位	ポイント	順位	
安全・安心	(1) 防災体制の強化	0.28	16	<b>1.31</b>	<b>2</b>	<b>1.03</b>	<b>2</b>
	(2) 河川の整備	<b>0.11</b>	<b>40</b>	<b>1.18</b>	<b>5</b>	<b>1.07</b>	<b>1</b>
	(3) ため池・山の整備	<b>0.11</b>	<b>40</b>	0.98	13	0.87	6
	(4) 消防・救急体制の充実	<b>0.62</b>	<b>1</b>	<b>1.23</b>	<b>4</b>	0.61	21
	(5) 交通安全・防犯対策の強化	0.33	11	<b>1.33</b>	<b>1</b>	<b>1.00</b>	<b>3</b>
	(6) 消費生活の安定向上	0.18	29	0.82	24	0.64	19
	(7) 道路の整備	0.17	32	1.09	7	<b>0.92</b>	<b>4</b>
	(8) 公共交通の整備	<b>0.13</b>	<b>38</b>	0.90	18	0.78	9
	(9) 新しい移動手段の検討・導入	<b>0.12</b>	<b>39</b>	0.85	21	0.73	12
	(10) 上水道の整備	<b>0.39</b>	<b>5</b>	1.04	9	0.65	18
	(11) 下水道の整備	<b>0.40</b>	<b>4</b>	1.05	8	0.65	17
	(12) 住宅の整備	0.19	27	0.86	20	0.67	15
	(13) 市街地の整備	0.14	34	0.81	25	0.67	14
	(14) 公園・緑地の整備	0.34	8	0.83	23	0.49	25
	(15) 墓園の整備	0.13	35	<b>0.32</b>	<b>42</b>	<b>0.18</b>	<b>41</b>
環境	(16) 自然環境の保全	0.18	31	0.60	33	0.43	31
	(17) 公害対策の推進	0.20	23	0.74	27	0.54	24
	(18) ごみ問題への対応	0.39	7	1.14	6	0.75	10
産業振興	(19) 農業の振興	0.29	15	0.75	26	0.47	29
	(20) 新産業の創生・企業の立地	0.21	21	0.68	28	0.47	27
	(21) 商業の振興	<b>0.10</b>	<b>42</b>	0.65	30	0.55	23
	(22) 観光の振興	0.19	28	0.58	35	0.39	33
健康・福祉	(23) 健康づくりの推進	<b>0.56</b>	<b>2</b>	0.96	15	0.40	32
	(24) 医療体制の充実	0.33	9	<b>1.25</b>	<b>3</b>	<b>0.91</b>	<b>5</b>
	(25) 子育て支援	0.30	13	0.99	12	0.69	13
	(26) 就学前教育・保育の充実	0.33	10	0.93	17	0.60	22
	(27) 子どもの居場所の充実	0.22	20	1.01	11	0.79	7
	(28) 障がい者福祉の充実	0.18	30	0.93	16	0.75	11
	(29) 高齢者福祉の充実	0.23	18	1.03	10	0.79	8
教育・文化	(30) 学校教育の充実	0.30	12	0.97	14	0.66	16
	(31) 健やかな青少年の育成	0.20	24	0.67	29	0.47	28
	(32) 生涯学習の推進	0.25	17	0.61	32	0.37	35
	(33) スポーツの振興	0.30	14	<b>0.48</b>	<b>38</b>	<b>0.19</b>	<b>40</b>
	(34) スポーツ施設の充実	0.13	36	0.62	31	0.48	26
	(35) 歴史・伝統文化の継承	0.22	19	<b>0.48</b>	<b>40</b>	<b>0.26</b>	<b>38</b>
	(36) 文化の振興	0.39	6	0.56	36	<b>0.16</b>	<b>42</b>
協働・参画	(37) 男女共同参画の推進	0.14	33	0.49	37	0.35	36
	(38) 地域活動の推進	0.20	25	<b>0.48</b>	<b>38</b>	0.29	37
	(39) 多文化共生の推進	0.13	37	<b>0.39</b>	<b>41</b>	<b>0.26</b>	<b>39</b>
	(40) 広域行政の推進	0.21	22	0.59	34	0.38	34
	(41) 情報の発信と管理	<b>0.45</b>	<b>3</b>	0.88	19	0.43	30
	(42) 効率的で健全な行財政	0.20	26	0.83	22	0.64	20
平均	0.25		0.83		0.58		

施策ごとの満足度についてみていくと、ポイントが高い上位 5 項目は、「(4) 消防・救急体制の充実」「(23) 健康づくりの推進」「(41) 情報の発信と管理」「(11) 下水道の整備」「(10) 上水道の整備」となっています。

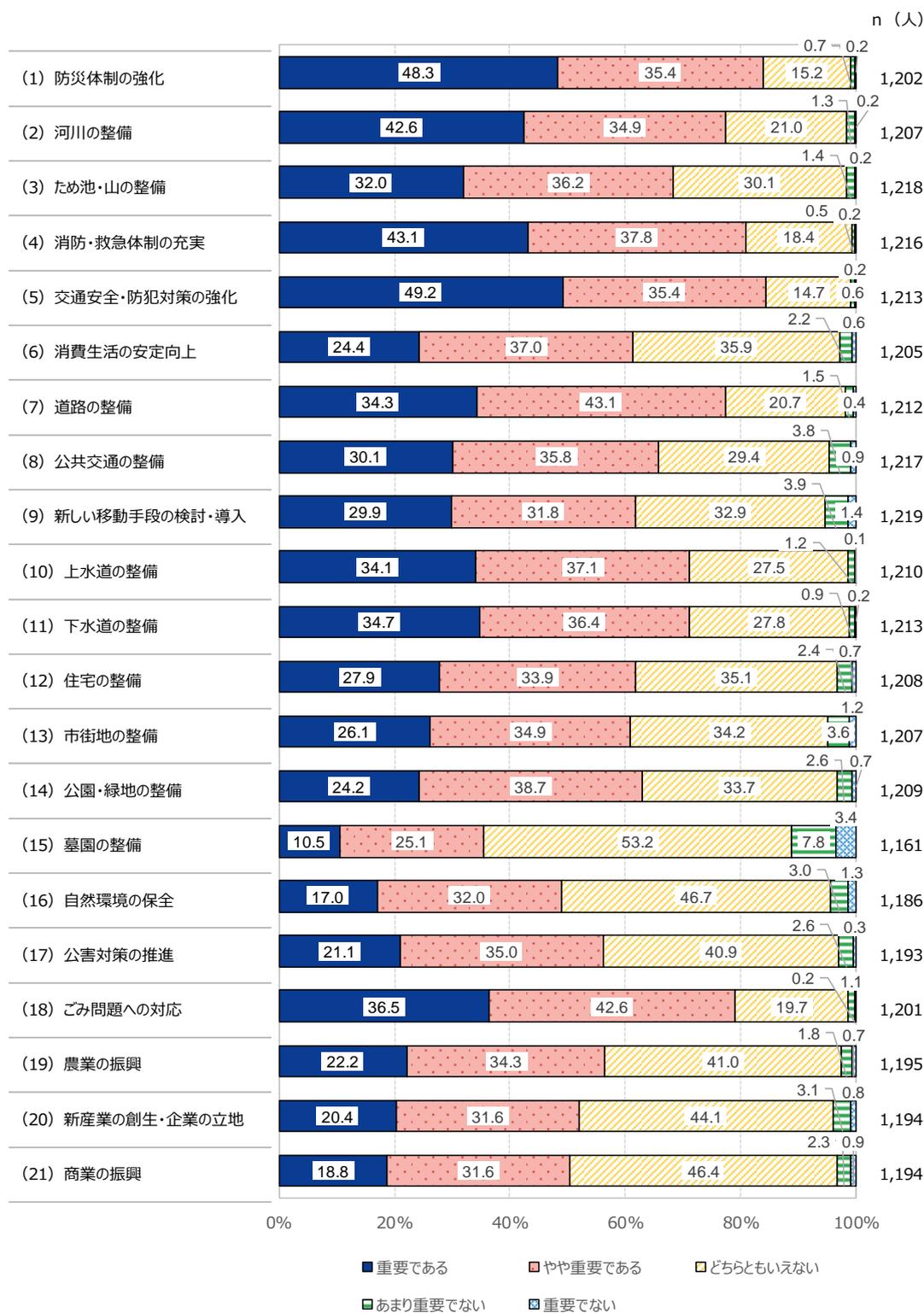
図 17 総合計画各施策の満足度（無回答を除く）





次に、施策ごとの重要度についてみていくと、ポイントが高い上位5項目は、「(5) 交通安全・防犯対策の強化」「(1) 防災体制の強化」「(24) 医療体制の充実」「(4) 消防・救急体制の充実」「(2) 河川の整備」となっています。

図 18 総合計画各施策の重要度（無回答を除く）



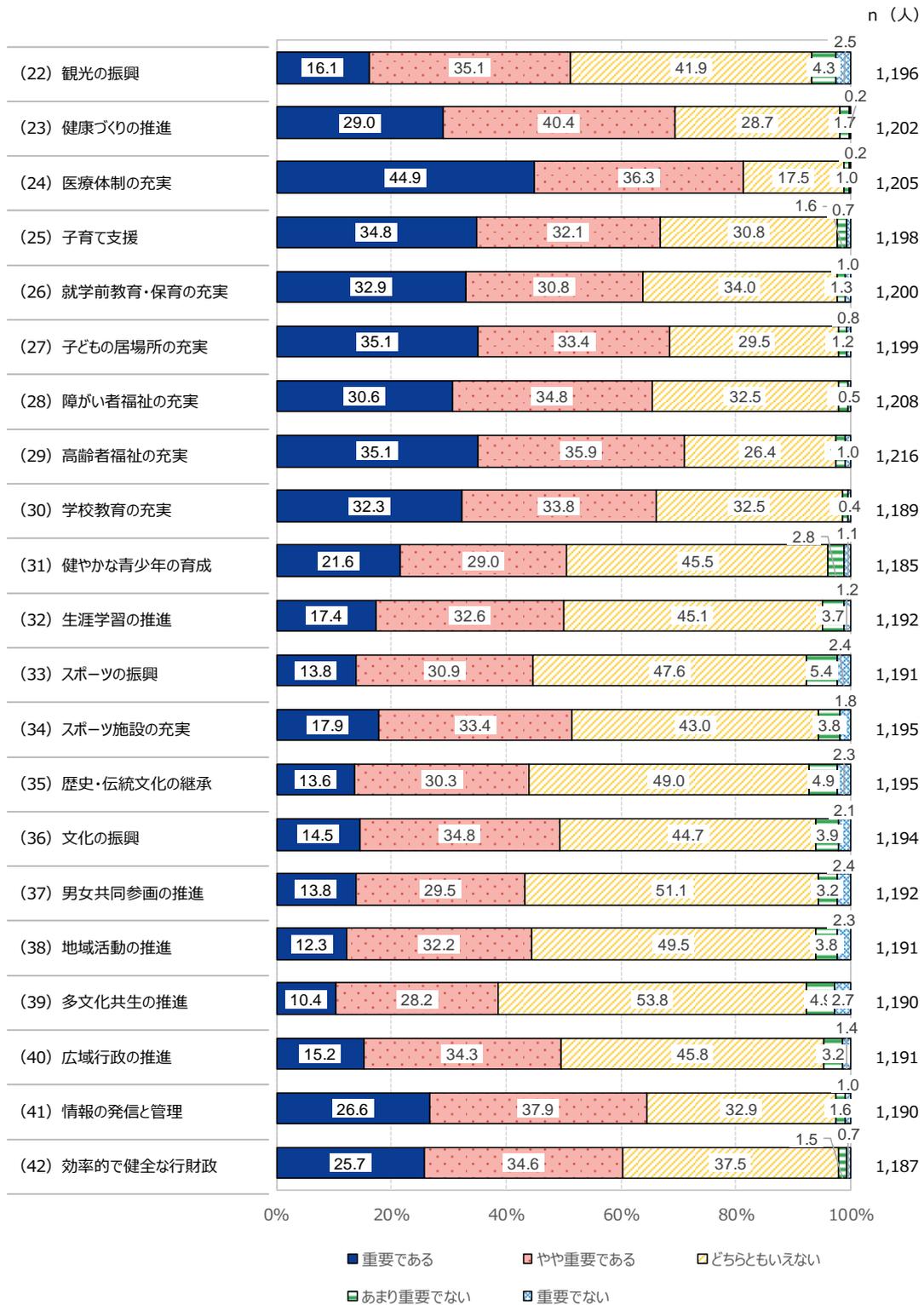


図 19 は、施策ごとの相対的位置づけが分かるように、満足度、重要度の高低により4つの領域に分けました。施策ごとの位置づけによって、図 20 のような対応が求められると考えられます。ただし、今回の結果だけでなく、将来性や緊急性も考慮した上で対応していく必要があります。

図 19 の平均値の補助線から左上（Aの領域）にある項目は、重要度が高いにもかかわらず満足度が低い施策であり、住民ニーズに答えられていない分野と考えられます。詳しくは、図 21 をご覧ください。

図 19 総合計画施策の満足度・重要度（散布図）

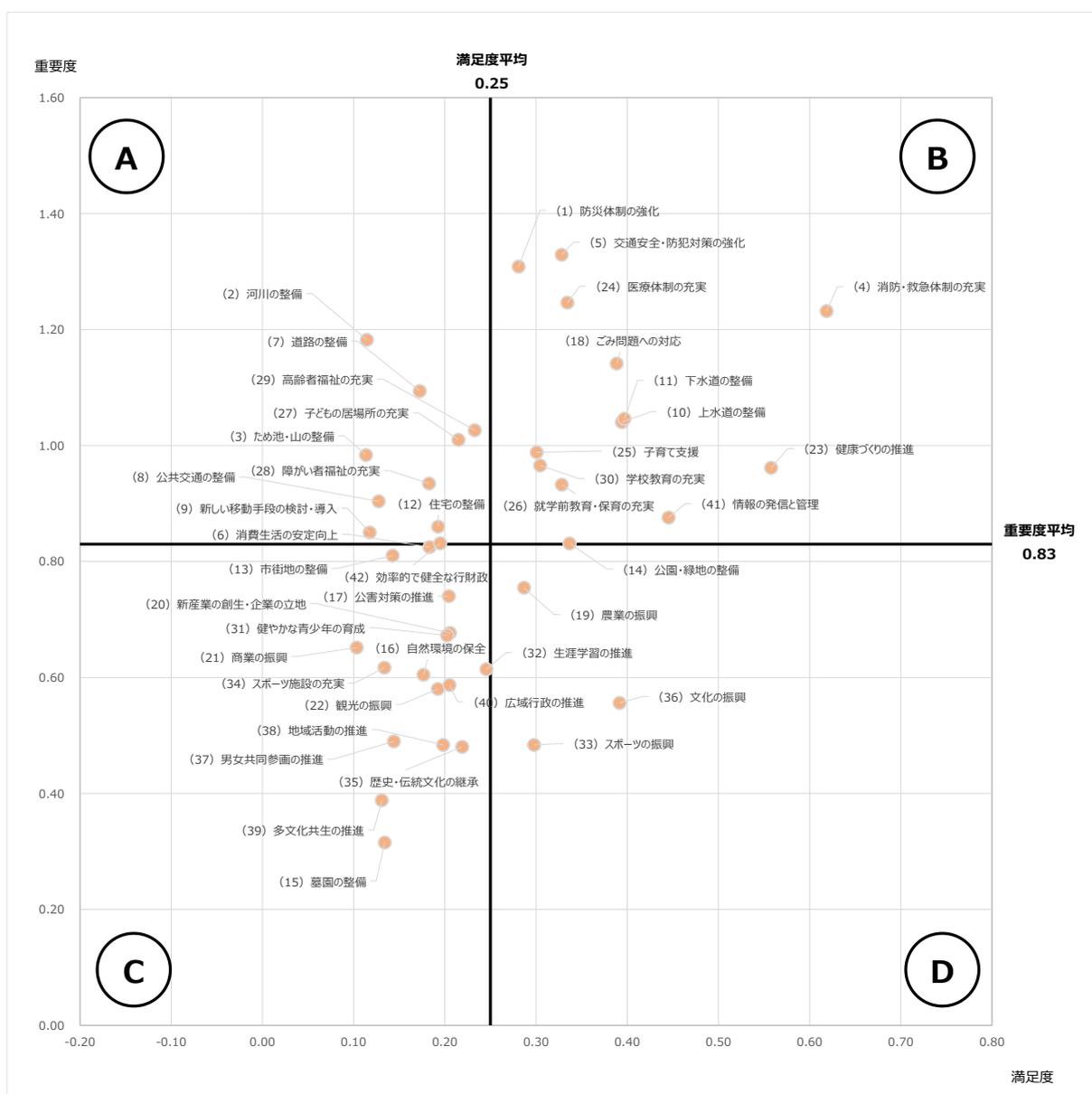


図 20 図 19 の見方

高い↑ 重要度 低い	<b>A</b> 重要課題 <b>ニーズ対応策の検討</b> (重要度：高い、満足度：低い)	<b>B</b> 維持領域 <b>低コスト化・満足度維持</b> (重要度：高い、満足度：高い)	
	<b>C</b> 見直し領域 <b>関心度の引き上げ、廃止検討</b> (重要度：低い、満足度：低い)	<b>D</b> 縮小領域 <b>規模縮小</b> (重要度：低い、満足度：高い)	
	低い	満足度	→高い

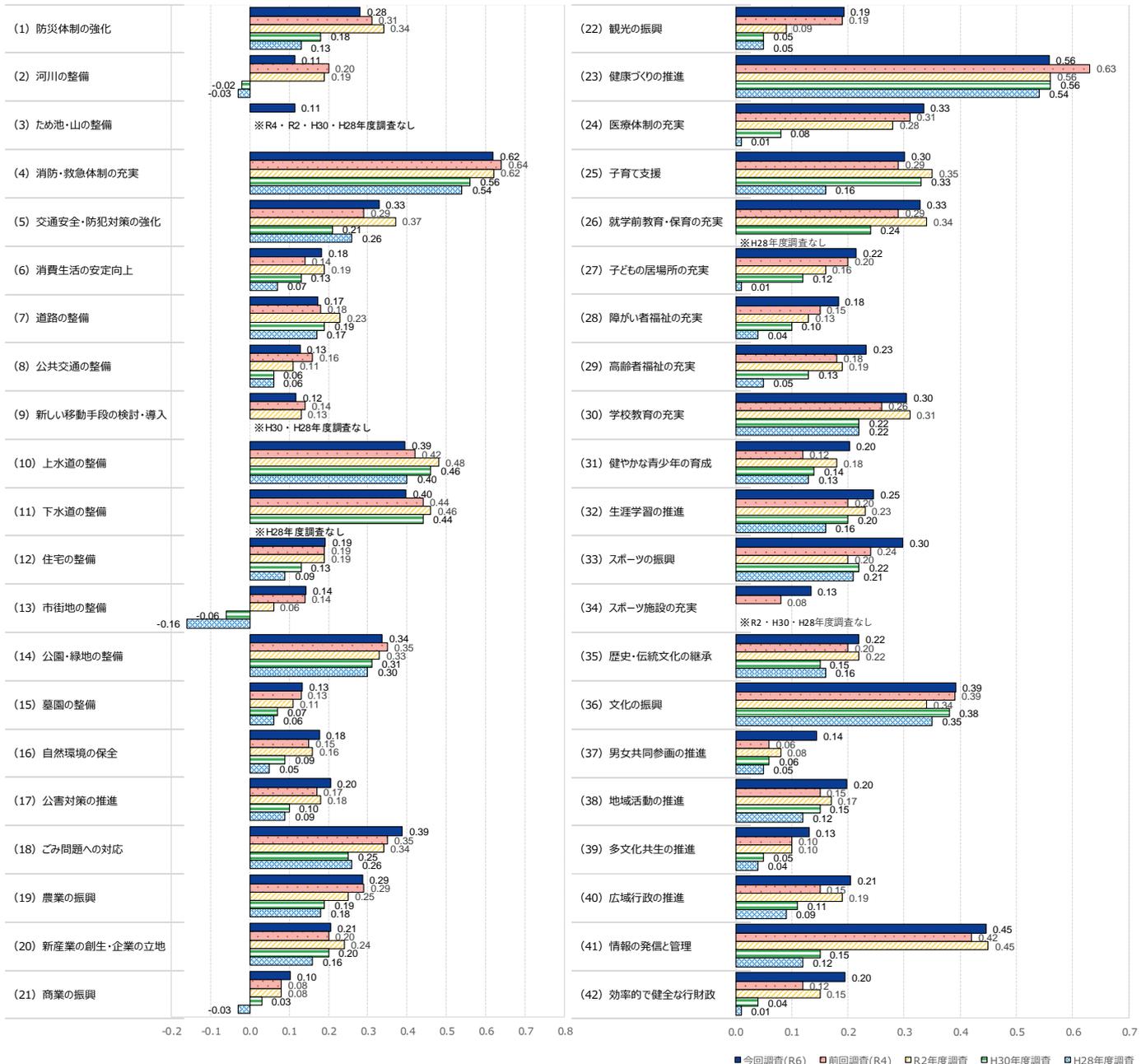
図 21 領域ごとの項目

高い↑ 重要度 低い	<b>A：重要課題</b> (2) 河川の整備 (3) ため池・山の整備 (7) 道路の整備 (8) 公共交通の整備 (9) 新しい移動手段の検討・導入 (12) 住宅の整備 (27) 子どもの居場所の充実 (28) 障がい者福祉の充実 (29) 高齢者福祉の充実	<b>B：維持領域</b> (1) 防災体制の強化 (4) 消防・救急体制の充実 (5) 交通安全・防犯対策の強化 (10) 上水道の整備 (11) 下水道の整備 (18) ごみ問題への対応 (23) 健康づくりの推進 (24) 医療体制の充実 (25) 子育て支援 (26) 就学前教育・保育の充実 (30) 学校教育の充実 (41) 情報の発信と管理	
	<b>C：見直し領域</b> (6) 消費生活の安定向上 (13) 市街地の整備 (15) 墓園の整備 (16) 自然環境の保全 (17) 公害対策の推進 (20) 新産業の創生・企業の立地 (21) 商業の振興 (22) 観光の振興 (31) 健やかな青少年の育成 (34) スポーツ施設の充実 (35) 歴史・伝統文化の継承 (37) 男女共同参画の推進 (38) 地域活動の推進 (39) 多文化共生の推進 (40) 広域行政の推進	<b>D：縮小領域</b> (19) 農業の振興 (33) スポーツの振興 (36) 文化の振興	
	低い	満足度	→高い

※ (14) 公園・緑地の整備、(32) 生涯学習の推進、(42) 効率的で健全な行財政に関しては、満足度もしくは重要度が平均と同じであったため、図 21 には記載していません。

過去の調査から満足度のポイントを経年的に比較したとき、平成28年度調査から令和6年度調査の間に0.3ポイント以上増加したのは、「(13) 市街地の整備」、「(24) 医療体制の充実」、「(41) 情報の発信と管理」の3つの施策となります。

図 22 満足度（経年比較）（無回答を除く）

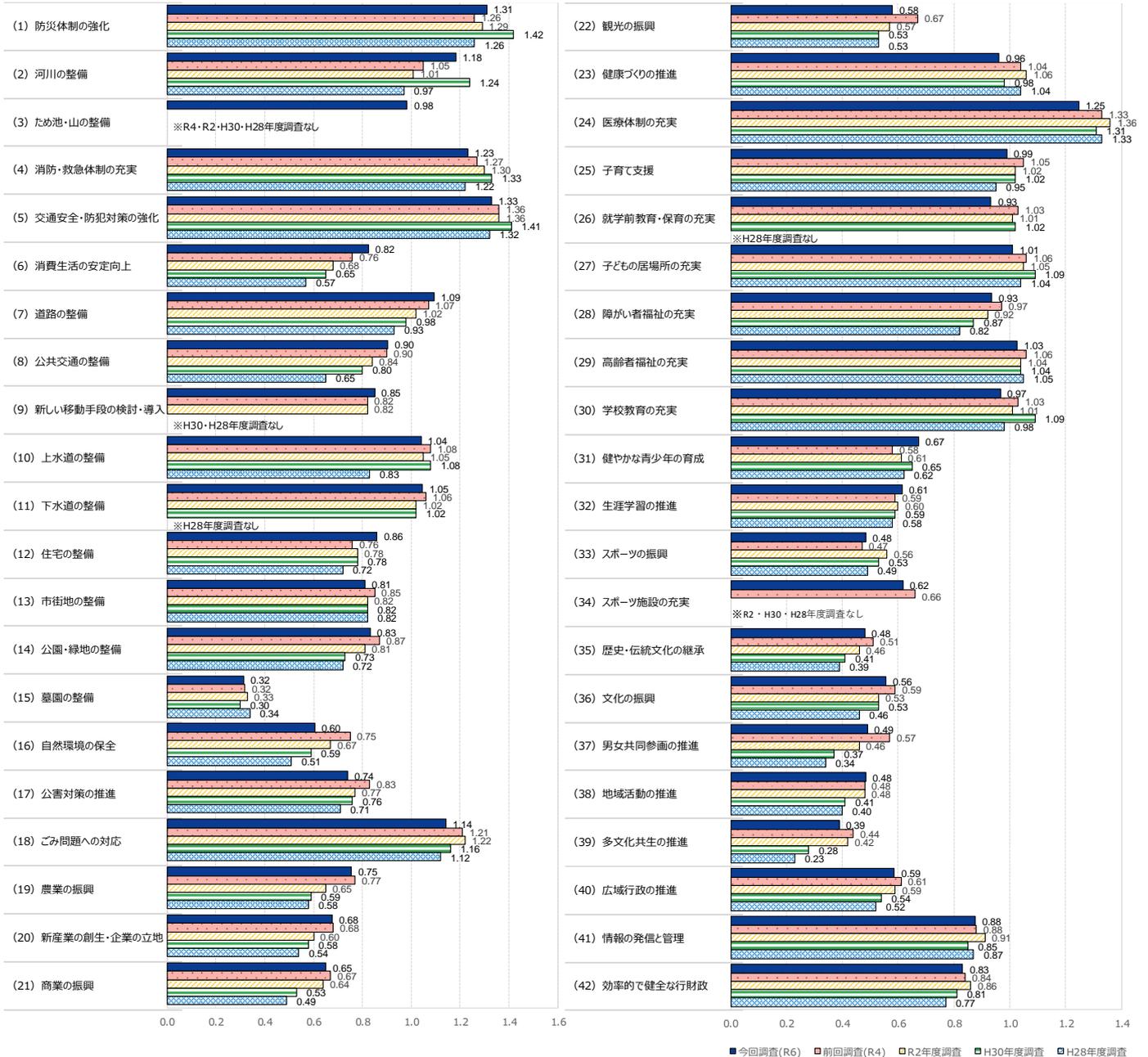


※以下の調査項目については、年度により調査を実施していません

平成28年度調査	平成30年度調査	令和2年度調査	令和4年度調査
(3) ため池・山の整備 (「河川・ため池・山の整備」として調査。今年度は「(2) 河川の整備」として集計)			
(9) 新しい移動手段の検討・導入 (11) 下水道の整備 (「上下水道の整備」として調査。「(10) 上水道の整備」として集計) (26) 就学前教育・保育の充実 (34) スポーツ施設の充実	(9) 新しい移動手段の検討・導入 (34) スポーツ施設の充実	(34) スポーツ施設の充実	

過去の調査から重要度のポイントを経年的に比較したとき、平成28年度調査から令和6年度調査の間に0.2ポイント以上増加したのは、「(2) 河川の整備」、「(6) 消費生活の安定向上」、「(8) 公共交通の整備」、「(10) 上水道の整備」の4つの施策となっています。

図 23 重要度 経年比較（無回答を除く）



平成28年度調査	平成30年度調査	令和2年度調査	令和4年度調査
(3) ため池・山の整備 (「河川・ため池・山の整備」として調査。今年度は「(2) 河川の整備」として集計)			
(9) 新しい移動手段の検討・導入	(9) 新しい移動手段の検討・導入	(34) スポーツ施設の充実	
(11) 下水道の整備 (「上下水道の整備」として調査。「(10) 上水道の整備」として集計)	(34) スポーツ施設の充実		
(26) 就学前教育・保育の充実			
(34) スポーツ施設の充実			

## 6 総合計画各施策の優先度（問 11）

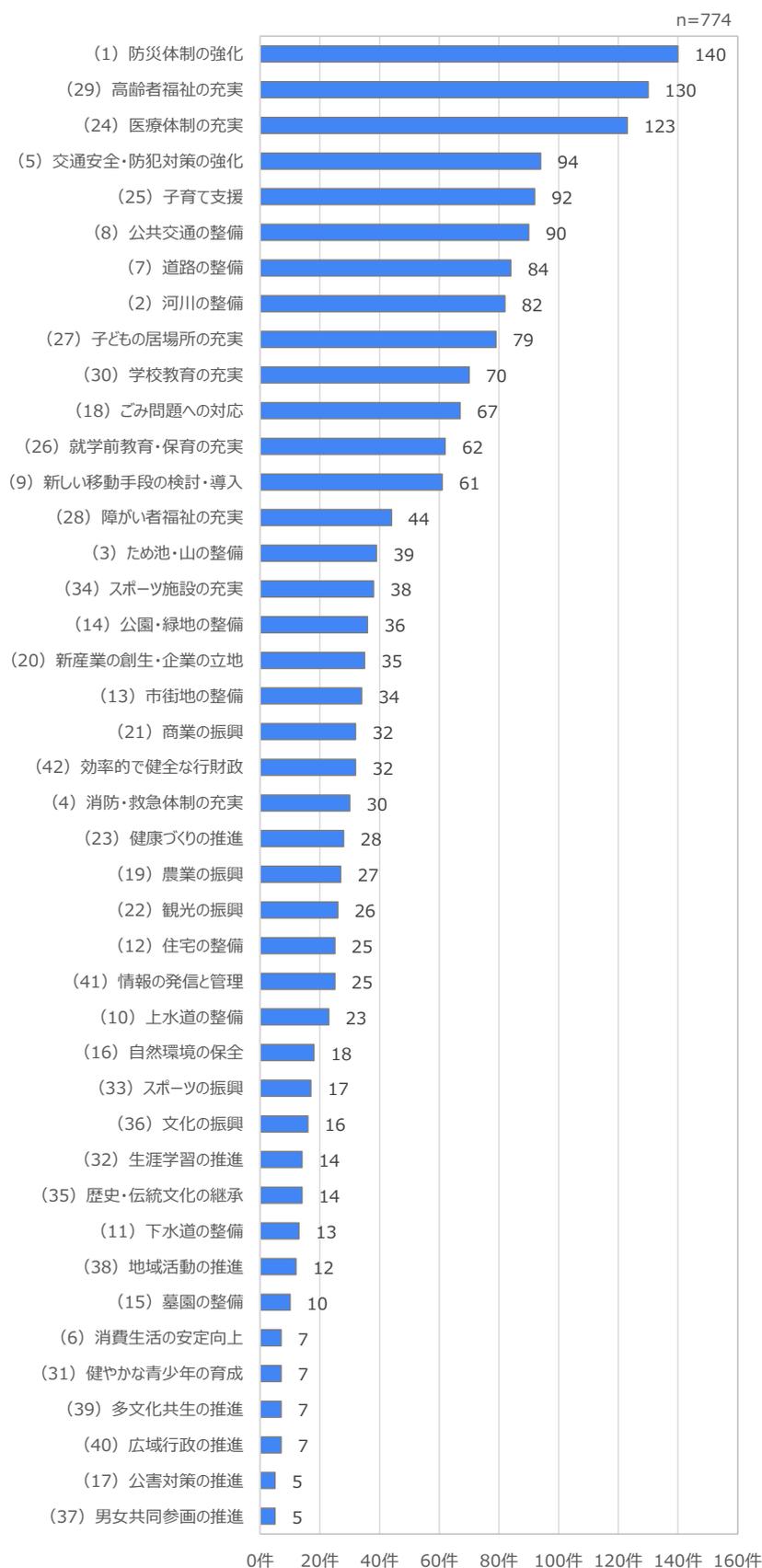
総合計画の施策である 42 項目の施策のうち、特に力を入れてほしいものを尋ねたところ、「（1）防災体制の強化」が 18.1%で最も高く、次いで「（29）高齢者福祉の充実」が 16.8%、「（24）医療体制の充実」が 15.9%となっています。

表 16 総合計画各施策の優先度（複数回答）（無回答を除く）

※回答者数：774人

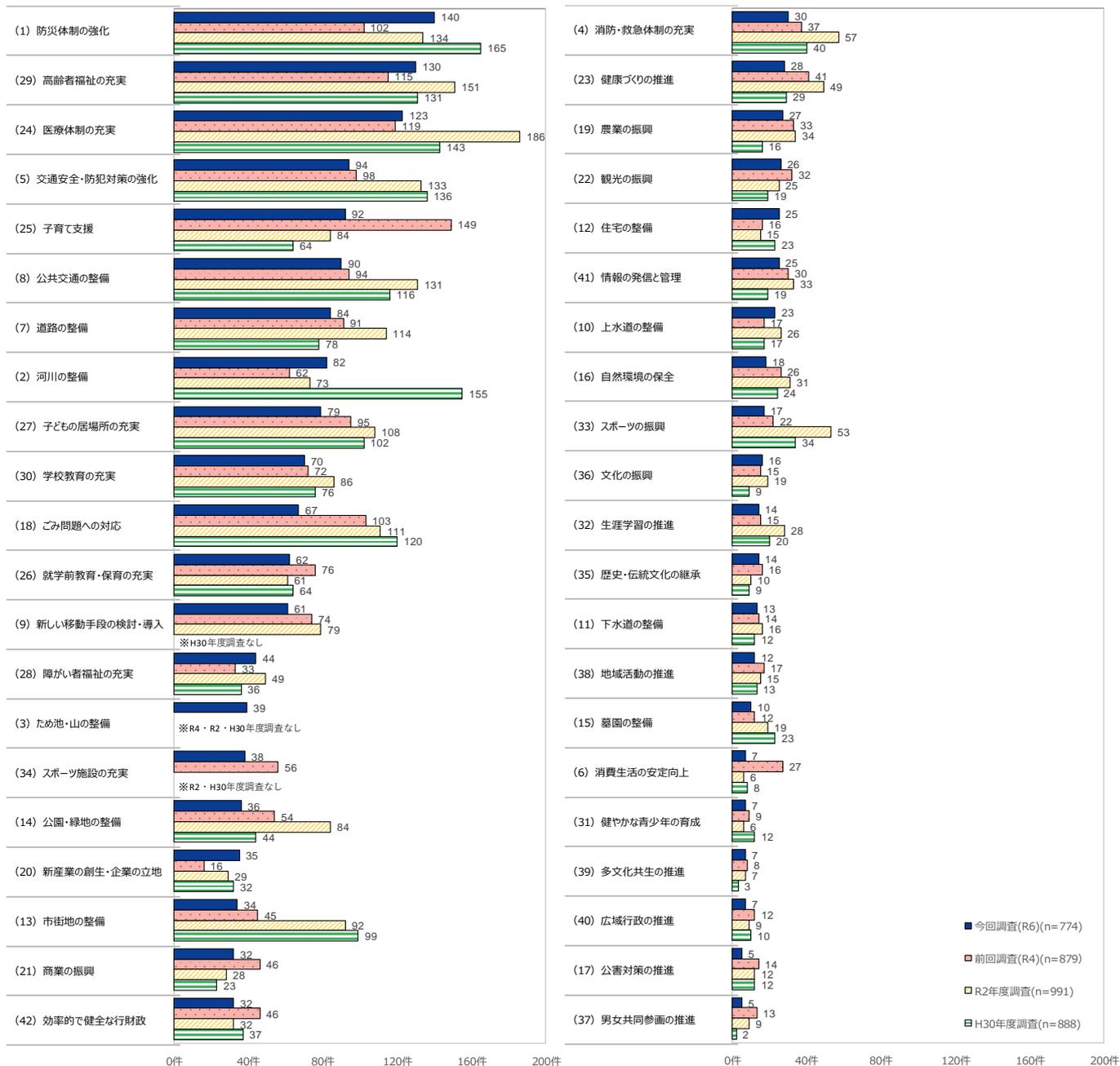
	件数	%
(1) 防災体制の強化	140	18.1%
(29) 高齢者福祉の充実	130	16.8%
(24) 医療体制の充実	123	15.9%
(5) 交通安全・防犯対策の強化	94	12.1%
(25) 子育て支援	92	11.9%
(8) 公共交通の整備	90	11.6%
(7) 道路の整備	84	10.9%
(2) 河川の整備	82	10.6%
(27) 子どもの居場所の充実	79	10.2%
(30) 学校教育の充実	70	9.0%
(18) ごみ問題への対応	67	8.7%
(26) 就学前教育・保育の充実	62	8.0%
(9) 新しい移動手段の検討・導入	61	7.9%
(28) 障がい者福祉の充実	44	5.7%
(3) ため池・山の整備	39	5.0%
(34) スポーツ施設の充実	38	4.9%
(14) 公園・緑地の整備	36	4.7%
(20) 新産業の創生・企業の立地	35	4.5%
(13) 市街地の整備	34	4.4%
(21) 商業の振興	32	4.1%
(42) 効率的で健全な行財政	32	4.1%
(4) 消防・救急体制の充実	30	3.9%
(23) 健康づくりの推進	28	3.6%
(19) 農業の振興	27	3.5%
(22) 観光の振興	26	3.4%
(12) 住宅の整備	25	3.2%
(41) 情報の発信と管理	25	3.2%
(10) 上水道の整備	23	3.0%
(16) 自然環境の保全	18	2.3%
(33) スポーツの振興	17	2.2%
(36) 文化の振興	16	2.1%
(32) 生涯学習の推進	14	1.8%
(35) 歴史・伝統文化の継承	14	1.8%
(11) 下水道の整備	13	1.7%
(38) 地域活動の推進	12	1.6%
(15) 墓園の整備	10	1.3%
(6) 消費生活の安定向上	7	0.9%
(31) 健やかな青少年の育成	7	0.9%
(39) 多文化共生の推進	7	0.9%
(40) 広域行政の推進	7	0.9%
(17) 公害対策の推進	5	0.6%
(37) 男女共同参画の推進	5	0.6%

図 24 総合計画各施策の優先度（複数回答）（無回答を除く）



過去の調査から優先度を経年的にみると、平成 30 年度調査から令和 6 年度調査の間に、大きく優先度が高まったものはありませんでした。一方、50 件以上低下しているのは、「(2)河川の整備」(平成 30 年度調査比▲73 件)、 「(13)市街地の整備」(平成 30 年度調査比▲65 件)、 「(18)ごみ問題への対応」(平成 30 年度調査比▲53 件) となっています。

図 25 総合計画各施策の優先度 (経年比較) (無回答を除く)



※以下の調査項目については、年度により調査を実施していません

平成30年度調査	令和2年度調査	令和4年度調査
	(3) ため池・山の整備 (「河川・ため池・山の整備」として調査。今年度は「(2) 河川の整備」として集計)	
(9) 新しい移動手段の検討・導入	(34) スポーツ施設の充実	
(34) スポーツ施設の充実		

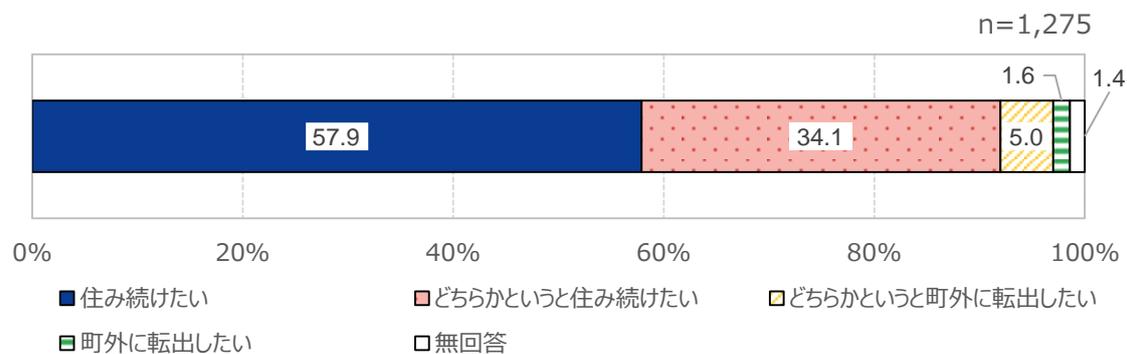
## 7 幸田町に住み続けたいか（問 12）

幸田町への定住の意向について、「住み続けたい」が 57.9%と最も多く、「どちらかというに住み続けたい」の 34.1%と合わせると 92.0%の人が幸田町での定住を希望しています。

表 17 幸田町に住み続けたいか

	件数	%
住み続けたい	738	57.9%
どちらかというに住み続けたい	435	34.1%
どちらかという町外に転出したい	64	5.0%
町外に転出したい	20	1.6%
無回答	18	1.4%
合計	1,275	100.0%

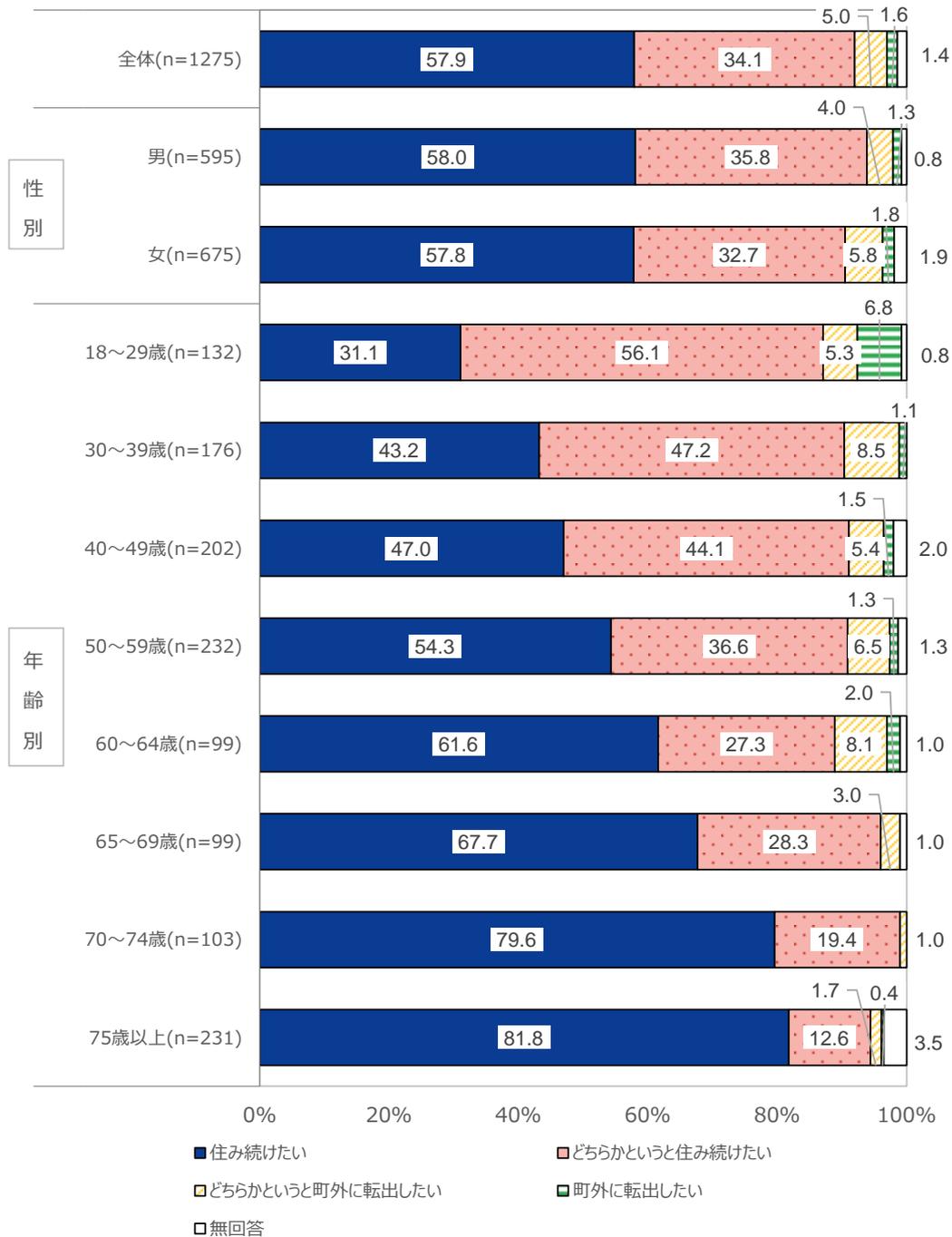
図 26 幸田町に住み続けたいか



性別で比較すると、ほとんど差は認められません。

年齢別で比較すると、年齢が高くなるほど、「住み続けたい」の割合も高くなる傾向にあります。「住み続けたい」と「どちらかというに住み続けたい」を合わせた割合は70～74歳で99.0%と最も高くなっています。一方、18～29歳では87.2%と最も低く、次いで、60～64歳で88.9%となっています。

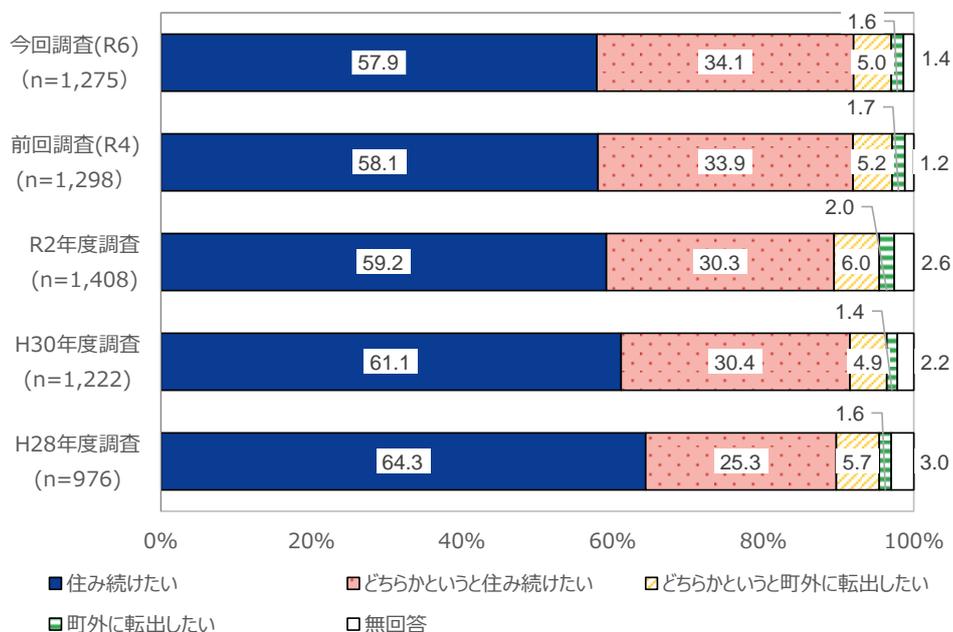
図 27 幸田町に住み続けたいか（性・年齢別）



過去の調査と比較すると、「住み続けたい」は平成 28 年度調査の 64.3%から徐々に低下し、今回の令和 6 年度調査では 57.9%となっています。平成 28 年度調査からは、6.4 ポイント低下しています。

「住み続けたい」と「どちらかというに住み続けたい」を合わせると、平成 28 年度調査の 89.6%から、今回調査では 92.0%となっています。

図 28 幸田町に住み続けたいか（経年比較）



## 8 幸田町のよいところは（問 13）

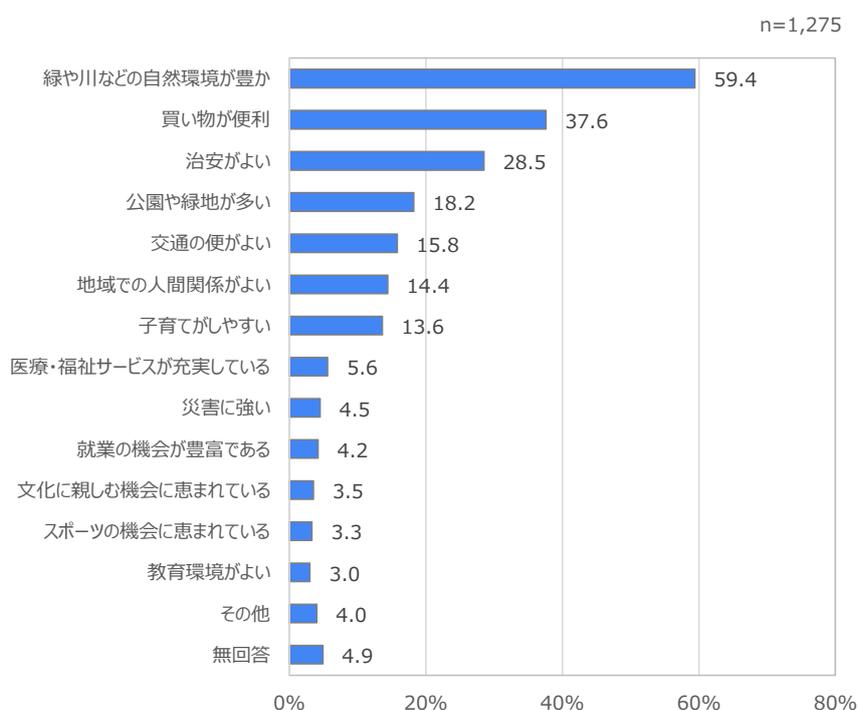
幸田町のよいところを尋ねたところ、「緑や川などの自然環境が豊か」が 59.4%と最も多く、次いで「買い物が便利」が 37.6%、「治安がよい」が 28.5%となっています。

表 18 幸田町のよいところは（複数回答）

回答者数：1,275人

	件数	%
緑や川などの自然環境が豊か	757	59.4%
買い物が便利	479	37.6%
治安がよい	363	28.5%
公園や緑地が多い	232	18.2%
交通の便がよい	201	15.8%
地域での人間関係がよい	184	14.4%
子育てがしやすい	173	13.6%
医療・福祉サービスが充実している	71	5.6%
災害に強い	57	4.5%
就業の機会が豊富である	53	4.2%
文化に親しむ機会に恵まれている	45	3.5%
スポーツの機会に恵まれている	42	3.3%
教育環境がよい	38	3.0%
その他	51	4.0%
無回答	62	4.9%
合計	2,808	

図 29 幸田町のよいところは（複数回答）



性別で比較すると、男女とも「緑や川などの自然環境が豊か」、「買い物が便利」、「治安がよい」の3項目が上位になっており、大きな差はみられませんでした。また、「子育てがしやすい」は男性が10.1%、女性が16.7%、で女性が6.6ポイント上回っています。

年齢別で比較すると、いずれの年代でも「緑や川などの自然環境が豊か」が最も高くなっています。特に60～64歳では、「緑や川などの自然環境が豊か」が73.7%で、他の世代と比べても高くなっています。30～39歳から70～74歳の年代では、上位3項目は全体と同じですが、18～29歳では「緑や川などの自然環境が豊か」、「買い物が便利」の他、「公園や緑地が多い」が上位となっています。また、75歳以上では、「緑や川などの自然環境が豊か」、「買い物が便利」の他「地域での人間関係がよい」が上位3項目のうちに入っています。

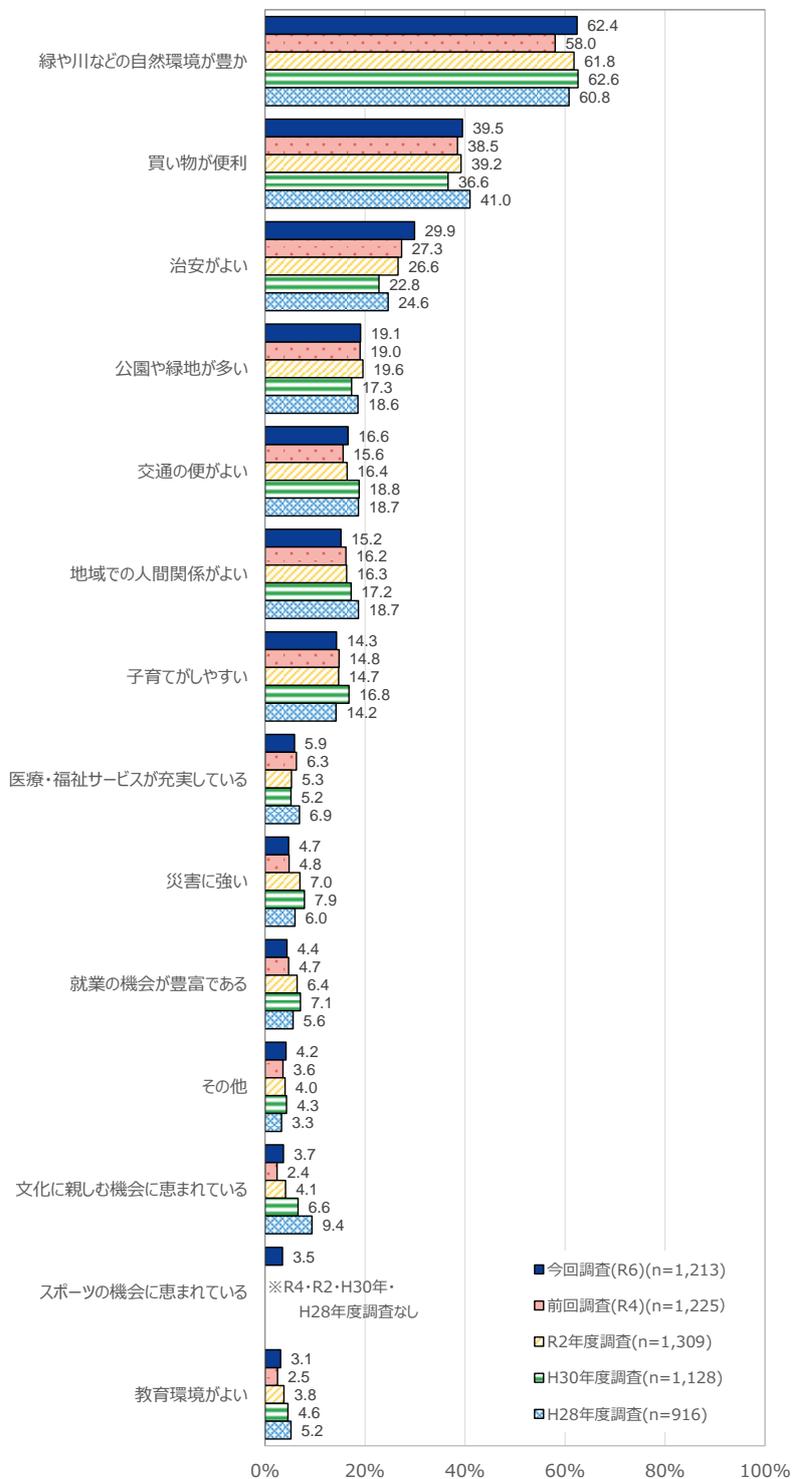
小学校区別で比較しても、上位3項目は全体と変わりません。坂崎小学校区は「子育てがしやすい」も上位3項目に含まれています。また、坂崎小学校区では、「買い物が便利」が19.6%、「交通の便がよい」が6.5%、「医療・福祉サービスが充実している」が1.9%で、これらは6小学校区中最も低くなっています。一方で、中央小学校区では、「買い物が便利」が50.6%で、他の小学校区より高くなっています。また、荻谷小学校区では、「交通の便がよい」が21.3%で、相対的に高くなっています。「医療・福祉サービスが充実している」が相対的に高いのは、豊坂小学校区(7.9%)ですが、本項目に関しては、いずれの小学校区も低い割合となっています。

表 19 幸田町のよいところは（年齢・校区別）（複数回答）

区分	合計	緑や川などの自然環境が豊か	買い物が便利	治安がよい	公園や緑地が多い	交通の便がよい	地域での人間関係がよい	子育てがしやすい	医療・福祉サービスが充実している	災害に強い	就業の機会が豊富である	文化に親しむ機会に恵まれている	スポーツの機会に恵まれている	教育環境がよい	その他	無回答	
全体	1,275	59.4	37.6	28.5	18.2	15.8	14.4	13.6	5.6	4.5	4.2	3.5	3.3	3.0	4.0	4.9	
性別	男	595	57.6	37.1	29.2	18.3	18.5	15.0	10.1	4.9	4.9	4.0	3.2	3.2	4.0	4.7	
	女	675	61.2	37.6	27.9	18.1	13.5	13.9	16.7	6.2	4.0	3.6	3.1	3.4	2.8	4.0	5.0
年齢別	18～29歳	132	57.6	28.0	35.6	30.3	18.2	9.1	12.9	5.3	7.6	2.3	3.0	2.3	4.5	4.5	2.3
	30～39歳	176	48.9	33.5	31.3	25.0	17.0	8.5	29.0	2.8	4.5	2.8	1.1	2.3	4.0	4.0	3.4
	40～49歳	202	63.4	33.2	35.1	17.3	19.3	12.4	26.2	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	5.4	3.5	2.0
	50～59歳	232	63.4	32.3	27.2	11.2	15.1	14.7	13.4	0.9	2.6	6.9	4.3	1.3	1.7	4.7	4.7
	60～64歳	99	73.7	42.4	24.2	12.1	10.1	12.1	7.1	1.0	3.0	6.1	5.1	1.0	1.0	6.1	6.1
	65～69歳	99	55.6	43.4	22.2	22.2	15.2	15.2	7.1	13.1	3.0	3.0	2.0	4.0	2.0	2.0	9.1
	70～74歳	103	66.0	54.4	29.1	16.5	17.5	14.6	2.9	11.7	2.9	4.9	3.9	3.9	1.0	6.8	1.9
	75歳以上	231	53.2	43.3	22.1	15.2	13.0	23.8	1.7	11.3	8.7	4.3	6.1	8.7	2.6	2.2	9.1
校区別	坂崎	107	68.2	19.6	34.6	17.8	6.5	17.8	19.6	1.9	4.7	4.7	2.8	5.6	4.7	0.9	5.6
	幸田	388	58.0	45.4	30.2	19.3	17.0	10.8	14.2	7.0	4.6	2.1	4.1	2.1	3.4	3.9	4.1
	中央	245	53.5	50.6	24.9	20.4	15.9	15.9	14.3	4.1	4.5	4.5	4.5	5.7	3.7	5.7	3.7
	荻谷	169	60.4	36.1	27.2	17.8	21.3	13.6	8.9	4.7	5.9	6.5	1.2	2.4	1.8	5.3	4.7
	深溝	184	58.7	21.7	23.9	17.9	19.0	17.4	11.4	5.4	3.8	3.3	5.4	2.2	0.5	4.3	6.5
	豊坂	164	67.1	31.1	32.9	14.0	11.0	16.5	15.9	7.9	3.0	6.7	1.8	3.0	4.3	1.8	3.7

過去の調査をみると、平成 28 年度から、上位 3 項目は、「緑や川などの自然環境が豊か」、「買い物が便利」、「治安が良い」となっており、顕著な変化は見られません。

図 30 幸田町のよいところは（経年比較）（複数回答）（無回答を除く）



※前回調査までは、「文化やスポーツの機会に恵まれている」として調査。今年度は「文化に親しむ機会に恵まれている」として集計

## 9 幸田町の悪いところは（問 14）

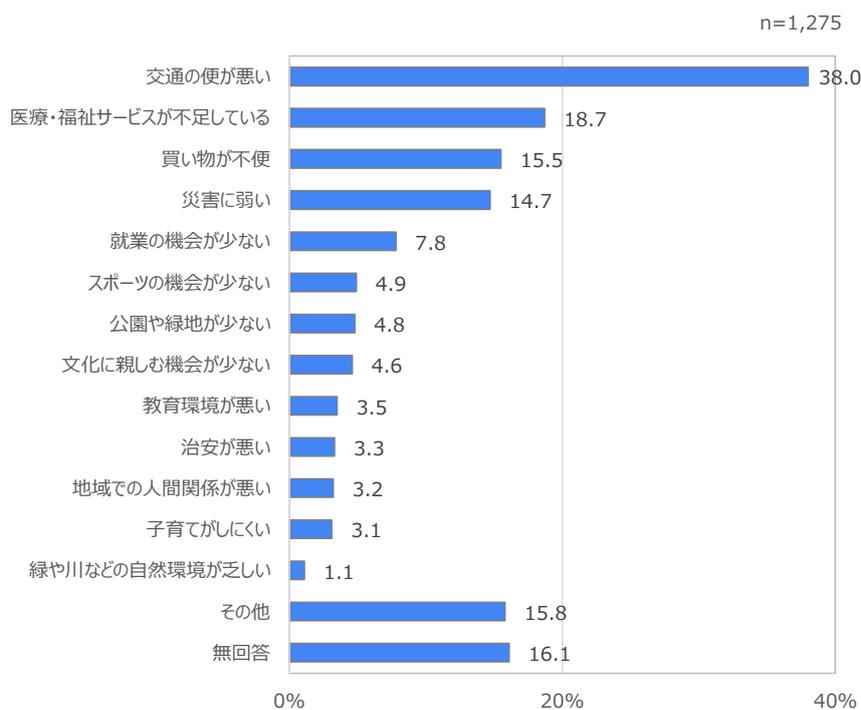
幸田町の悪いところを尋ねたところ、「交通の便が悪い」が 38.0%と最も多く、次いで「医療・福祉サービスが不足している」が 18.7%、「買い物不便」が 15.5%となっています。

表 20 幸田町の悪いところは（複数回答）

回答者数：1,275人

	件数	%
交通の便が悪い	484	38.0%
医療・福祉サービスが不足している	239	18.7%
買い物が不便	198	15.5%
災害に弱い	187	14.7%
就業の機会が少ない	100	7.8%
スポーツの機会が少ない	62	4.9%
公園や緑地が少ない	61	4.8%
文化に親しむ機会が少ない	59	4.6%
教育環境が悪い	44	3.5%
治安が悪い	42	3.3%
地域での人間関係が悪い	41	3.2%
子育てがしにくい	40	3.1%
緑や川などの自然環境が乏しい	14	1.1%
その他	201	15.8%
無回答	205	16.1%
合計	1,977	

図 31 幸田町の悪いところは（複数回答）



性別で比較すると、男女ともに、上位2項目は「交通の便が悪い」「医療・福祉サービスが不足している」の順で高くなっていますが、3項目目は、男性は「災害に弱い」、女性は「買い物不便」となっています。

年齢別で比較すると、いずれの年齢でも最も多かったのは「交通の便が悪い」となり、2番目には、ほとんどの年齢で「医療・福祉サービスが不足している」が高くなっていますが、18～29歳、30～39歳の若年層、および、75歳以上の高齢者層で「買い物不便」が2番目に高くなっています。

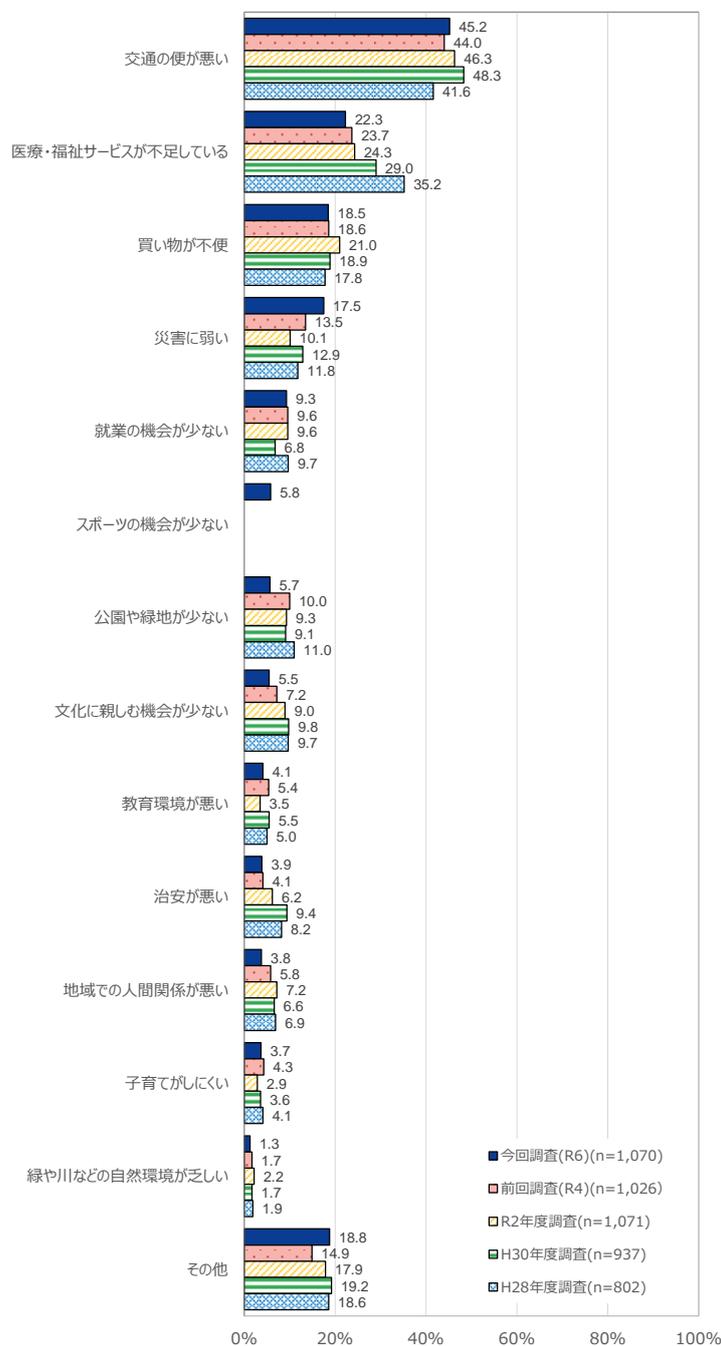
小学校区別で比較しても、「交通の便が悪い」が最も高い割合となっています。坂崎小学校区や深溝小学校区では「買い物不便」が2番目に高くなっており、その他の小学校区と比べても高くなっています。幸田小学校区や中央小学校区では「災害に弱い」が上位3項目に入っています。

図 32 幸田町の悪いところは（性別・年齢・校区別）（複数回答）

区分		n	交通の便が悪い	医療・福祉サービスが不足している	買い物不便	災害に弱い	就業の機会が少ない	スポーツの機会が少ない	公園や緑地が少ない	文化に親しむ機会が少ない	教育環境が悪い	治安が悪い	地域での人間関係が悪い	子育てがしにくい	緑や川などの自然環境が乏しい	その他	無回答
全体		1,275	38.0	18.7	15.5	14.7	7.8	4.9	4.8	4.6	3.5	3.3	3.2	3.1	1.1	15.8	16.1
性別	男	595	37.6	19.0	16.3	17.5	7.1	5.7	4.9	5.5	4.0	3.4	3.7	3.5	1.3	16.1	12.8
	女	675	38.4	18.7	15.0	12.3	8.6	4.1	4.7	3.7	2.8	3.3	2.8	2.7	0.9	15.4	18.8
年齢別	18～29歳	132	39.4	10.6	18.9	15.9	12.9	8.3	6.8	4.5	2.3	3.0	2.3	1.5	0.0	16.7	7.6
	30～39歳	176	35.8	19.3	19.9	18.8	8.5	8.0	8.0	4.5	5.7	5.1	2.8	9.1	2.3	17.0	7.4
	40～49歳	202	38.1	24.8	18.3	20.8	9.9	7.9	4.5	3.0	5.0	3.0	3.0	3.0	0.0	18.3	6.9
	50～59歳	232	38.8	22.0	11.2	15.5	7.8	2.6	5.6	3.4	3.4	4.3	2.6	3.9	0.4	19.8	11.2
	60～64歳	99	43.4	26.3	14.1	11.1	12.1	2.0	5.1	5.1	2.0	2.0	6.1	2.0	0.0	17.2	15.2
	65～69歳	99	37.4	20.2	9.1	11.1	4.0	4.0	3.0	1.0	3.0	0.0	2.0	1.0	1.0	12.1	28.3
	70～74歳	103	25.2	18.4	8.7	14.6	3.9	3.9	6.8	9.7	3.9	3.9	1.9	1.0	1.0	9.7	31.1
	75歳以上	231	41.1	10.4	18.2	7.8	4.3	2.2	0.4	6.5	1.7	3.0	4.8	1.3	3.0	11.7	29.0
校区別	坂崎	107	51.4	17.8	26.2	13.1	7.5	1.9	6.5	4.7	0.9	2.8	4.7	4.7	3.7	13.1	12.1
	幸田	388	38.7	18.0	9.3	18.3	7.2	6.7	5.2	4.6	4.1	4.6	2.8	3.4	0.5	15.2	12.6
	中央	245	38.4	17.6	8.6	15.5	9.8	3.3	5.3	4.9	1.2	1.2	4.1	1.2	0.4	18.4	18.4
	荻谷	169	37.3	20.1	14.8	8.3	10.1	5.9	2.4	4.7	3.0	4.1	1.2	4.1	1.8	17.2	18.9
	深溝	184	31.0	17.9	28.8	10.9	6.5	3.3	3.8	3.8	3.8	3.3	4.3	3.8	1.1	16.8	19.6
	豊坂	164	35.4	24.4	20.7	16.5	5.5	5.5	5.5	5.5	6.1	3.0	3.0	3.0	0.6	12.2	15.2

過去の調査から幸田町の悪いところの評価について経年変化をみると、「交通の便が悪い」と「医療・福祉サービスが不足している」が上位2項目で変化はありませんが、平成28年度調査では、「医療・福祉サービスが不足している」は35.2%でしたが、今回調査では22.3%と、大きく低下しています。その差は▲12.9ポイントです。

図 33 幸田町の悪いところは（経年比較）（複数回答）



※前回調査までは、「文化やスポーツの機会が少ない」として調査。今年度は「文化に親しむ機会が少ない」として集計

## 第4章 日常生活における行動・意識調査結果

(問 15～問 17)

## 1 日常生活における行動・意識（問 15）

27 項目の「日常生活における行動・意識」について、『はい』、『いいえ』で回答を求めました。

日常生活における行動・意識について、『はい』と回答した割合が高かった項目を順にみていくと、「(11) あなたは、資源・ごみの分別方法を知っていますか」が 95.1%と最も高く、次いで、「(4) あなたは、幸田町に消防団があることを知っていますか」が 95.0%となり、9 割を超えています。

「(12) あなたは、省エネルギーやリサイクルに心掛けていますか」(85.7%)、「(24) あなたは、この 1 ヶ月の間に地域の人とあいさつや会話をしたことがありますか」(85.3%)、「(16) あなたは、普段から健康に心掛けていますか」(81.9%)、「(18) あなたは、日常生活の中で身近に相談できる人がいますか」(80.7%)、「(27) あなたは、広報こつたを読んでいますか」(80.1%) も 8 割を超え、高くなっています。

一方で、『はい』と回答した割合が低かったのは、「(3) あなたは、マイタイムラインを知っていますか」が 11.3%と最も低く、次いで、「(5) あなたは、町が“止まってくれて「ありがとう！」”をスローガンに交通安全運動を実施していることを知っていますか」(28.2%)、「(15) あなたが町外の人に紹介したいと思う幸田町の観光資源はありますか」(29.3%) となっています。

表 21 日常生活における行動・意識

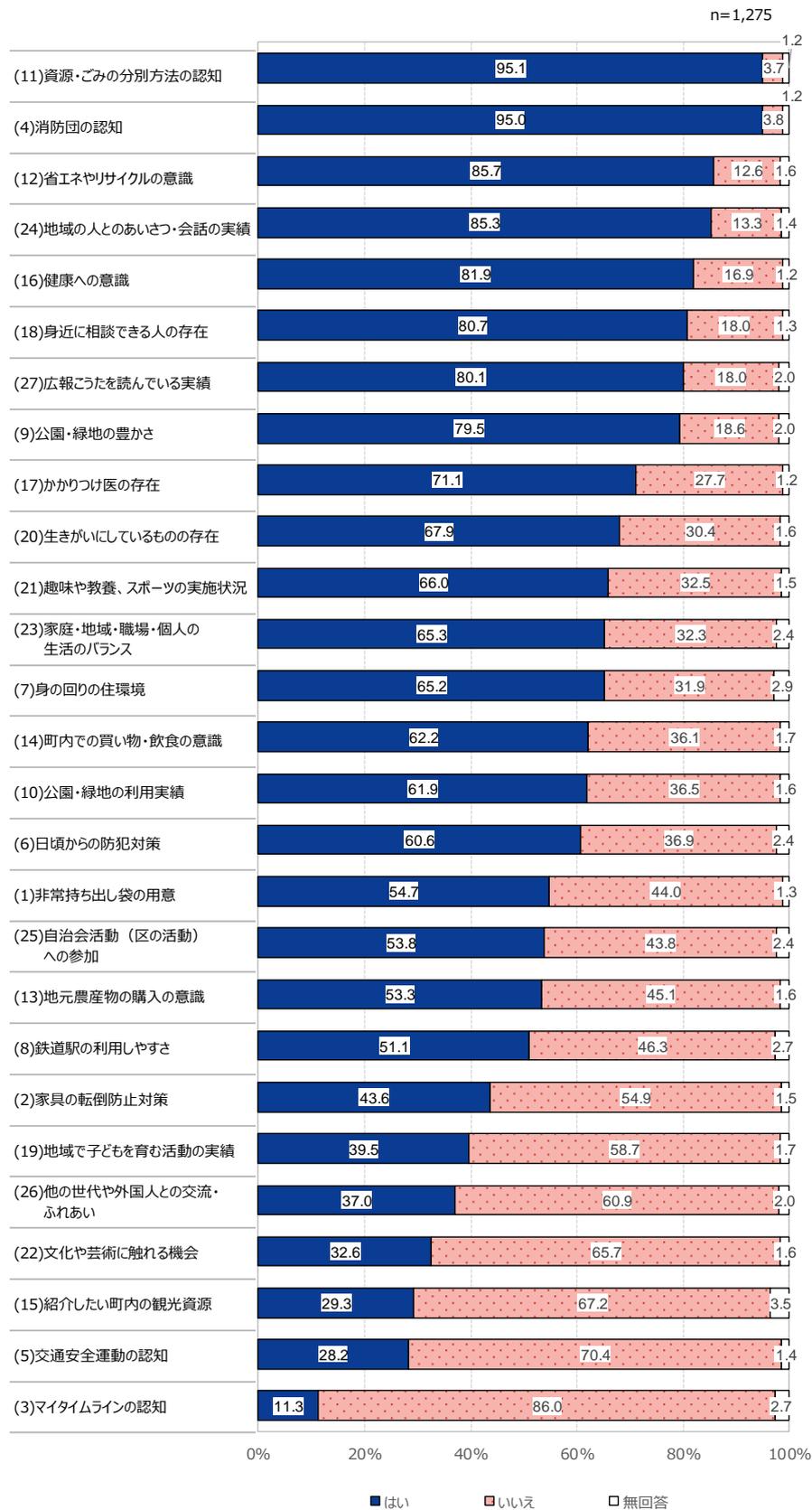
上段：人数、下段：%

		n	はい	いいえ	無回答
安心・安全	(1)非常持ち出し袋の用意	1,275	697	561	17
		100.0%	54.7%	44.0%	1.3%
	(2)家具の転倒防止対策	1,275	556	700	19
		100.0%	43.6%	54.9%	1.5%
	(3)マイタイムラインの認知	1,275	144	1,097	34
		100.0%	11.3%	86.0%	2.7%
	(4)消防団の認知	1,275	1,211	49	15
		100.0%	95.0%	3.8%	1.2%
	(5)交通安全運動の認知	1,275	360	897	18
		100.0%	28.2%	70.4%	1.4%
環境	(6)日頃からの防犯対策	1,275	773	471	31
		100.0%	60.6%	36.9%	2.4%
	(7)身の回りの住環境	1,275	831	407	37
		100.0%	65.2%	31.9%	2.9%
	(8)鉄道駅の利用しやすさ	1,275	651	590	34
		100.0%	51.1%	46.3%	2.7%
	(9)公園・緑地の豊かさ	1,275	1,013	237	25
		100.0%	79.5%	18.6%	2.0%
	(10)公園・緑地の利用実績	1,275	789	466	20
		100.0%	61.9%	36.5%	1.6%
産業振興	(11)資源・ごみの分別方法の認知	1,275	1,213	47	15
		100.0%	95.1%	3.7%	1.2%
	(12)省エネやリサイクルの意識	1,275	1,093	161	21
	100.0%	85.7%	12.6%	1.6%	
健康・福祉	(13)地元農産物の購入の意識	1,275	680	575	20
		100.0%	53.3%	45.1%	1.6%
	(14)町内での買い物・飲食の意識	1,275	793	460	22
	100.0%	62.2%	36.1%	1.7%	
健康・福祉	(15)紹介したい町内の観光資源	1,275	374	857	44
		100.0%	29.3%	67.2%	3.5%
	(16)健康への意識	1,275	1,044	216	15
		100.0%	81.9%	16.9%	1.2%
	(17)かかりつけ医の存在	1,275	907	353	15
	100.0%	71.1%	27.7%	1.2%	
健康・福祉	(18)身近に相談できる人の存在	1,275	1,029	229	17
		100.0%	80.7%	18.0%	1.3%
	(19)地域で子どもを育む活動の実績	1,275	504	749	22
	100.0%	39.5%	58.7%	1.7%	

上段：人数、下段：%

		n	はい	いいえ	無回答
教育・文化	(20)生きがいになっているものの存在	1,275	866	388	21
		100.0%	67.9%	30.4%	1.6%
	(21)趣味や教養、スポーツの実施状況	1,275	842	414	19
		100.0%	66.0%	32.5%	1.5%
	(22)文化や芸術に触れる機会	1,275	416	838	21
		100.0%	32.6%	65.7%	1.6%
協働・参画	(23)家庭・地域・職場・個人の生活のバランス	1,275	832	412	31
		100.0%	65.3%	32.3%	2.4%
	(24)地域の人とのあいさつ・会話の実績	1,275	1,088	169	18
		100.0%	85.3%	13.3%	1.4%
	(25)自治会活動（区の活動）への参加	1,275	686	559	30
		100.0%	53.8%	43.8%	2.4%
(26)他の世代や外国人との交流・ふれあい	1,275	472	777	26	
	100.0%	37.0%	60.9%	2.0%	
(27)広報こうたを読んでいる実績	1,275	1,021	229	25	
	100.0%	80.1%	18.0%	2.0%	

図 34 日常生活における行動・意識



## 2 この1年間の学習の形式（問 16）

この1年くらいの中に、どのような場所や形態で学習をしたことがあるかを尋ねたところ、「学習したことがない」が13.8%、「わからない」が6.0%となりますので、この2項目と、無回答の2.6%を除いた77.6%は「学習をしたことがある」ということとなります。

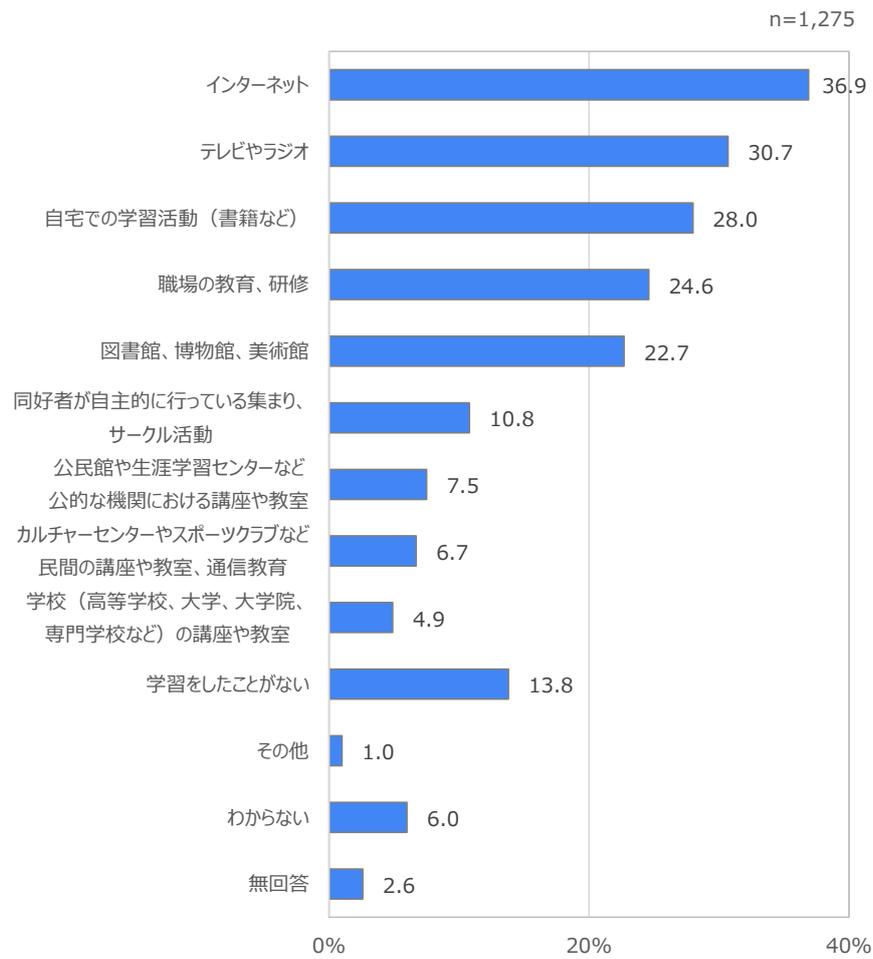
その学習形式の割合は、「インターネット」が36.9%で最も高く、次いで「テレビやラジオ」（30.7%）、「自宅での学習活動（書籍など）」（28.0%）となっています。

表 22 この1年間の学習の形式（複数回答）

回答者数：1,275人

	件数	%
インターネット	470	36.9%
テレビやラジオ	392	30.7%
自宅での学習活動（書籍など）	357	28.0%
職場の教育、研修	314	24.6%
図書館、博物館、美術館	289	22.7%
同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	138	10.8%
公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室	96	7.5%
カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育	86	6.7%
学校（高等学校、大学、大学院、専門学校など）の講座や教室	62	4.9%
学習をしたことがない	176	13.8%
その他	13	1.0%
わからない	76	6.0%
無回答	33	2.6%
合計	2,502	

図 35 この1年の学習の形式（複数回答）



### 3 この1年間のスポーツ実施状況（問 17）

この1年くらいの中に、どの程度運動やスポーツを実施したかを尋ねたところ、「運動やスポーツをしなかった」とした人の割合が24.3%で最も高くなっています。

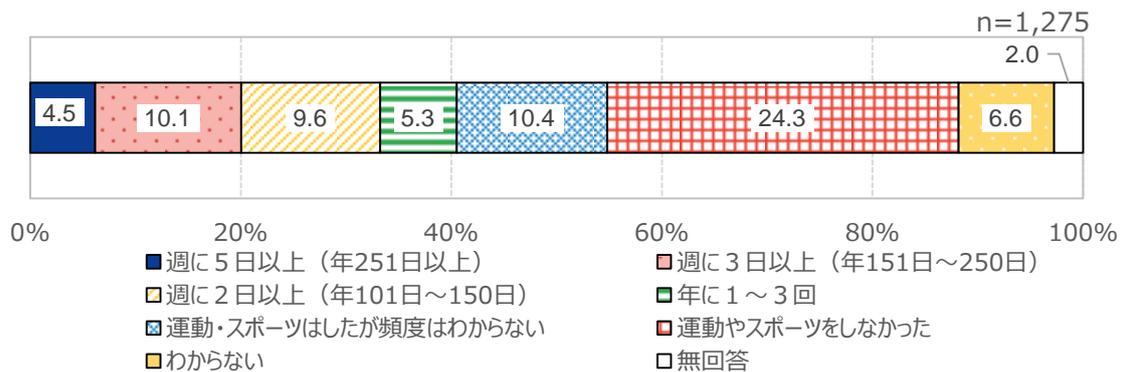
また、「運動やスポーツをしなかった」と「わからない」（6.6%）、および「無回答」（2.0%）を除いた67.1%は「運動やスポーツをした」となります。

その頻度は、「月に1～3日（年12日～50日）」の割合が12.1%で最も高く、次いで「週に1日以上（年51日～100日）」が10.8%、「週に3日以上（年151日～250日）」が10.1%となっています。

表 23 この1年間のスポーツ実施状況

	件数	%
週に5日以上（年251日以上）	58	4.5%
週に3日以上（年151日～250日）	129	10.1%
週に2日以上（年101日～150日）	122	9.6%
週に1日以上（年51日～100日）	138	10.8%
月に1～3日（年12日～50日）	154	12.1%
3ヶ月に1～2日（年4日～11日）	54	4.2%
年に1～3回	68	5.3%
運動・スポーツはしたが頻度はわからない	132	10.4%
運動やスポーツをしなかった	310	24.3%
わからない	84	6.6%
無回答	26	2.0%
合計	1,275	100.0%

図 36 この1年間のスポーツ実施状況



第 5 章 ICT（情報通信技術）の活用についての  
調査結果  
(問 18～問 19)

## 1 インターネットを利用する際の端末（問 18）

インターネットをどのような端末で利用しているかを尋ねたところ、「利用したことはないが、今後利用してみたい」が1.3%、「今まで利用したことがないし、今後も利用する予定はない」が8.5%でした。この2項目と「無回答」2.5%を除いた、87.7%は「インターネットを利用している」こととなります。

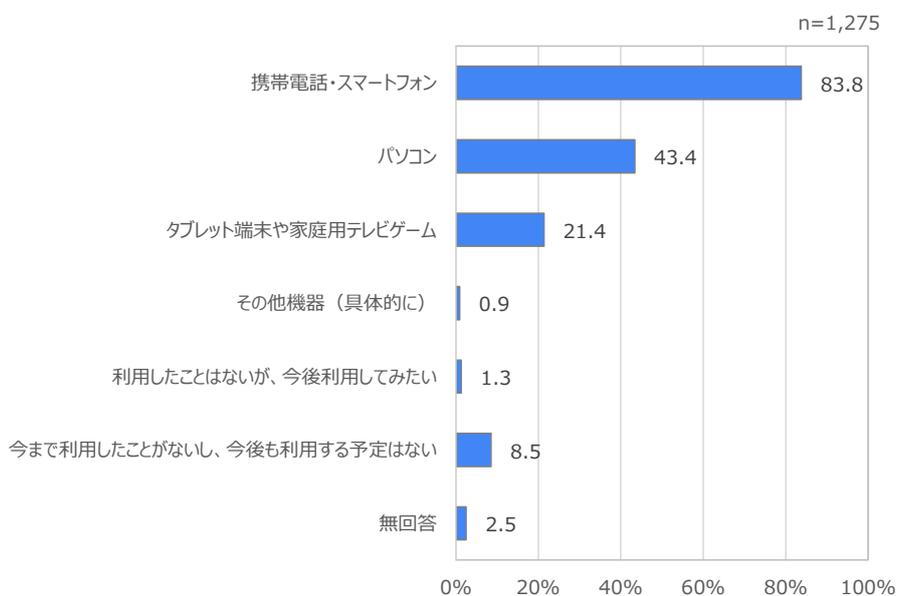
どのような端末で利用しているかについては、「携帯電話・スマートフォン」の割合が83.8%で、他端末と比べると、極めて高くなっています。次いで「パソコン」の43.4%、「タブレット端末や家庭用テレビゲーム」の21.4%などとなっています。

表 24 インターネットを利用する際の端末（複数回答）

回答者数：1,275人

	件数	%
携帯電話・スマートフォン	1,069	83.8%
パソコン	553	43.4%
タブレット端末や家庭用テレビゲーム	273	21.4%
その他機器（具体的に）	12	0.9%
利用したことはないが、今後利用してみたい	17	1.3%
今まで利用したことがないし、今後も利用する予定はない	109	8.5%
無回答	32	2.5%
合計	2,065	

図 37 インターネットを利用する際の端末（複数回答）



## 2 ICTを使った行政サービスのうち充実していくべきこと（問 19）

ICT（情報通信技術）を使った行政サービスのうち、特に充実していくべきことを尋ねたところ、「自宅のパソコンやスマートフォンから役場の手続きができる仕組み（電子申請）」が52.0%で最も高く、次いで「災害時に避難所（小学校など）で使える公衆無線LANの整備」が43.2%となっています。

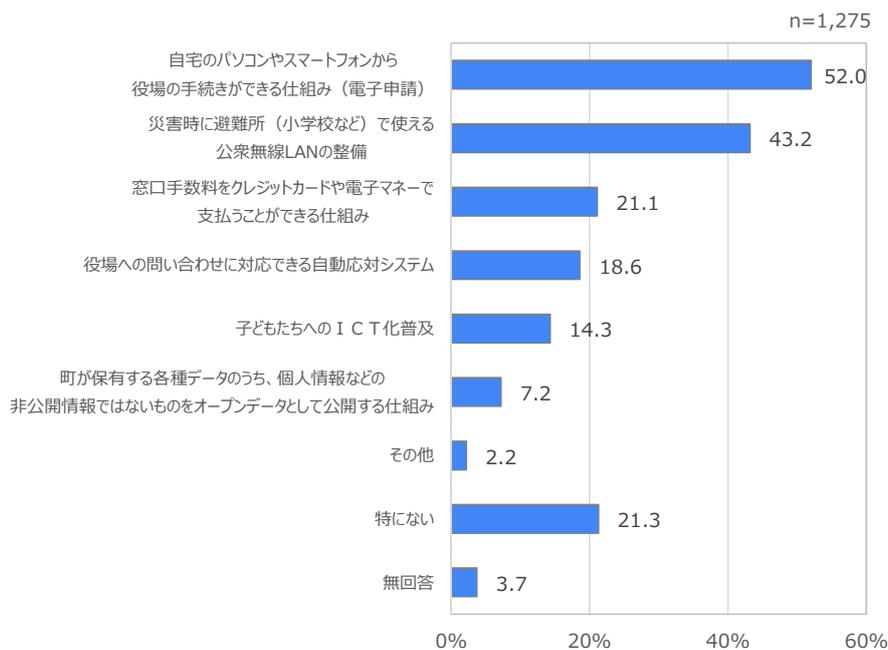
このほか、「窓口手数料をクレジットカードや電子マネーで支払うことができる仕組み」が21.1%、「役場への問い合わせに対応できる自動対応システム」が18.6%、「子どもたちへのICT化普及」が14.3%などとなっています。

表 25 ICTを使った行政サービスのうち充実していくべきこと（複数回答）

回答者数：1,275人

	件数	%
自宅のパソコンやスマートフォンから役場の手続きができる仕組み（電子申請）	663	52.0%
災害時に避難所（小学校など）で使える公衆無線LANの整備	551	43.2%
窓口手数料をクレジットカードや電子マネーで支払うことができる仕組み	269	21.1%
役場への問い合わせに対応できる自動対応システム	237	18.6%
子どもたちへのICT化普及	182	14.3%
町が保有する各種データのうち、個人情報などの非公開情報ではないものをオープンデータとして公開する仕組み	92	7.2%
その他	28	2.2%
特にない	272	21.3%
無回答	47	3.7%
合計	2,341	

図 38 ICTを使った行政サービスのうち充実していくべきこと（複数回答）



## 第 6 章 感染症等の影響についての調査結果

(問 20)

## 1 新たな感染症対策として重点的に実施してほしい施策（問 20）

今後、新型コロナウイルス感染症のような新たな感染症が発生した場合に、重点的に実施してほしいと考える施策を尋ねたところ、「安定した医療体制の確保」が 77.6%となり、他の施策と比べると、極めて高い割合となっています。

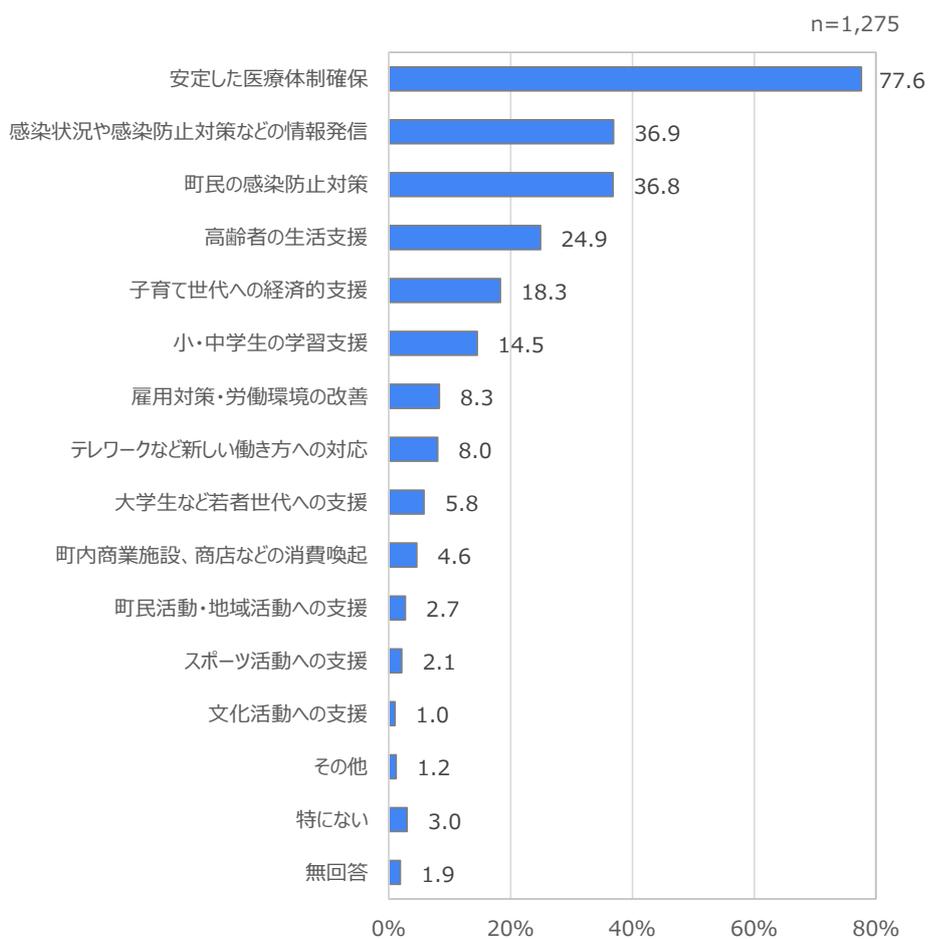
次いで、「感染状況や感染防止対策などの情報発信」が 36.9%、「町民の感染防止対策」が 36.8%と続きます。

表 26 新たな感染症対策として重点的に実施して欲しいこと（複数回答）

回答者数：1,275人

	件数	%
安定した医療体制確保	990	77.6%
感染状況や感染防止対策などの情報発信	471	36.9%
町民の感染防止対策	469	36.8%
高齢者の生活支援	318	24.9%
子育て世代への経済的支援	233	18.3%
小・中学生の学習支援	185	14.5%
雇用対策・労働環境の改善	106	8.3%
テレワークなど新しい働き方への対応	102	8.0%
大学生など若者世代への支援	74	5.8%
町内商業施設、商店などの消費喚起	59	4.6%
町民活動・地域活動への支援	35	2.7%
スポーツ活動への支援	27	2.1%
文化活動への支援	13	1.0%
その他	15	1.2%
特にない	38	3.0%
無回答	24	1.9%
合計	3,159	

図 39 新たな感染症対策として重点的に実施して欲しいこと（複数回答）



## 第7章 公共交通に関する調査結果 (問21～問22-2)

## 1 公共交通の利用のしやすさ（問 21）

幸田町のそれぞれの公共交通について利用のしやすさを尋ねたところ、「利用しやすい」との回答は「(1) JR（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）」では41.0%と比較的高いものの、それ以外については総じて低くなっています。

「幸田町における公共交通全般」の評価についても、「利用しやすい」との回答は、9.3%にとどまっています。

表 27 公共交通の利用のしやすさ

上段：人数、下段：%

	n	利用しやすい	どちらとも いえない	利用しづらい	利用したことが ない	無回答
(1)JR（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）	1,275	523	381	192	72	107
	100.0%	41.0%	29.9%	15.1%	5.6%	8.4%
(2)タクシー	1,275	128	313	197	518	119
	100.0%	10.0%	24.5%	15.5%	40.6%	9.3%
(3)コミュニティバス えこたんバス	1,275	65	178	179	746	107
	100.0%	5.1%	14.0%	14.0%	58.5%	8.4%
(4)福祉タクシーチケット	1,275	31	137	39	950	118
	100.0%	2.4%	10.7%	3.1%	74.5%	9.3%
(5)高齢者タクシーチケット	1,275	30	135	33	963	114
	100.0%	2.4%	10.6%	2.6%	75.5%	8.9%
幸田町における公共交通全般	1,275	118	506	278	194	179
	100.0%	9.3%	39.7%	21.8%	15.2%	14.0%

図 40 公共交通の利用のしやすさ

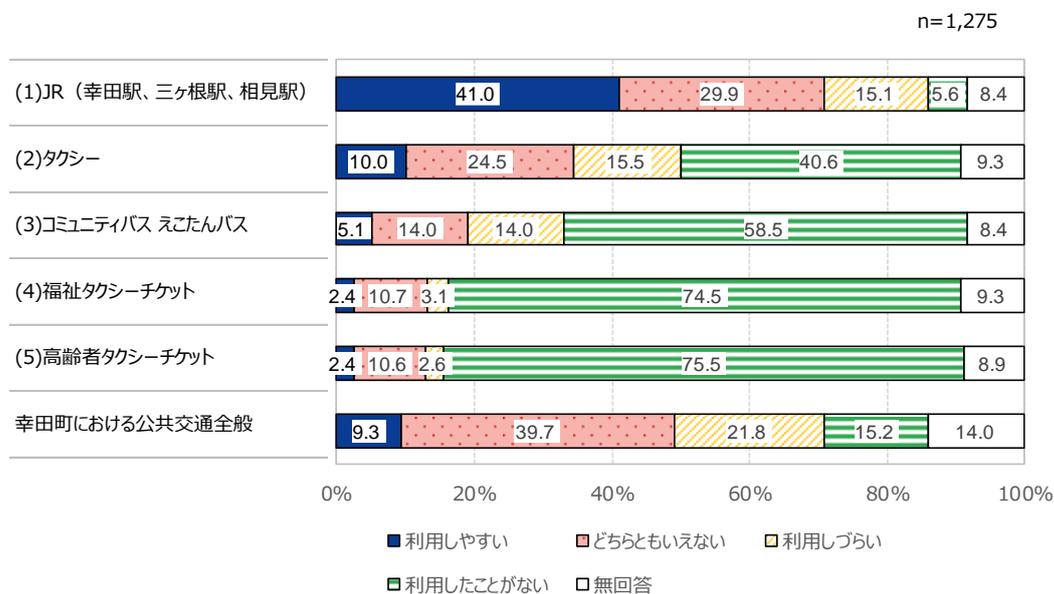


図 41 公共交通の利用のしやすさ「(1) J R (幸田駅、三ヶ根駅、相見駅)」(性・年齢・校区別)

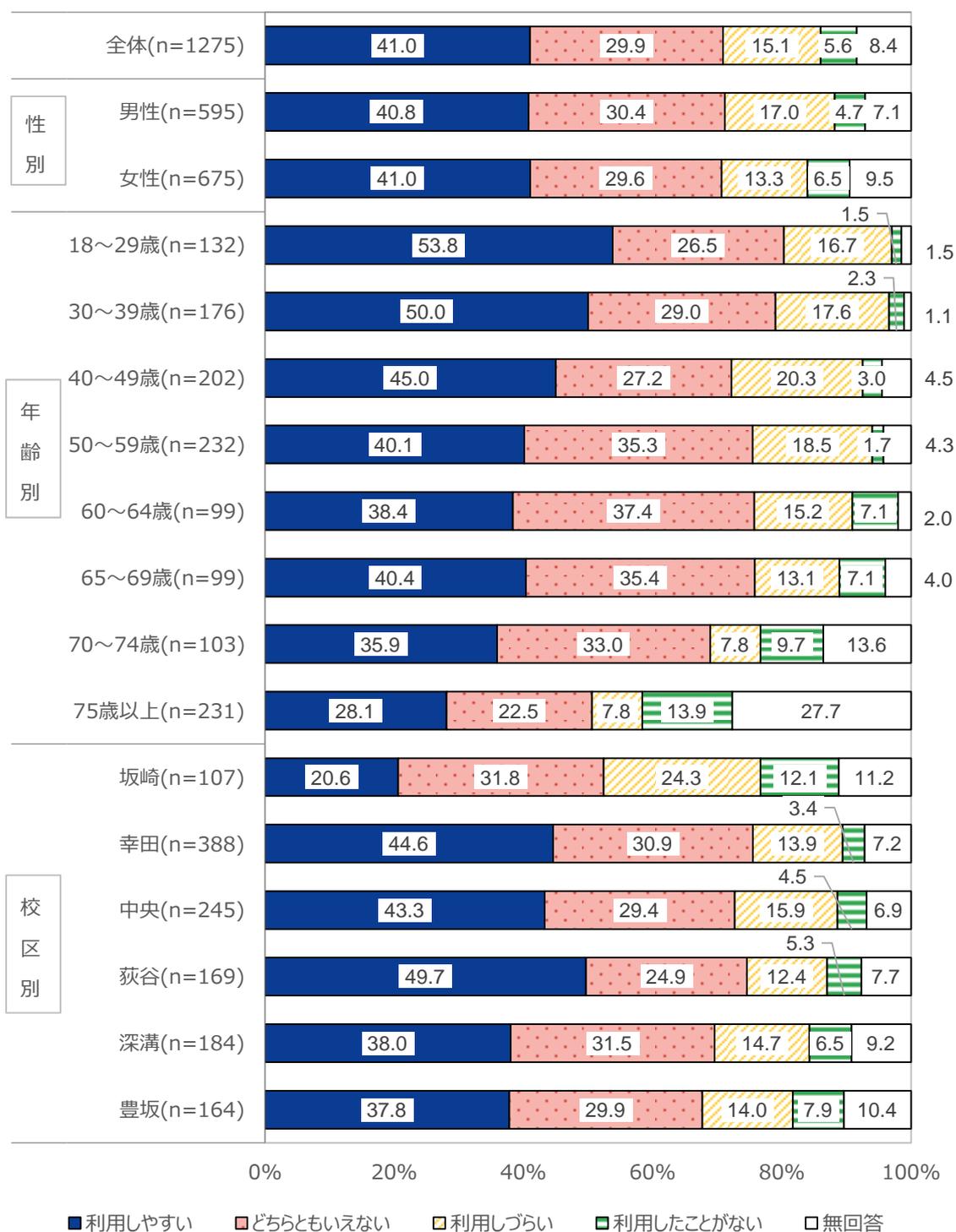


図 42 公共交通の利用のしやすさ「(2) タクシー」(性・年齢・校区別)

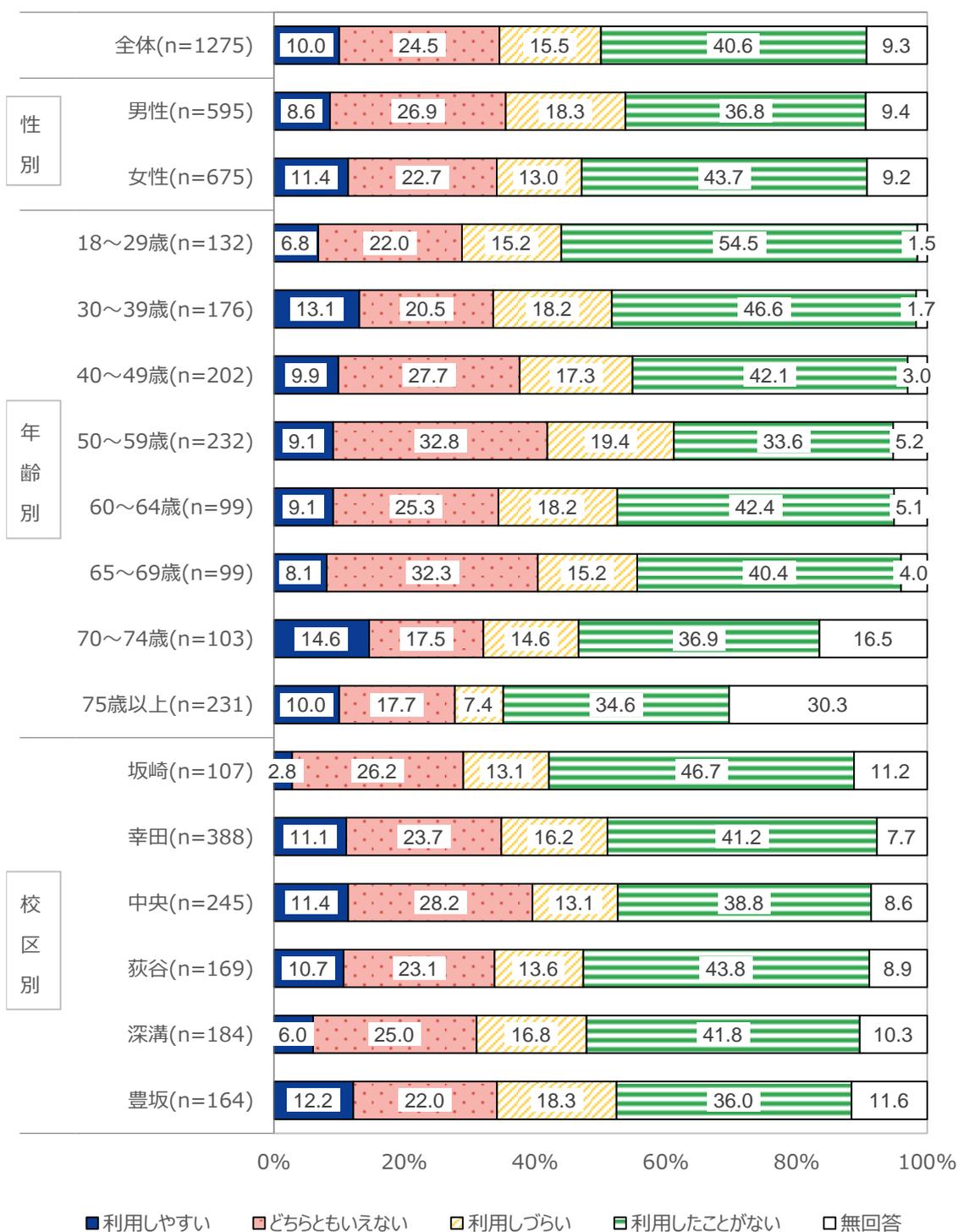


図 43 公共交通の利用のしやすさ「(3) コミュニティバス(えこたんバス)」(性・年齢・校区別)

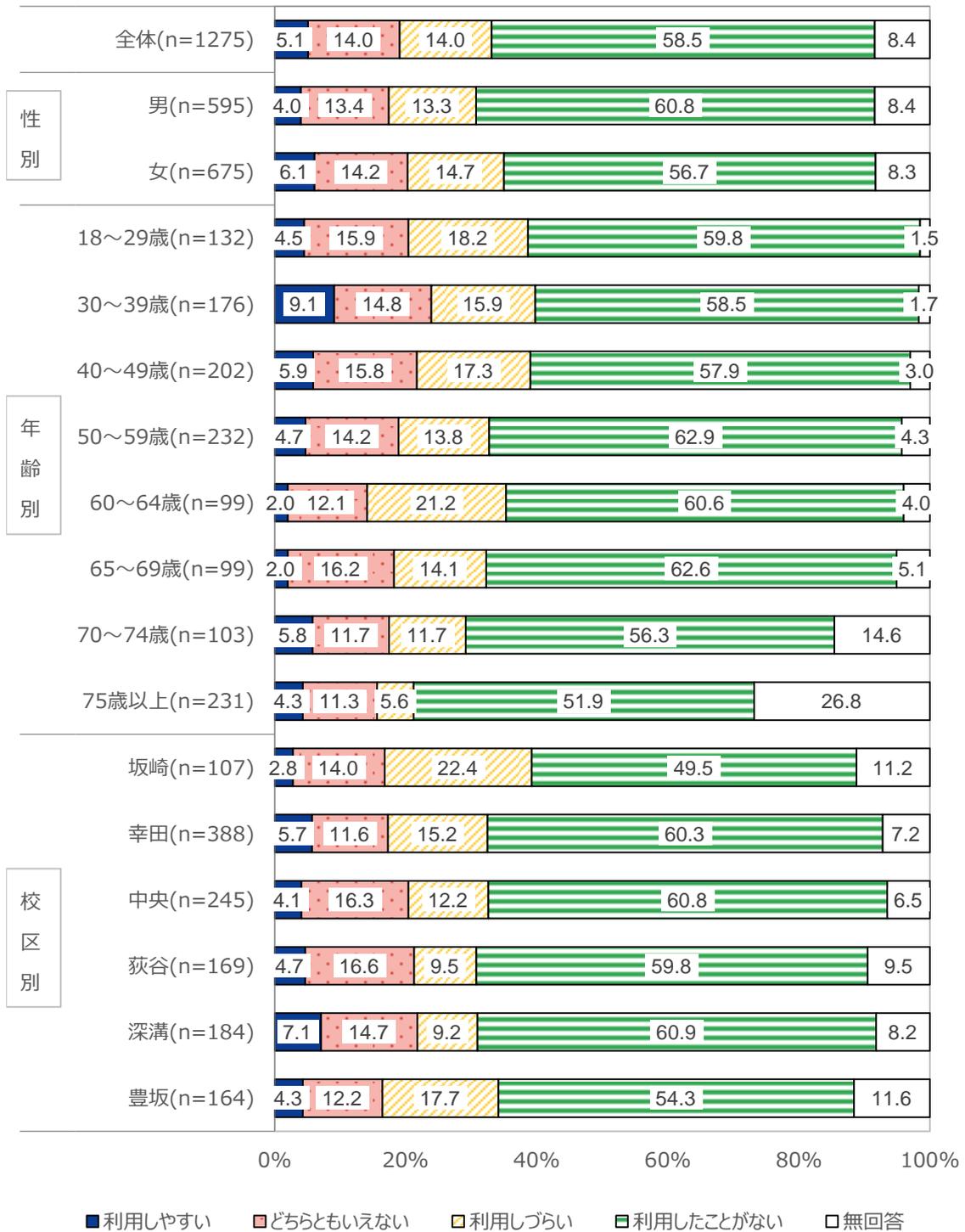


図 44 公共交通の利用のしやすさ「(4) 福祉タクシーチケット」(性・年齢・校区別)

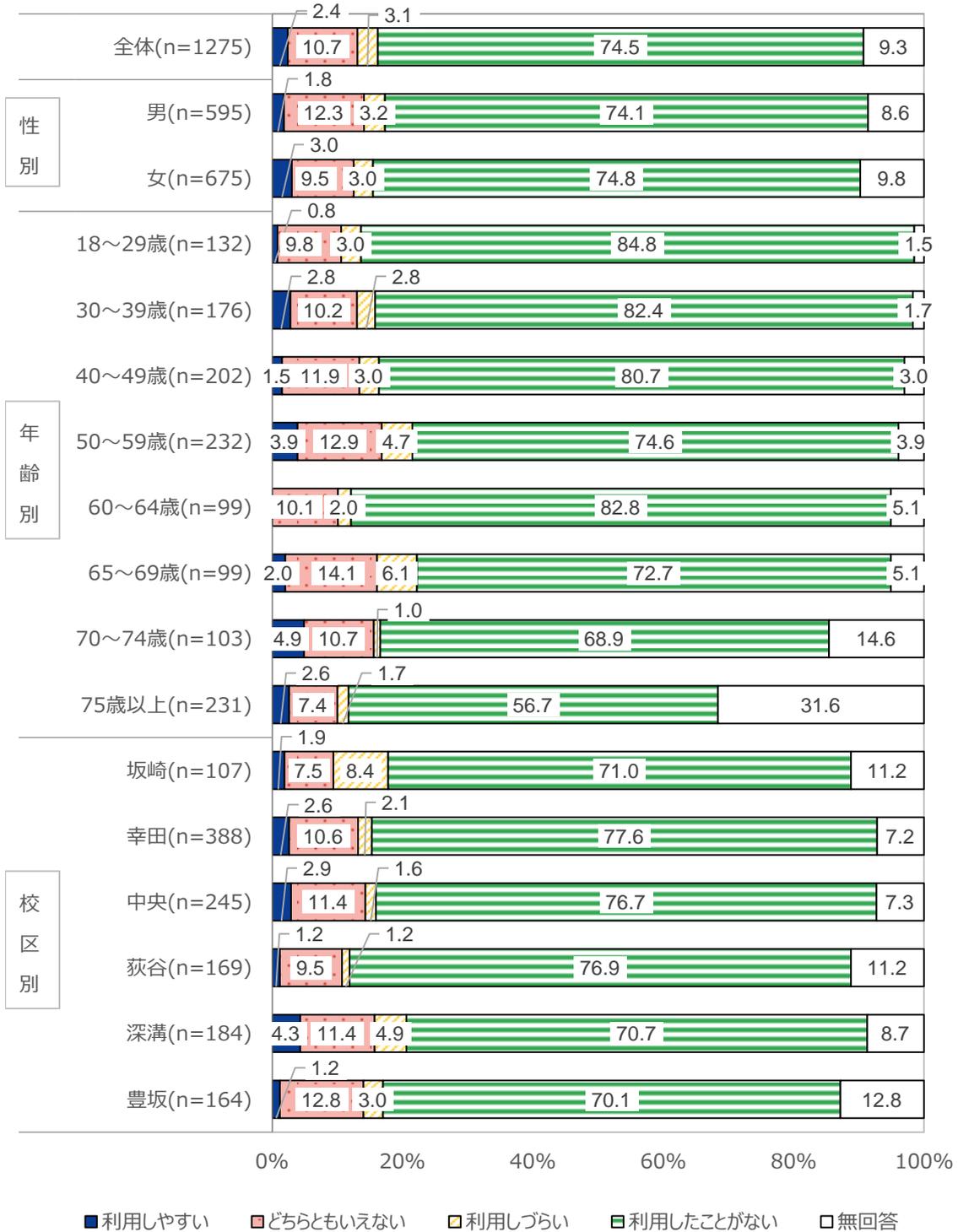


図 45 公共交通の利用のしやすさ「(5) 高齢者タクシーチケット」(性・年齢・校区別)

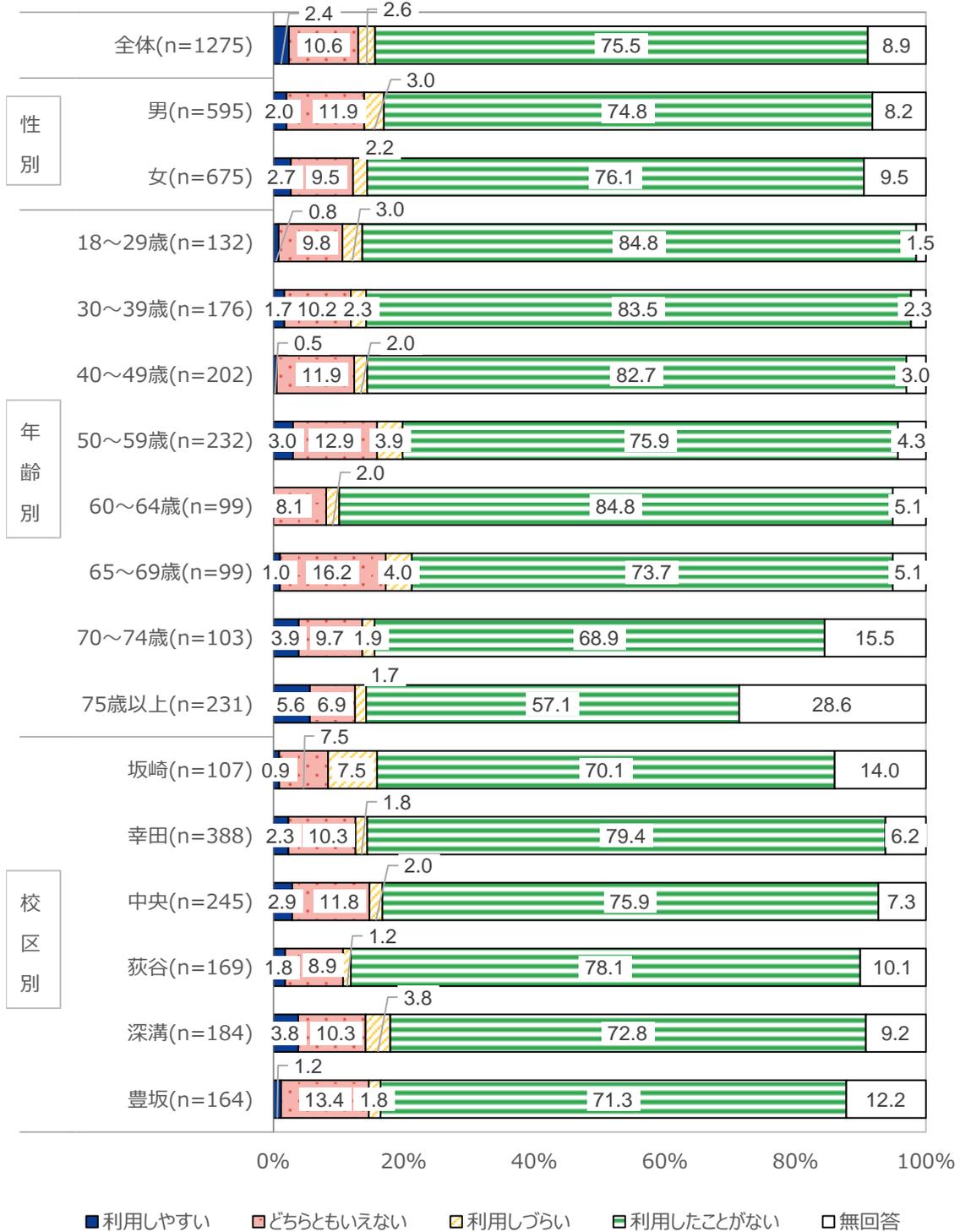
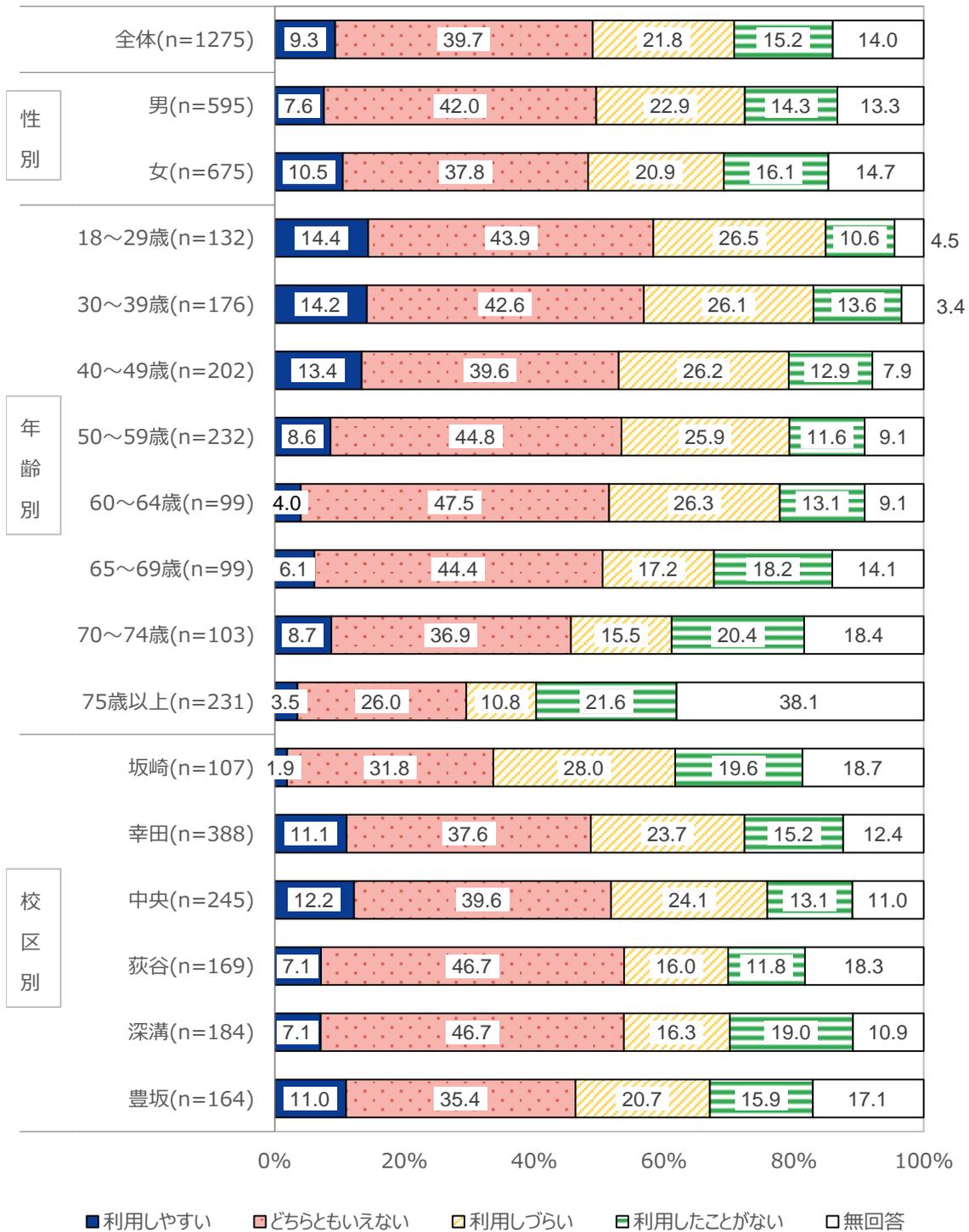


図 46 公共交通の利用のしやすさ「幸田町における公共交通全般」（性・年齢・校区別）



## 2 新しい移動手段の認知度（問 22-1）

藤田乗合直行タクシー並びにチョイソコといった新しい交通手段の認知度について尋ねたところ、藤田乗合直行タクシーは「詳しく知っている」（5.3%）と「名前くらいは知っている」（37.9%）を合わせた43.2%が認知しています。前回調査（令和4年度調査）では46.8%であり、認知度は3.6ポイント低下していますが、前々回調査の令和2年度（41.1%）からは、2.1ポイント上昇しています。

一方、チョイソコについては、「詳しく知っている」（3.8%）と「名前くらいは知っている」（42.0%）を合わせた45.8%が認知しています。前回調査（令和4年度調査）では44.8%であったので、わずかに上昇したものの、ほぼ同水準となっています。

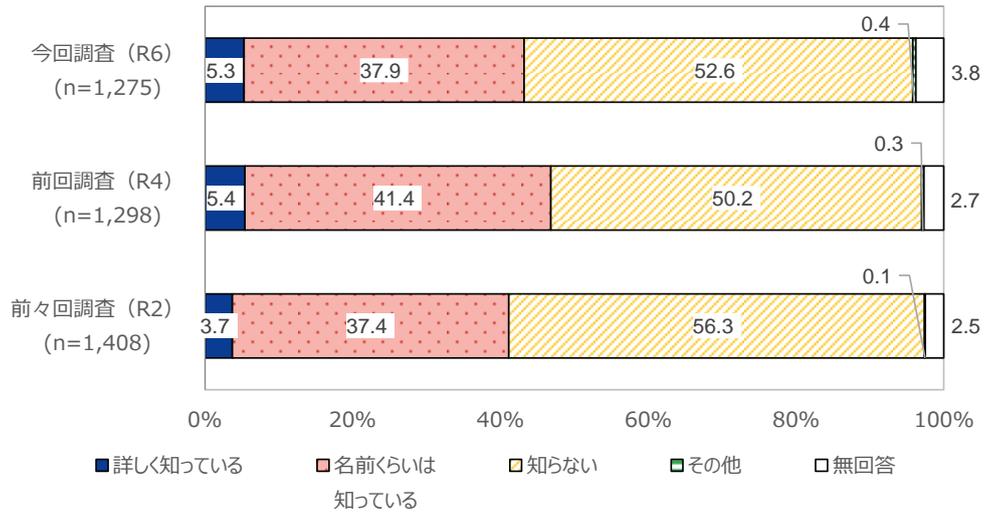
表 28 新しい交通手段の認知度（経年比較）

上段：人数、下段：%

新しい交通手段	調査年度	n	詳しく知っている	名前くらいは知っている	知らない	その他	無回答
藤田乗合直行 タクシー	今回	1,275	68	483	671	5	48
	(R6年度調査)	100.0%	5.3%	37.9%	52.6%	0.4%	3.8%
	前回	1,298	70	538	651	4	35
	(R4年度調査)	100.0%	5.4%	41.4%	50.2%	0.3%	2.7%
	前々回	1,408	52	527	793	1	35
(R2年度調査)	100.0%	3.7%	37.4%	56.3%	0.1%	2.5%	
チョイソコ	今回	1,275	48	535	637	5	50
	(R6年度調査)	100.0%	3.8%	42.0%	50.0%	0.4%	3.9%
	前回	1,298	52	529	674	4	39
	(R4年度調査)	100.0%	4.0%	40.8%	51.9%	0.3%	3.0%
	前々回	1,408	34	359	975	0	40
(R2年度調査)	100.0%	2.4%	25.5%	69.2%	0.0%	2.8%	

図 47 新しい交通手段の認知度（経年比較）

【藤田乗合直行タクシー】



【チョイソコ】

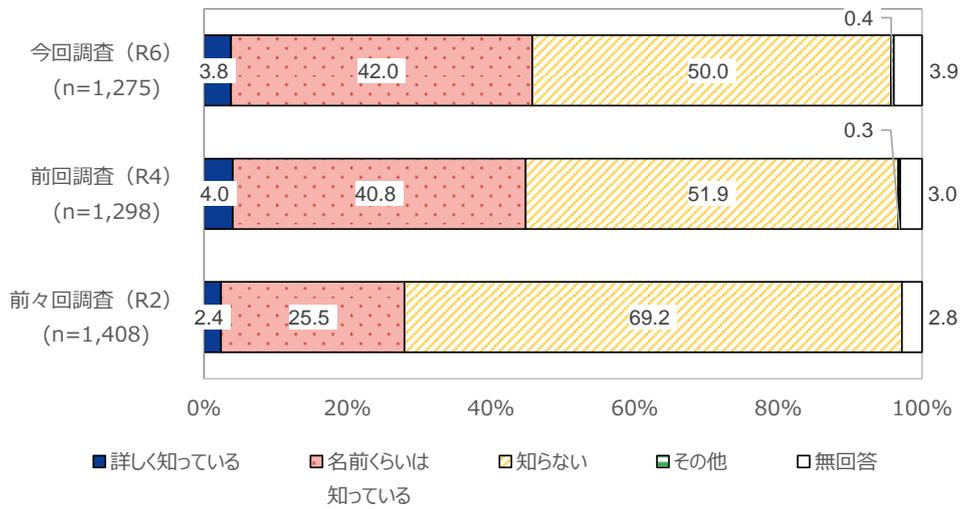


図 48 新しい交通手段の認知度【藤田乗合直行タクシー】（性・年齢・校区別）

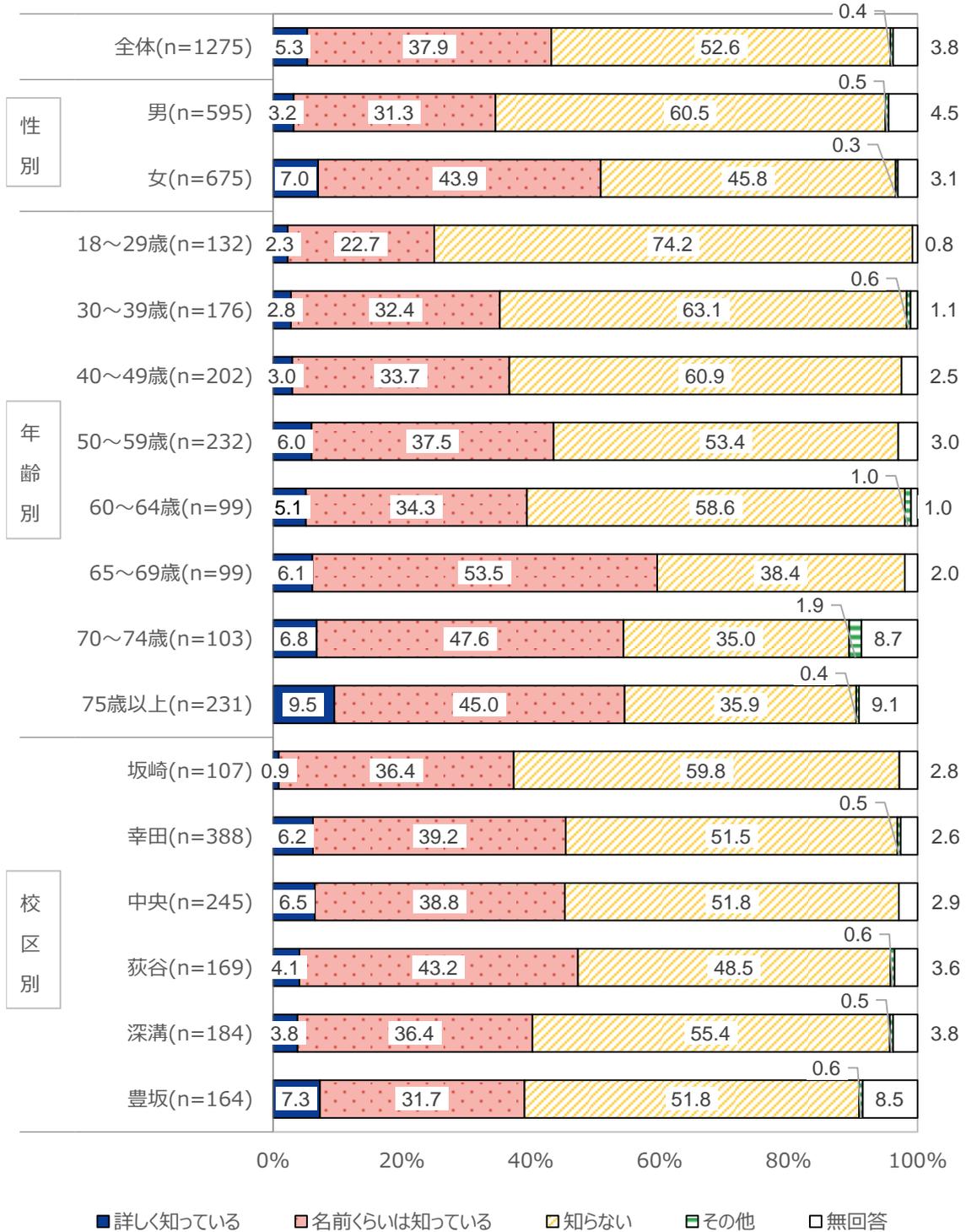
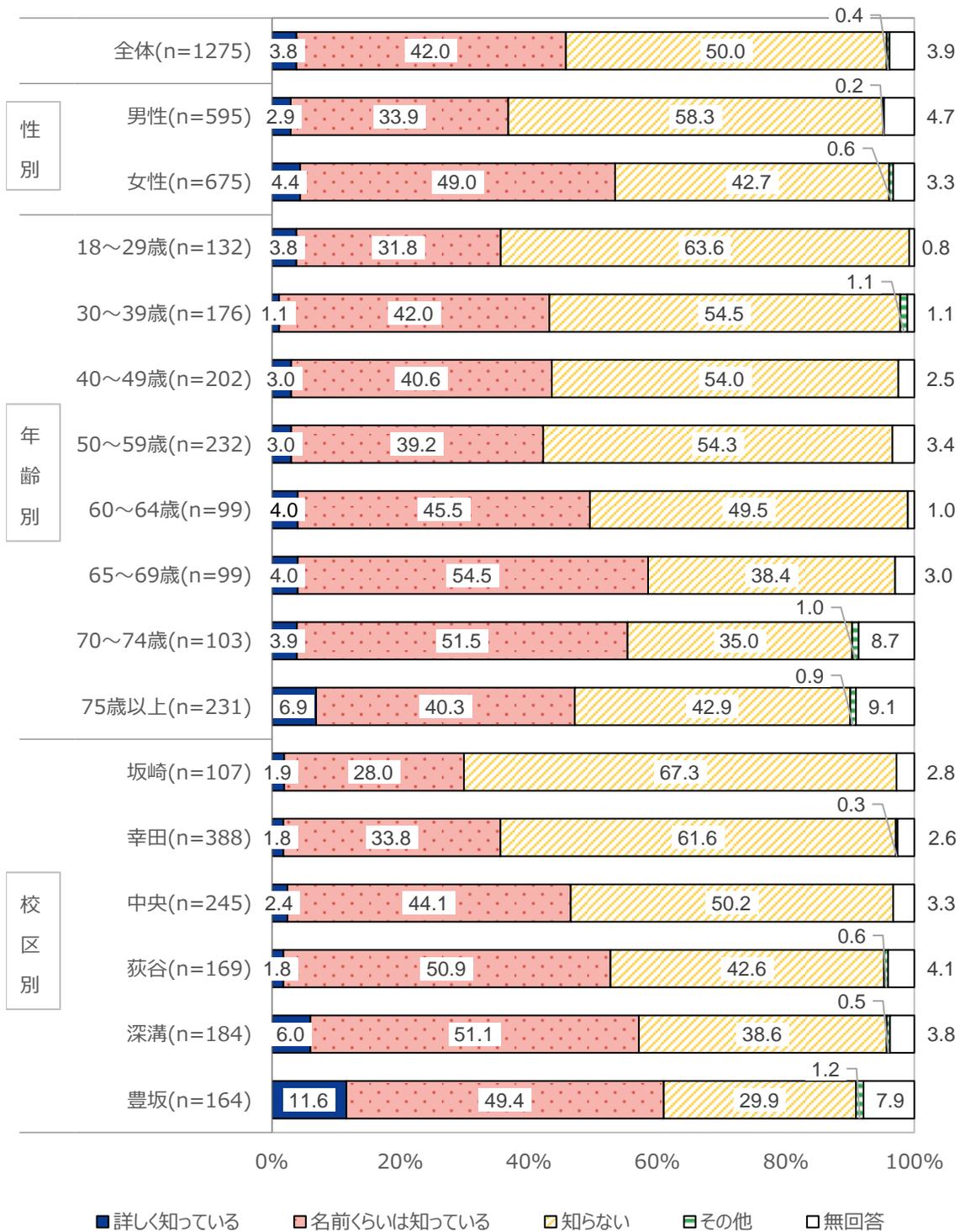


図 49 新しい交通手段の認知度【チョイソコ】（性・年齢・校区別）



### 3 新しい移動手段の利用意向（問 22-2）

藤田乗合直行タクシー並びにチョイソコの利用意向について尋ねたところ、「利用したことがある」は、藤田乗合直行タクシーで 1.6%、チョイソコで 0.9%でした。いずれも 1%程度とごくわずかでした。前回調査（令和 4 年度調査）ではそれぞれ 0.9%、0.4%であったので、利用意向はごくわずかですが上昇しています。

また、「利用したことはないが利用したい」は、藤田乗合直行タクシーで 29.5%、チョイソコで 23.4%という結果となりました。前回調査（令和 4 年度調査）ではそれぞれ 32.2%、21.3%であったので、藤田乗合直行タクシーではわずかに低下し、チョイソコではわずかに上昇しています。

表 29 新しい交通手段の利用意向（経年変化）

上段：人数、下段：%

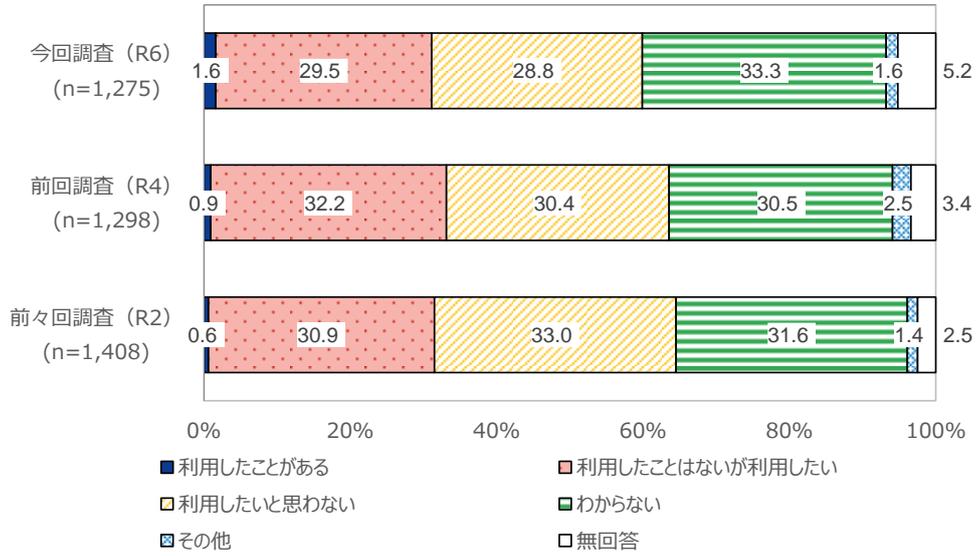
新しい交通手段	調査年度	n	利用したことがある	利用したことはないが利用したい	利用したいと思わない	わからない	その他	無回答
藤田乗合直行 タクシー	今回	1,275	20	376	367	425	21	66
	(R6年度調査)	100.0%	1.6%	29.5%	28.8%	33.3%	1.6%	5.2%
	前回	1,298	12	418	395	396	33	44
	(R4年度調査)	100.0%	0.9%	32.2%	30.4%	30.5%	2.5%	3.4%
	前々回	1,408	8	435	465	445	20	35
	(R2年度調査)	100.0%	0.6%	30.9%	33.0%	31.6%	1.4%	2.5%
チョイソコ	今回	1,275	12	299	340	508	28	88
	(R6年度調査)	100.0%	0.9%	23.4%	26.7%	39.8%	2.2%	6.9%
	前回	1,298	5	277	362	531	37	86
	(R4年度調査)	100.0%	0.4%	21.3%	27.9%	40.9%	2.9%	6.6%
	前々回	1,408	4	325	371	593	34	81
	(R2年度調査)	100.0%	0.3%	23.1%	26.3%	42.1%	2.4%	5.8%

【チョイソコ】今回（R6年度調査）

「利用したことはないが利用したい」299人の内訳	n	%
：利用したことはないが利用したい（豊坂小学校区の方）	123	9.6%
：事業拡大されれば利用したい（豊坂小学校区外の方）	176	13.8%

図 50 新しい交通手段の利用意向

【藤田乗合直行タクシー】



【チョイソコ】

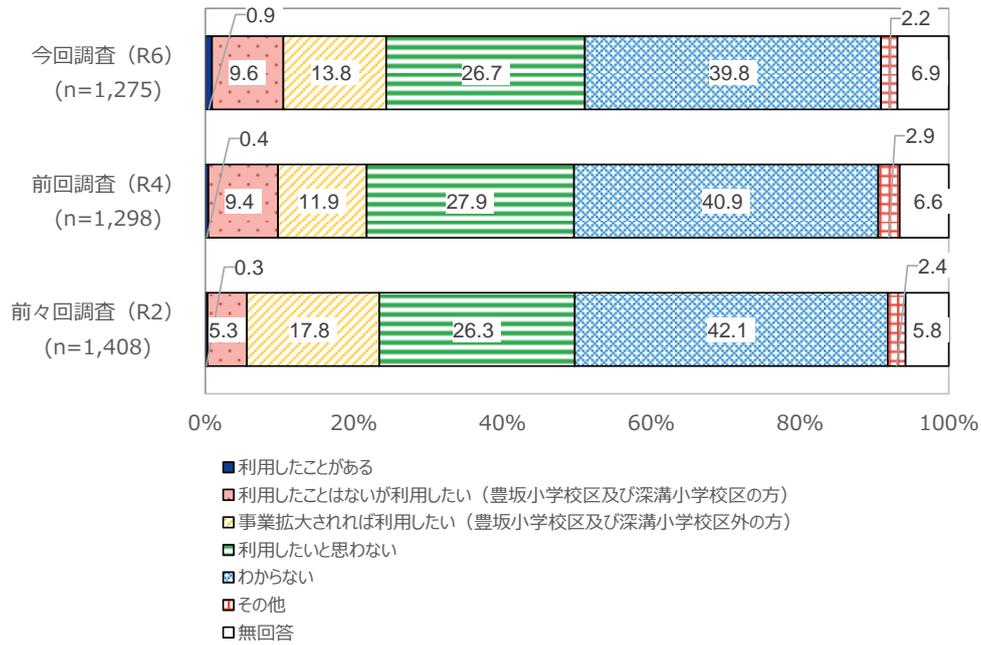


図 51 新しい交通手段の利用意向【藤田乗合直行タクシー】（性・年齢・校区別）

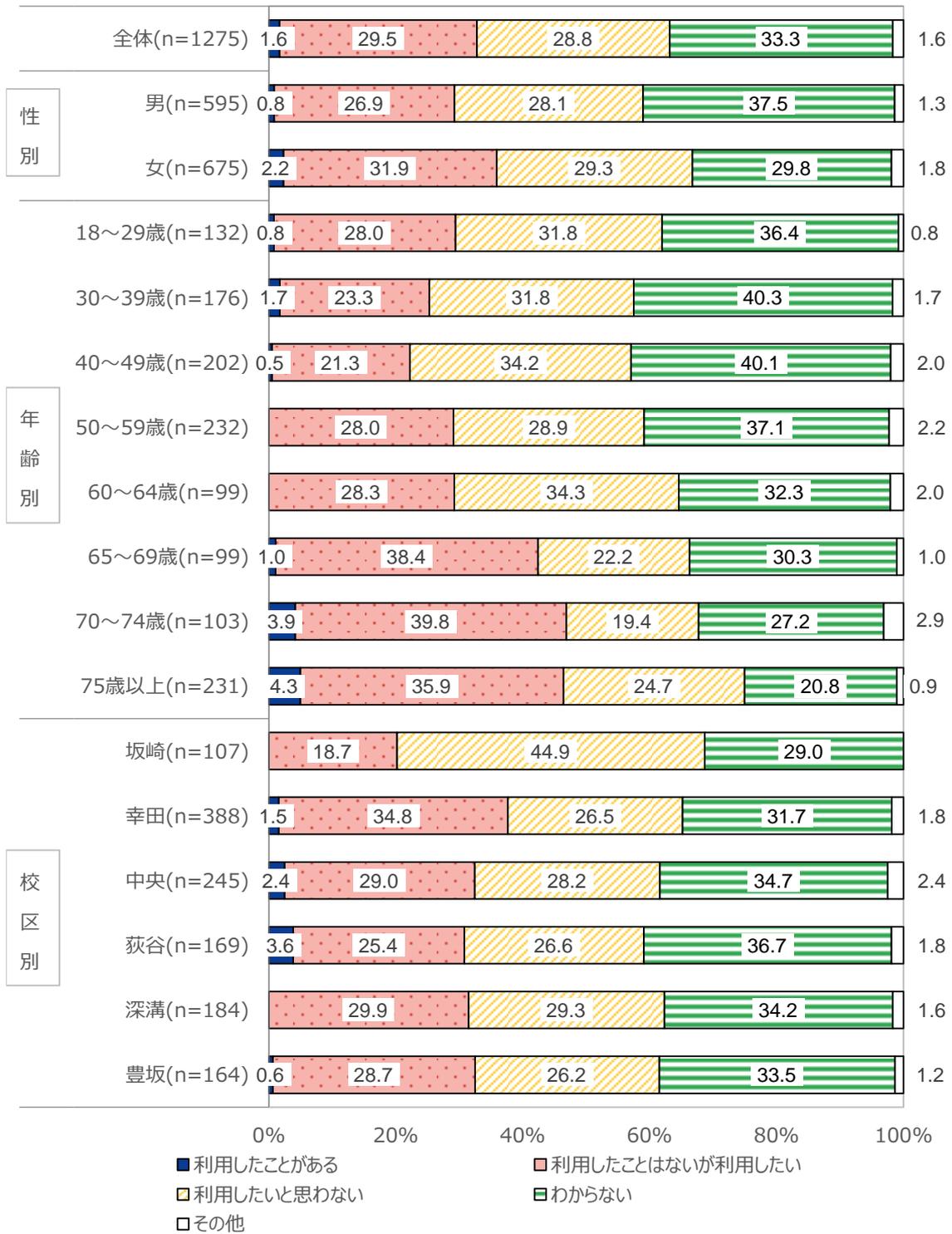
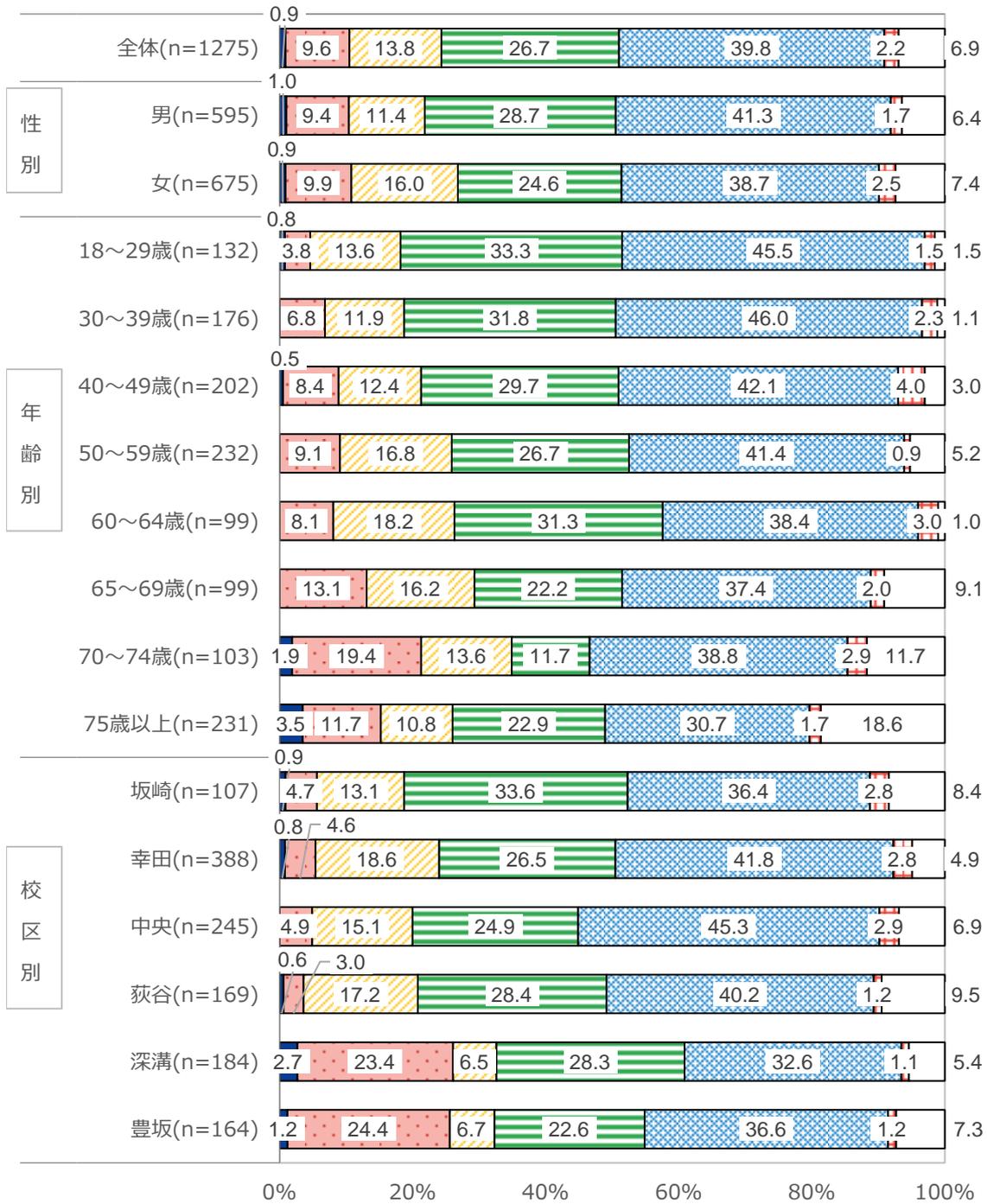


図 52 新しい交通手段の利用意向【チョイソコ】（性・年齢・校区別）



- 利用したことがある
- 利用したことはないが利用したい（豊坂小学校区及び深溝小学校区の方）
- 事業拡大されれば利用したい（豊坂小学校区及び深溝小学校区外の方）
- 利用したいと思わない
- わからない
- その他
- 無回答

藤田乗合直行タクシー並びにチョイソコを「利用したいと思わない」と回答した方にその理由を尋ねたところ、「車など別の交通手段を利用する」（藤田乗合直行タクシー：62.1%、チョイソコ：71.8%）が最も高く、6割以上となりました。

図 53 新しい交通手段を「利用したいと思わない」理由

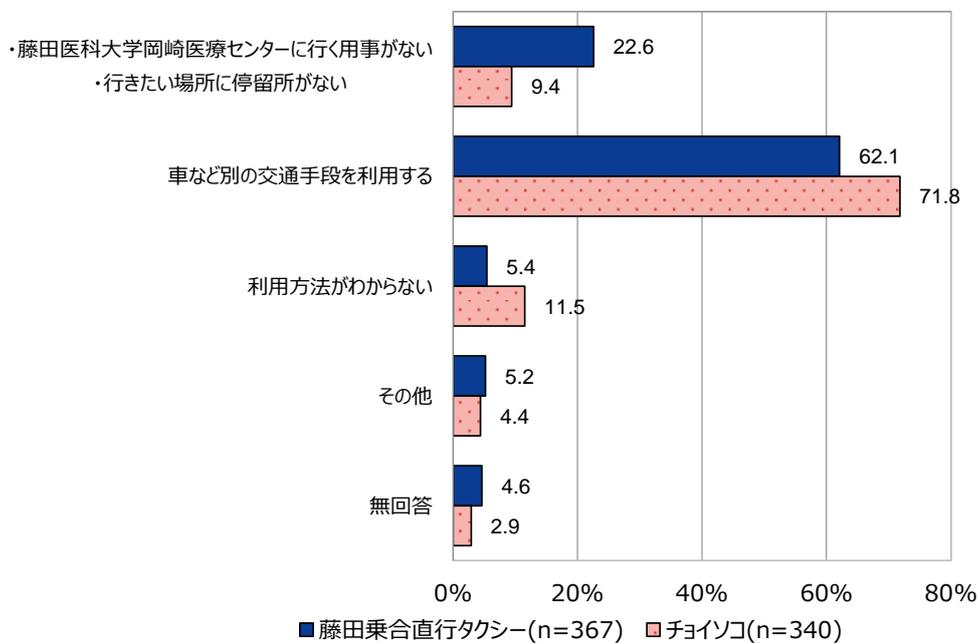


図 54 新しい交通手段【藤田乗合直行タクシー】を「利用したいと思わない」理由（性・年齢・校区別）

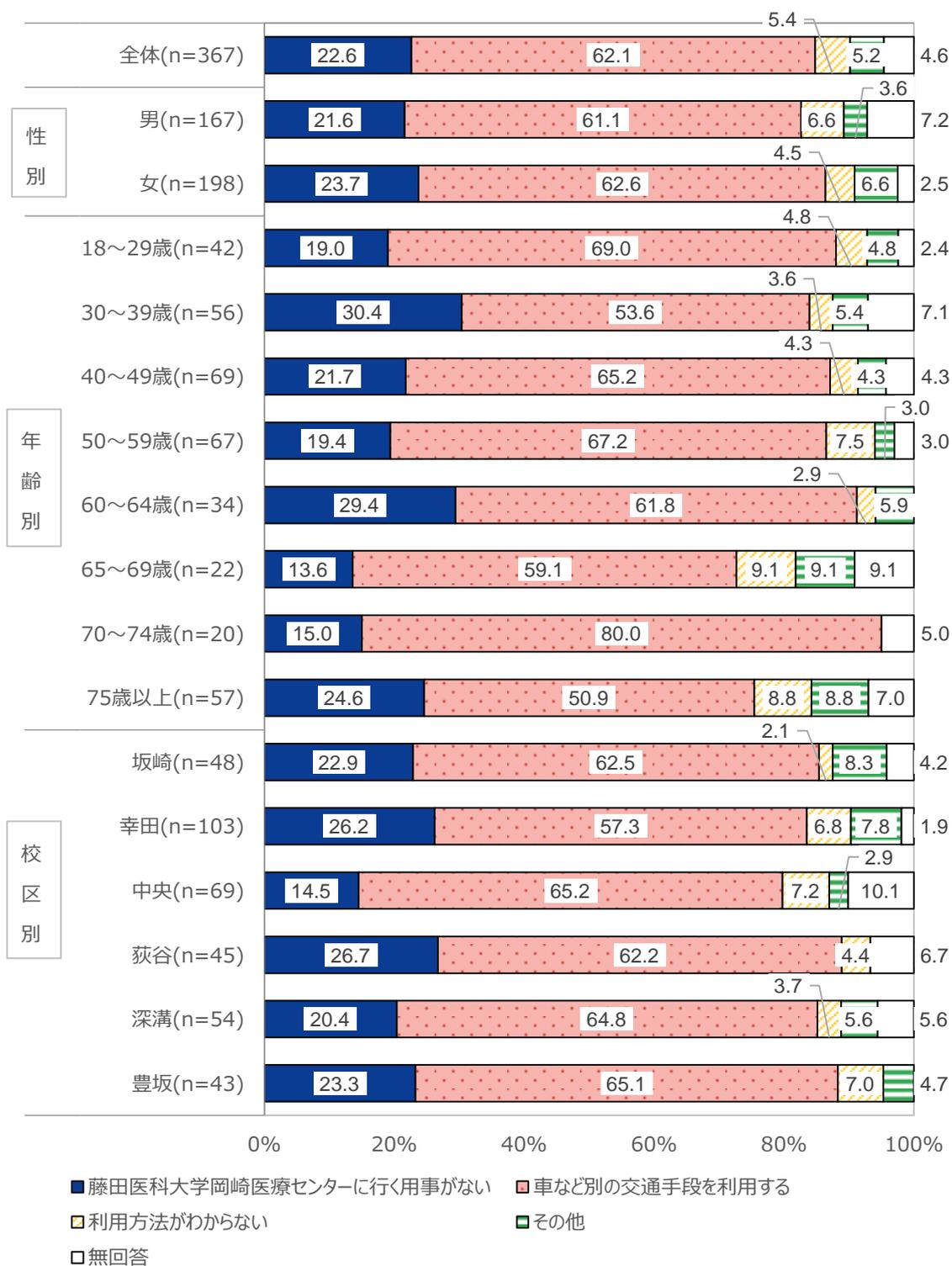
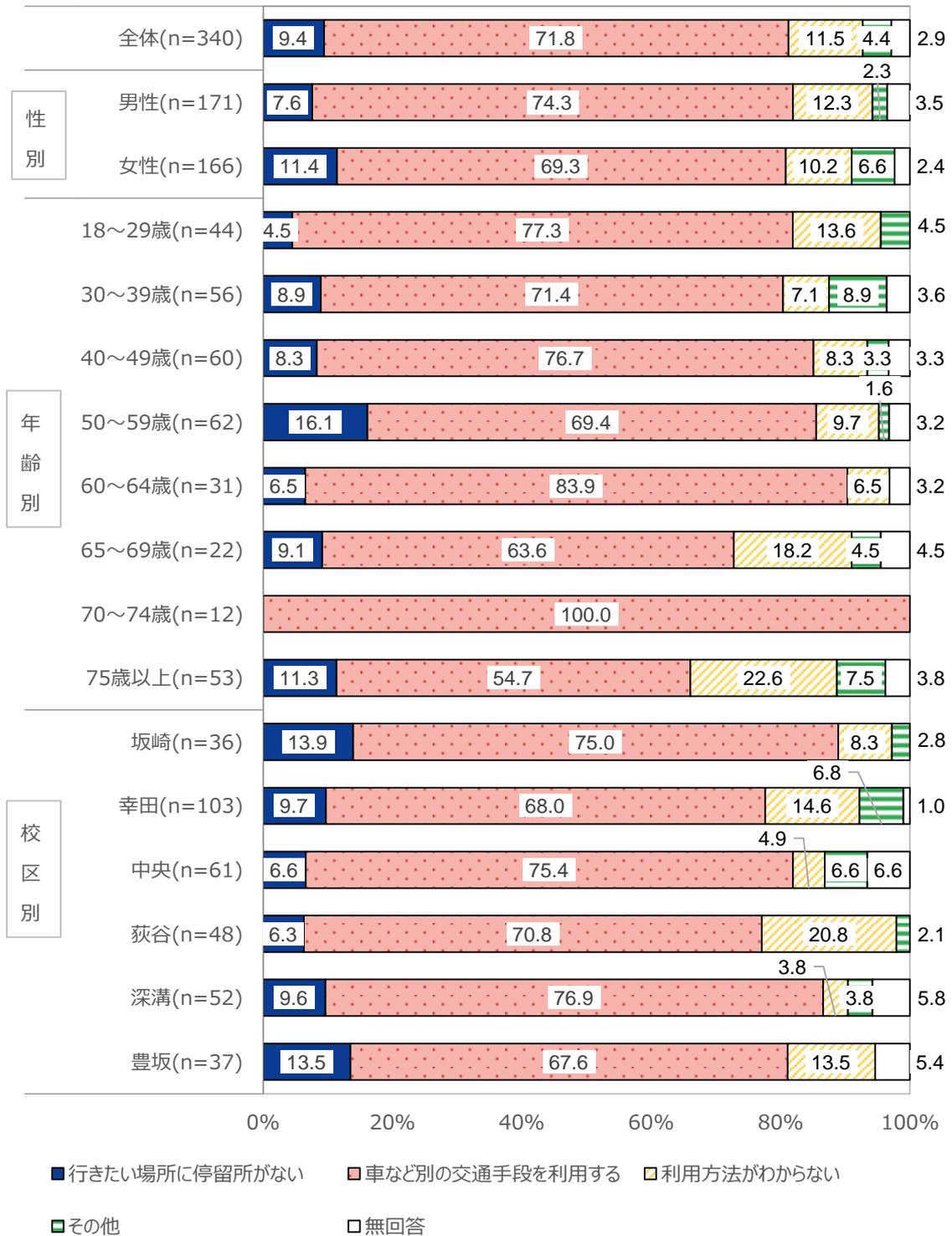


図 55 新しい交通手段【チョイソコ】を「利用したいと思わない」理由（性・年齢・校区別）



## 第 8 章 人口減少対策についての調査結果

(問 23～問 25)

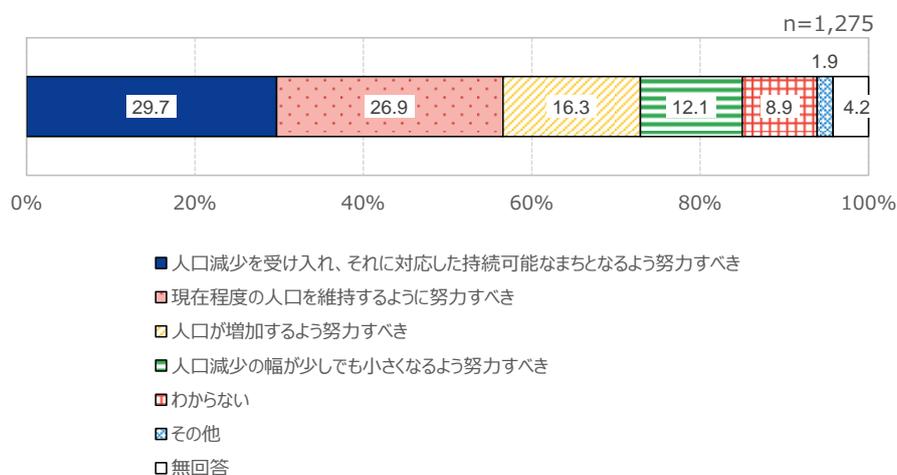
## 1 町が取り組むべき人口減少対策について（問 23）

日本の人口減少に対して、幸田町はどのように取り組むべきだと思うかたずねたところ、「人口減少を受け入れ、それに対応した持続可能なまちとなるよう努力すべき」が 29.7%と最も高く、次いで、「現在程度の人口を維持するように努力すべき」が 26.9%となりましたが、この上位 2 項目には大きな差はありませんでした。また、上位 2 項目とも、3 位の「人口が増加するよう努力すべき」（16.3%）よりも、10 ポイント以上高くなっています。

表 30 町が取り組むべき人口減少対策

	件数	%
人口減少を受け入れ、それに対応した持続可能なまちとなるよう努力すべき	379	29.7%
現在程度の人口を維持するように努力すべき	343	26.9%
人口が増加するよう努力すべき	208	16.3%
人口減少の幅が少しでも小さくなるよう努力すべき	154	12.1%
わからない	114	8.9%
その他	24	1.9%
無回答	53	4.2%
合計	1,275	100.0%

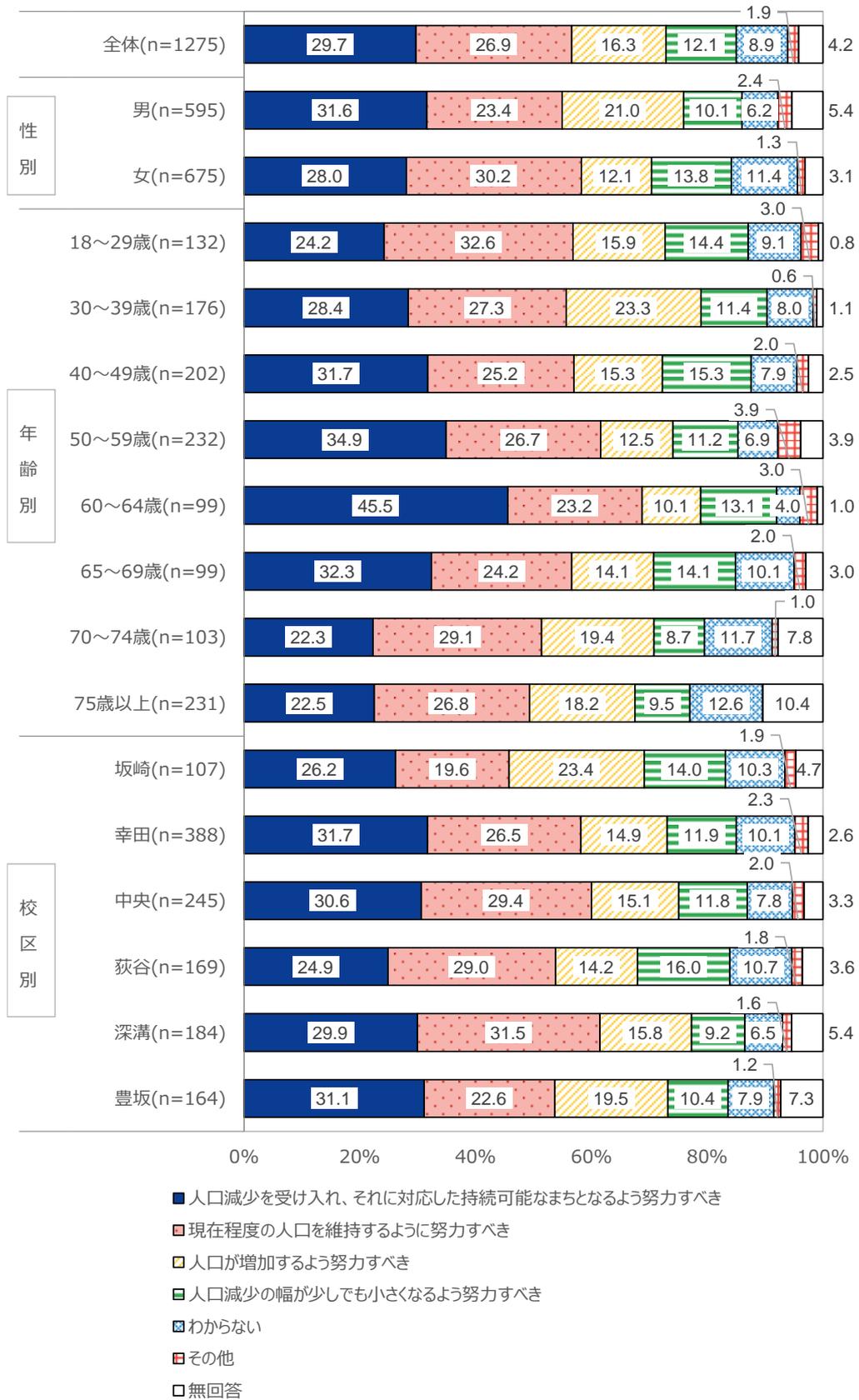
図 56 町が取り組むべき人口減少対策



性別で比較すると、男女ともに、「人口減少を受け入れ、それに対応した持続可能なまちとなるよう努力すべき」「現在程度の人口を維持するよう努力すべき」が上位 2 項目となっていました。3 項目目では、男性が「人口が増加するよう努力すべき」（21.0%）、女性が「人口減少の幅が少しでも小さくなるよう努力すべき」（13.8%）となりました。

年齢別で比較すると、60～64 歳で「人口減少を受け入れ、それに対応した持続可能なまちとなるよう努力すべき」が半数近い 45.5%となり、他の年齢と比べても高くなっています。

図 57 町が取り組むべき人口減少対策（性・年齢・校区別）



## 2 人口減少や少子高齢化の影響について（問 24）

お住まいの地域で、人口減少や少子高齢化の影響が出ている（と感じる）ことはあるかたずねたところ、「高齢者のみ世帯の増加」が 53.6%と最も高く、次いで、「子どもの減少」が 44.4%、「自治会などの担い手不足」が 20.5%となっています。

表 31 人口減少や少子高齢化の影響について（複数回答）

回答者数：1,275人

	件数	%
高齢者のみ世帯の増加	683	53.6%
子どもの減少	566	44.4%
自治会などの担い手不足	262	20.5%
地域の繋がりの希薄化	245	19.2%
商店の閉鎖	245	19.2%
空き家の増加	183	14.4%
伝統的行事・祭事の維持が困難	176	13.8%
特に発生していない・感じない	213	16.7%
その他	11	0.9%
無回答	25	2.0%
合計	2,609	

図 58 人口減少や少子高齢化の影響について（複数回答）

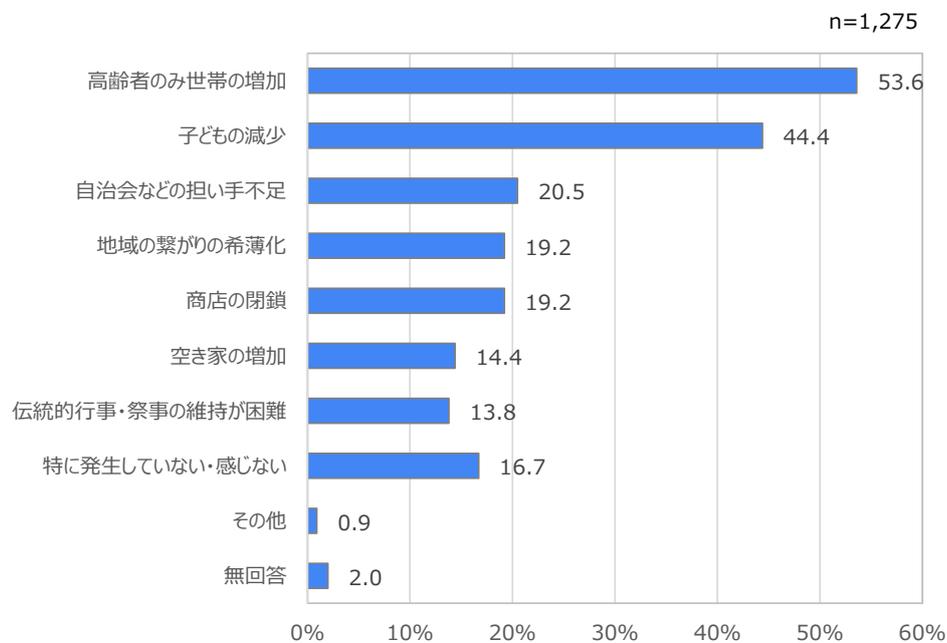


表 32 人口減少や少子高齢化の影響について（複数回答）

区分		n	高齢者のみ世帯の増加	子どもの減少	自治会などの担い手不足	地域の繋がりの希薄化	商店の閉鎖	空き家の増加	・祭事の維持が困難 ・伝統的行事	特に発生していない ・感じない	その他	無回答
全体		1,275	53.6	44.4	20.5	19.2	19.2	14.4	13.8	16.7	0.9	2.0
性別	男性	595	57.8	46.6	21.0	17.8	18.5	13.9	13.4	15.6	1.0	1.2
	女性	675	49.9	42.5	20.0	20.4	19.9	14.8	14.2	17.6	0.7	2.7
年齢別	18～29歳	132	34.1	32.6	15.2	17.4	22.7	9.1	11.4	29.5	0.8	0.0
	30～39歳	176	37.5	36.4	21.0	17.0	23.3	12.5	11.4	28.4	0.0	1.7
	40～49歳	202	41.1	39.1	17.8	16.8	13.9	14.9	13.9	21.8	2.5	1.5
	50～59歳	232	49.6	46.1	23.7	16.8	18.5	12.5	13.8	14.2	0.4	1.3
	60～64歳	99	68.7	53.5	28.3	20.2	17.2	20.2	17.2	7.1	2.0	2.0
	65～69歳	99	65.7	44.4	17.2	16.2	12.1	8.1	9.1	14.1	0.0	3.0
	70～74歳	103	74.8	52.4	23.3	24.3	18.4	15.5	20.4	3.9	1.0	1.9
75歳以上	231	70.6	52.4	19.5	24.7	23.4	19.9	14.7	9.5	0.4	3.9	
校区別	坂崎	107	53.3	65.4	20.6	17.8	8.4	11.2	12.1	15.0	0.9	1.9
	幸田	388	46.9	35.6	19.1	20.6	18.0	15.2	15.5	24.5	0.8	1.5
	中央	245	53.9	38.8	16.3	18.0	20.8	11.8	9.8	17.6	1.2	2.0
	荻谷	169	52.7	66.9	21.9	19.5	25.4	10.7	14.8	8.9	1.2	0.6
	深溝	184	64.1	41.8	22.8	19.6	18.5	20.1	17.4	9.2	0.5	2.7
	豊坂	164	58.5	42.7	28.0	19.5	19.5	15.2	12.8	14.0	0.6	2.4

### 3 人口減少対策としてどのような施策が有効か（問 25）

人口減少対策として、どのような施策が有効か、17 項目の中から、上位 1～3 位の施策を選択してもらい、次に示す点数をつけ、有効な施策の順位を算出しました。また、算出に当たっては、以下の式を使用しています。

【順位に対する得点】

順位	得点
1位	3
2位	2
3位	1

【順位の算出の仕方】

$$\text{施策優先度} = (\text{「1位の該当項目を選んだ人数」} \times 3 \text{点}) + (\text{「2位の該当項目を選んだ人数」} \times 2 \text{点}) + (\text{「3位の該当項目を選んだ人数」} \times 1 \text{点})$$

結果は、表 33 の通りです。1 位は「子育て環境の充実」、2 位は「結婚・妊娠・出産・産後への支援」、3 位は「雇用の確保や就労支援」となっています。

表 33 人口減少対策としてどのような施策が有効か（無回答を除く）

施策	優先度	
	ポイント	順位
子育て環境の充実	1,244	1
結婚・妊娠・出産・産後への支援	1,013	2
雇用の確保や就労支援	922	3
産業の活性化	882	4
医療環境の整備	742	5
交通ネットワークの充実	562	6
移住・定住の促進	457	7
魅力あるイベントや観光資源の活用	281	8
防災・防犯・交通安全の強化	275	9
質の高い教育の提供	198	10
多様な人材が活躍する地域の推進	139	11
自然環境の保全	119	12
他市町村等との広域的な連携・交流	112	13
地域コミュニティの醸成	72	14
生涯学習・スポーツの充実	47	15
歴史・文化の保存・継承	19	16
その他	53	

## 第 9 章 自由意見

# 資料 調査票

あなたの調査票番号：00000000

## 第24回幸田町住民意識調査

～ あなたの声をお聞かせください ～

日ごろから、町政に御理解と御協力をいただきありがとうございます。

住民意識調査は、町民の皆さまから幸田町のこれまでの取り組みに対する評価をいただくとともに、これからのまちづくりに対するお考えをお聞きし、今後の町政運営の基礎資料とするために実施するものです。昭和54年から実施しており、今回で24回目となります(原則2年に1回実施)。

今回実施する調査にあつては、町内にお住まいの18歳以上の方の中から2,000人を無作為に選び、調査票を送らせていただきました。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨を御理解いただき、御回答くださいますようお願い申し上げます。

令和6年10月 幸田町長 成瀬 敦

### 御記入にあたってのお願い

#### 【調査の取り扱い】

- 回答の内容は、すべて統計的に処理し、他の目的に利用することはありません。安心して率直な御意見をお聞かせください。
- 調査集計結果は、広報こうた、町ホームページなどで公表します。

#### 【記入上の注意】

- 宛名の御本人が回答するようお願いいたします。**ただし、事情により御本人が回答できない場合は、18歳以上の御家族の方が回答していただいても結構です。

#### 【回答方法】

- 回答期限までに、①または②のいずれかの方法で御回答ください。

##### ①Webページから入力

右の二次元コードまたは

URL (<https://forms.gle/sXv4YCSMEq3DGkbV9>) から

Webページにアクセスし、御回答ください。

Webでご回答いただいた方は、本調査票の郵送は不要です。



##### ②調査票に記入

この調査票に直接記入し、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて御投函ください。

#### 【回答期限】

**令和6年10月31日(木)**

#### 【問合せ】

幸田町 企画部 企画政策課 政策グループ

電話：(0564) 63-5132 FAX：(0564) 63-5139

Eメール：[kikakujoho@town.kota.lg.jp](mailto:kikakujoho@town.kota.lg.jp)

こちらの調査票のみ返信用封筒に入れて郵送してください。

**A. あなた自身についてお聞きします。**

問1 あなたの性別は。(○は1つだけ)

- |      |      |        |
|------|------|--------|
| 1. 男 | 2. 女 | 3. その他 |
|------|------|--------|

問2 あなたの年齢は。(○は1つだけ)

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 18～29歳 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 |
| 4. 50～59歳 | 5. 60～64歳 | 6. 65～69歳 |
| 7. 70～74歳 | 8. 75歳以上  |           |

問3 あなたの職業は。(○は1つだけ)

- |                      |              |
|----------------------|--------------|
| 1. 農林漁業              | 2. 自営業       |
| 3. 会社員など(会社役員・公務員含む) | 4. パート・アルバイト |
| 5. 学生・専門学校生          | 6. 家事専業      |
| 7. 無職・その他            |              |

問4 あなたが同居している家族の構成は。(○は1つだけ)

- |               |           |            |
|---------------|-----------|------------|
| 1. 単身         | 2. 夫婦のみ   | 3. 親子(2世代) |
| 4. 親・子・孫(3世代) | 5. その他( ) |            |

問5 あなたのご家族(一緒に暮らしている方、あなたご自身も含む)の中に次の方はいらっしゃいますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                      |            |                   |
|----------------------|------------|-------------------|
| 1. 小学校入学前の子          | 2. 小学生・中学生 | 3. 中学校卒業以上18歳未満の子 |
| 4. 65歳以上の方           | 5. 介護を要する方 | 6. 障害者手帳を所持されている方 |
| 7. 上記(1～6)に該当する者はいない |            |                   |

問6 あなたが住んでいる小学校区は。(○は1つだけ)

- |  |       |       |
|--|-------|-------|
| 1. 坂崎  | 2. 幸田 | 3. 中央 |
| 4. 荻谷  | 5. 深溝 | 6. 豊坂 |
| ※小学校区がわからない場合は、お住まいの大字、小字を御記入ください。<br>(幸田町大字 字 ) 例：菱池字元林 |       |       |

問7 あなたが幸田町に住んでいる年数は。(○は1つだけ)

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1. 1年未満      | 2. 1年以上5年未満   |
| 3. 5年以上10年未満 | 4. 10年以上20年未満 |
| 5. 20年以上     |               |

**B. 町政についてお聞きします。**

問 8 町政に関心をお持ちですか。(○は1つだけ)

1. 非常に関心がある 2. 多少関心がある	3. あまり関心がない 4. まったく関心がない
---------------------------	-----------------------------

問 8 で 1,2 を選んだ方にお聞きします。

問 8-1 関心がある理由は。

(○は2つまで)

1. 行政に住民の意見が反映される 2. 住民参加の機会がある 3. 町に愛着がある 4. 自分の生活と関係が深い 5. 町の情報発信が積極的 6. 税金の使われ方に関心がある 7. その他 ( )
---

問 8 で 3,4 を選んだ方にお聞きします。

問 8-2 関心がない理由は。

(○は2つまで)

1. 行政に住民の意見が反映されない 2. 住民参加の機会がない 3. 町に愛着がない 4. 自分の生活と関係していない 5. 町の情報発信が不足している 6. 関心を持つ余裕がない 7. その他 ( )
--

問 9 町政の情報源は何ですか。(○はいくつでも)

1. 広報こうた 3. 町ホームページ 5. ケーブルテレビ 7. タウンメール 9. SNS (Instagram、LINE等) 11. 町議会議員 13. 情報源がない	2. こうた議会だより 4. 回覧板 6. 新聞 8. 友人・近所・家族などの口コミ 10. 子どもの学校や保育園 12. 区長 14. その他 ( )
---	--

**C. 幸田町のまちづくりについてお聞きします。**

**問 10** まちづくりに対する評価と期待

幸田町の行政施策に対する「現状の満足度」と「今後の重要度」について、あなたのお考えに最も近いものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。

※ ( ) 内に取組内容の一部を挙げていますので、回答の参考にしてください。

設問項目	現状の満足度					今後の重要度				
	満足している	やや満足している	どちらでもない	やや不満である	不満である	重要である	やや重要である	どちらでもない	あまり重要でない	重要でない
回答例	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
<b>【安全・安心】</b>										
(1) 防災体制の強化 (防災リーダーの育成、防災備蓄品の配備、安全テラスセンター24)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(2) 河川の整備 (河川改修)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(3) ため池・山の整備 (ため池耐震補強、森林保全、菱池遊水地)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(4) 消防・救急体制の充実 (消防車の整備、救急救命士の養成、AEDの講習会、消防団活動支援)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(5) 交通安全・防犯対策の強化 (安全な通学路の整備、防犯灯の設置、不審者情報の提供)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(6) 消費生活の安定向上 (消費者被害未然防止講座、消費生活相談)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(7) 道路の整備 (町道の整備・維持管理)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(8) 公共交通の整備 (えこたんバスの運営、駐車場の整備)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(9) 新しい移動手段の検討・導入 (藤田乗合直行タクシー、チョイソコなどの社会実験・サービス開始)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(10) 上水道の整備 (上水道整備、耐震化・老朽化への対策)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(11) 下水道の整備 (下水道整備、耐震化・老朽化への対策)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(12) 住宅の整備 (木造住宅耐震診断、耐震改修費補助、町営住宅の運営、住宅地の整備)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(13) 市街地の整備 (土地区画整理事業、駅周辺の整備、景観の配慮)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(14) 公園・緑地の整備 (公園の整備・維持管理、緑地の保全)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

設問項目	現状の満足度					今後の重要度				
	満足している	やや満足している	どちらかといえば満足している	やや不満である	不満である	重要である	やや重要である	どちらかといえば重要である	あまり重要でない	重要でない
(15) 墓園の整備 (地域の共同墓地の新規区画の確保、多様化する墓地需要への取組)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
<b>【環境】</b>										
(16) 自然環境の保全 (環境に関する学習会の開催、新エネルギー利用への補助)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(17) 公害対策の推進 (河川水質の監視、事業所指導)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(18) ごみ問題への対応 (リサイクルの推進、資源回収の推進、不法投棄の監視)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
<b>【産業振興】</b>										
(19) 農業の振興 (特産物のPR、農道・水路等の整備、農地の保全)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(20) 新産業の創生・企業の立地 (産金学官の連携、企業の誘致)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(21) 商業の振興 (経営支援、商業団体の育成)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(22) 観光の振興 (イベントの実施・PR、観光地の整備、近隣市との連携、ロケツーリズムの推進)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
<b>【健康・福祉】</b>										
(23) 健康づくりの推進 (予防接種・健康診査の実施、自主活動グループの育成、健康教育・相談)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(24) 医療体制の充実 (地域に必要な医療を受けられる体制の構築)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(25) 子育て支援 (子育て支援センター運営、ファミリー・サポート事業)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(26) 就学前教育・保育の充実 (保育園の運営・整備、幼稚園就園補助金、認定こども園等給付費支給)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(27) 子どもの居場所の充実 (放課後児童対策、児童館の整備)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(28) 障がい者福祉の充実 (障がい者の自立支援、障がい者福祉サービスの充実)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(29) 高齢者福祉の充実 (介護予防教室、介護支援、見守り訪問、老人クラブ活動支援)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

【教育・文化】										
(30) 学校教育の充実 (地域に根ざした学校づくり、学校施設・設備の整備、特別支援教育)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(31) 健やかな青少年の育成 (家庭教育学級の実施、「家庭の日」の啓発)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(32) 生涯学習の推進 (講座・教室の開催、生涯学習活動の支援)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(33) スポーツの振興 (スポーツイベント・大会の開催、スポーツ教室の開催)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(34) スポーツ施設の充実 (スポーツ施設の整備、スポーツ施設の修繕)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(35) 歴史・伝統文化の継承 (文化財の保存・展示・周知)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(36) 文化の振興 (町民会館の施設整備・イベントの開催)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
【協働・参画】										
(37) 男女共同参画の推進 (男女共同参画の啓発、審議会委員への女性の登用)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(38) 地域活動の推進 (コミュニティ活動への助成、地域活動施設の整備)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(39) 多文化共生の推進 (行政サービスの多言語化、日常的な外国籍町民との交流・共生)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(40) 広域行政の推進 (近隣市との連携強化、広域連携の推進)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(41) 情報の発信と管理 (広報こうた、ホームページやSNSでの情報発信、個人情報の保護)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
(42) 効率的で健全な行財政 (使用料・手数料の見直し、行政改革の推進)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

問 11 (1)～(42)の行政施策のうち、今後、特に力を入れてほしいものは、番号とその理由を下欄に御記入ください。(3つまで。番号は3～5ページに掲載)

番号	理 由

**D. 幸田町への定住の意向についてお聞きします。**

問 12 あなたは、これからも幸田町に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. 住み続けたい          | 2. どちらかというに住み続けたい |
| 3. どちらかという町外に転出したい | 4. 町外に転出したい       |

↓

問 12 で 3,4 を選んだ方は理由をお聞かせください。  
( )

問 13 幸田町のよいところは。 番号とその理由を下欄に御記入ください。(3つまで)

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1. 緑や川などの自然環境が豊か  | 2. 公園や緑地が多い          |
| 3. 子育てがしやすい       | 4. 教育環境がよい           |
| 5. 就業の機会が豊富である    | 6. 買い物が便利            |
| 7. 地域での人間関係がよい    | 8. 文化に親しむ機会に恵まれている   |
| 9. スポーツの機会に恵まれている | 10. 災害に強い            |
| 11. 治安がよい         | 12. 医療・福祉サービスが充実している |
| 13. 交通の便がよい       | 14. その他 ( )          |

番号	理 由

問 14 幸田町の悪いところは。 番号とその理由を下欄に御記入ください。(3つまで)

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1. 緑や川などの自然環境が乏しい | 2. 公園や緑地が少ない         |
| 3. 子育てがしにくい       | 4. 教育環境が悪い           |
| 5. 就業の機会が少ない      | 6. 買い物が不便            |
| 7. 地域での人間関係が悪い    | 8. 文化に親しむ機会が少ない      |
| 9. スポーツの機会が少ない    | 10. 災害に弱い            |
| 11. 治安が悪い         | 12. 医療・福祉サービスが不足している |
| 13. 交通の便が悪い       | 14. その他 ( )          |

番号	理 由

**E. 日常生活における行動・意識についてお聞きします。**

問 15 下記のことについて、あなたの日常生活における行動や意識は、「はい」「いいえ」のいずれにあてはまりますか。いずれか該当する方を選んで番号に○印をつけてください。

No	質 問	回答 (いずれかに○)	
		はい	いいえ
<b>【安全・安心】</b>		はい	いいえ
1	あなたは、災害に備えて非常持出袋を用意していますか。	1	2
2	あなたは、自宅の家具転倒防止対策を行っていますか。	1	2
3	あなたは、マイタイムラインを知っていますか。 ※一人一人の防災行動計画で、台風の接近による河川の水位上昇に備えて行動する内容を、接近前から時系列に整理したもので、どのタイミングで避難するかを考えるための一助にする。	1	2
4	あなたは、幸田町に消防団があることを知っていますか。	1	2
5	あなたは、町が、“止まってくれて「ありがとう！」”をスローガンに交通安全運動を実施していることを知っていますか。	1	2
6	あなたは、日頃から防犯対策を行っていますか。	1	2
7	あなたは、身の回りの住環境が整っていると感じていますか。	1	2
8	あなたは、町内の鉄道駅は利用しやすいと感じていますか。	1	2
9	あなたは、幸田町は公園・緑地が豊かであると感じていますか。	1	2
10	あなたは、過去1年間に町内の公園・緑地を利用したことはありますか。	1	2
<b>【環境】</b>		はい	いいえ
11	あなたは、資源・ごみの分別方法を知っていますか。	1	2
12	あなたは、省エネルギーやリサイクルに心掛けていますか。	1	2
<b>【産業振興】</b>		はい	いいえ
13	あなたは、地元の農産物を購入するように心掛けていますか。	1	2
14	あなたは、町内の商店で買い物や飲食サービスを利用するように心掛けていますか。	1	2
15	あなたが町外の人に紹介したいと思う幸田町の観光資源はありますか。	1	2
<b>【健康・福祉】</b>		はい	いいえ
16	あなたは、普段から健康に心掛けていますか。	1	2
17	あなたは、かかりつけ医がいますか。	1	2
18	あなたは、日常生活の中で身近に相談できる人がいますか。	1	2
19	あなたは、地域で子どもを育む活動をしたことがありますか。	1	2
<b>【教育・文化】</b>		はい	いいえ
20	あなたは、生きがいにしているものはありますか。	1	2
21	あなたは、趣味や教養、スポーツなどの活動を楽しんでいますか。	1	2
22	あなたは、日頃から文化や芸術に触れていますか	1	2





**H. 公共交通に対する評価と新たな移動手段の検討・導入についてお聞きます。**

問 21 各公共交通並びに幸田町における公共交通全般について、あなたの評価として、最も近いものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。

利用しやすさ 交通手段	利用しやすい	どちらともいえない	利用しづらい	利用したことがない
回答例	1	②	3	4
(1) JR (幸田駅、三ヶ根駅、相見駅)	1	2	3	4
(2) タクシー	1	2	3	4
(3) コミュニティバス (えこたんバス)	1	2	3	4
(4) 福祉タクシー券	1	2	3	4
(5) 高齢者タクシー券	1	2	3	4
■幸田町における公共交通全般	1	2	3	4

問 22 幸田町では、町民の皆さまのより良い交通体系を構築するため、令和2年4月より「藤田乗合直行タクシー」、10月より「チョイソコ」をそれぞれ社会実験として導入しました。以下の問いにお答えください。

**藤田乗合直行タクシーとは？**

社会実験として、幸田町役場とJR相見駅と藤田医科大学岡崎医療センターを結ぶ「藤田乗合直行タクシー」を運行しています。平日のみの運行で、行き4便、帰り4便です。社会実験中の運賃は無料です。

**チョイソコとは？**

豊坂小学校区と深溝小学校区にお住まいの65歳以上の方又は障害者手帳をお持ちの方を対象とした乗り合いサービスです。平日の9時から16時までの運行で、豊坂エリアと深溝エリアを中心に設置されている停留所間を移動できます。複数の方の目的地、到着時刻をシステムが計算し、乗り合わせた上で目的地まで移動します。社会実験中の運賃は無料です。

問 22-1 現在、社会実験として運行されている移動手段について知っていますか。

(それぞれ1つ)

「藤田乗合直行タクシー」

1. 詳しく知っている
2. 名前くらいは知っている
3. 知らない
4. その他 ( )

「チョイソコ」

1. 詳しく知っている
2. 名前くらいは知っている
3. 知らない
4. その他 ( )

問 22-2 現在、社会実験として運行されている移動手段を利用したことがありますか。  
また、利用したいですか。(それぞれ1つ)

「藤田乗合直行タクシー」

「チョイソコ」

1. 利用したことがある
2. 利用したことはないが利用したい
3. 利用したいと思わない
4. わからない
5. その他 ( )

1. 利用したことがある
2. 利用したことはないが利用したい  
(豊坂小学校区及び深溝小学校区の方)
3. 事業拡大されれば利用したい  
(豊坂小学校区及び深溝小学校区外の方)
4. 利用したいと思わない
5. わからない
6. その他 ( )

問 22-2 で「利用したいと思わない」を選んだ理由は何ですか

1. 藤田医科大学岡崎医療センターに行く用事がない
2. 車など別の交通手段を利用する
3. 利用方法がわからない
4. その他 ( )

1. 行きたい場所に停留所がない
2. 車など別の交通手段を利用する
3. 利用方法がわからない
4. その他 ( )

## I. 人口減少対策についてお聞きします。

これまで幸田町の人口は増加してきましたが、日本全体の人口は既に減少に転じています。国立社会保障・人口問題研究所によると、今後、幸田町の人口は横ばいから減少していくと予測されています。

問 23 人口の減少に対して、町はどのように取り組むべきだと思いますか。(○は1つだけ)

1. 人口が増加するよう努力すべき
2. 現在程度の人口を維持するよう努力すべき
3. 人口減少の幅が少しでも小さくなるよう努力すべき
4. 人口減少を受け入れ、それに対応した持続可能なまちとなるよう努力すべき
5. わからない
6. その他 ( )

問 24 あなたがお住いの地域で、人口減少や少子高齢化の影響が出ている（と感じる）ことはありますか。（〇はいくつでも）

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1. 子どもの減少         | 2. 高齢者のみ世帯の増加     |
| 3. 地域の繋がり希薄化      | 4. 自治会などの担い手不足    |
| 5. 伝統的行事・祭事の維持が困難 | 6. 空き家の増加         |
| 7. 商店の閉鎖          | 8. 特に発生していない・感じない |
| 9. その他（           | ）                 |

問 25 あなたは、人口減少対策としてどのような施策が有効だと思いますか。（上位3つを選んで下欄に御記入ください）

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1. 産業の活性化           | 2. 雇用の確保や就労支援     |
| 3. 魅力あるイベントや観光資源の活用 | 4. 交通ネットワークの充実    |
| 5. 他市町村等との広域的な連携・交流 | 6. 移住・定住の促進       |
| 7. 結婚・妊娠・出産・産後への支援  | 8. 子育て環境の充実       |
| 9. 質の高い教育の提供        | 10. 医療環境の整備       |
| 11. 地域コミュニティの醸成     | 12. 自然環境の保全       |
| 13. 歴史・文化の保存・継承     | 14. 防災・防犯・交通安全の強化 |
| 15. 多様な人材が活躍する地域の推進 | 16. 生涯学習・スポーツの充実  |
| 17. その他（            | ）                 |

1位

2位

3位

**J. 幸田町の今後のまちづくりへの御意見や御提案がありましたら御記入ください。**

設問は以上です。最後まで御回答いただき、ありがとうございました。

